

TOTO

レストパル

[ご注意]

変更点(追加作業など)がございます。

底板施工方法の変更

「引越し前の点検」の後ページを参照ください。

取り付け前のご注意

変更箇所があるため×印を付けています。

巻末の<変更後>のページを参照ください。

施工説明書

L型 床排水

手洗器Mサイズ／まるごと収納タイプ(UWCAA)

手洗器Mサイズ／スリム収納タイプ(UWCAC)

手洗器Sサイズ／まるごと収納タイプ(UWCBA)

手洗器Sサイズ／スリム収納タイプ(UWCBC)

◆"ウォシュレット"はTOTOの登録商標です。

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。

本書は手洗器が左勝手を基準に説明しております。本書に記載の寸法の単位はmmです。

下記商品の取り付けは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。

(ウォシュレット・タオル掛け(壁付タイプ)・手すり・化粧鏡)



確認

商品タイプの確認 2

情報編

3

- | | |
|--------------|----|
| 1. 安全上のご注意 | 4 |
| 2. 取り付け前のご注意 | 6 |
| 3. 部品の確認 | 14 |

手順編

21

工事店様へ

試運転で必ず実施してください。

便器洗浄をして水たまり面が低下する場合

→ P78を参照

排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

※低下すると汚物付着の原因になります。

水たまり面が低下した場合は、設定変更にて対応してください。

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

→ P78を参照

取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。

お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。

取り付け後、ウォシュレットの機能、使いかたなどについてお客様にご説明をお願いいたします。

新築などお客様に引渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

商品タイプの確認

商品タイプにより施工手順が異なります。

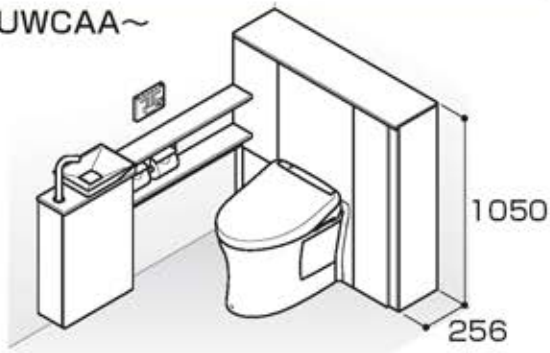
お施主様のお宅は、どのタイプですか？

手洗器タイプ

Mサイズ

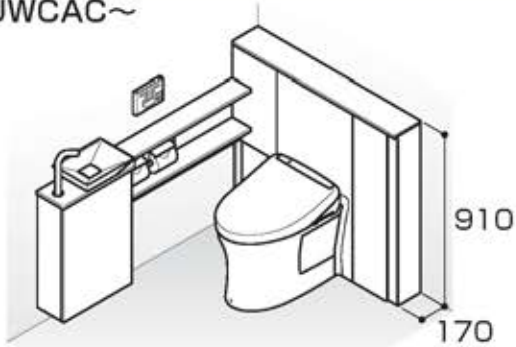
まるごと収納タイプ

品番:UWCAA~



スリム収納タイプ

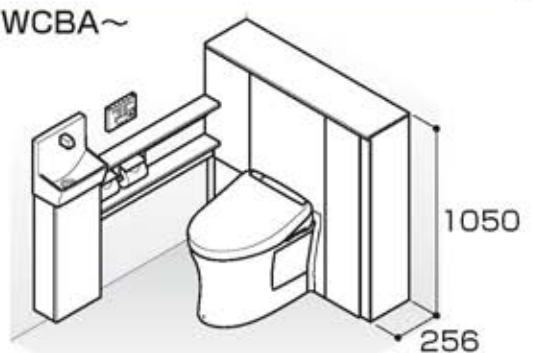
品番:UWCAC~



Sサイズ

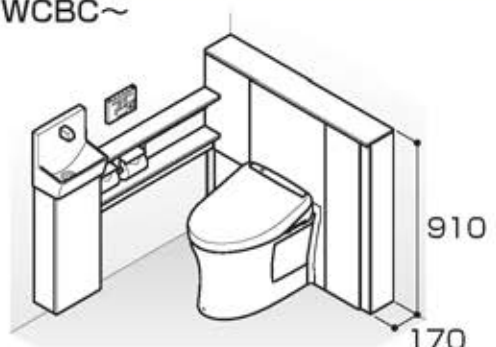
まるごと収納タイプ

品番:UWCBA~



スリム収納タイプ

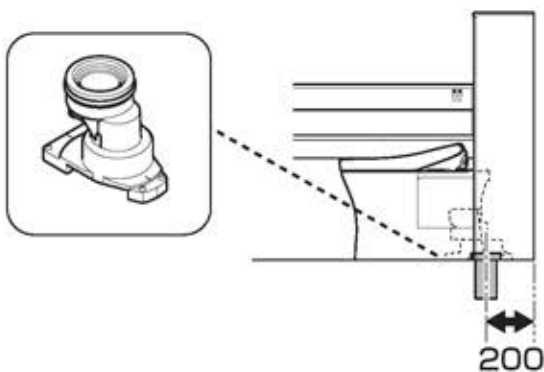
品番:UWCBC~



給排水タイプ

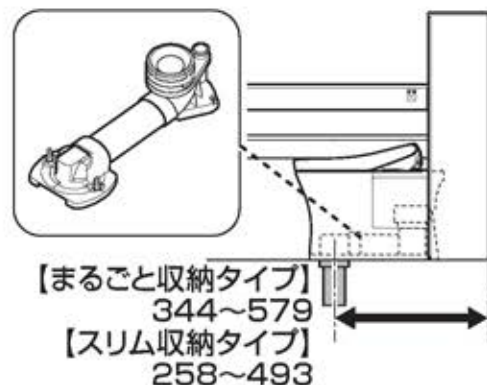
排水心200mm

給水新設 | 既存給水流用(リモデル用)



排水心可変

既存給水流用(リモデル用)



情報編

1. 安全上のご注意 ▶ 4

2. 取り付け前のご注意 ▶ 6

1	設置寸法	6
2	キャビネット扉の開閉範囲	7
3	排水位置	8
4	寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓位置	8
5	給水位置	9
6	補強材位置	10
7	電気配線	11
8	幅木	13
9	窓枠など	13
10	必要工具	13
11	壁裏補強材なしの場合のオプション品	13

3. 部品の確認 ▶ 14

1.安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。



警告

誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。



してはいけない「禁止」の内容です。



注意



誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。






必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

 分解禁止	修理技術者以外の人には絶対に分解したり、修理・改造は行わない 火災や感電の原因となります。	 ぬれ手禁止	めれた手で、電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となります。
 アース接地	アース(D種接地)工事がされていることを確認する アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電の原因となります。 アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。	 水場使用禁止	浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない キャビネット内のコンセントに水がかかり火災や感電の原因となります。 商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。
 警告	 禁止	指定する電源(交流100V)以外では使用しない 火災の原因となります。 電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。	電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいまま使用しない 火災や感電の原因となります。 ガタついているコンセントは使わない 火災や感電の原因となります。 給水および排水管の真下部にコンセントを設置しない 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。
	 禁止	屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない 取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。	器具取付用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線を通さない 火災や感電の原因となります。 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	 禁止	雷が発生しているときは、電源プラグに触れない 感電の原因となります。 ウォシュレットの給水ホースをコンセントに接触させない 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。	コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。
	 必ず守る	電源プラグは根元まで確実に差し込む 火災や感電の原因となります。 コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。	壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏を補強する 商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。 電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。
 必ず守る	取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。	工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する 商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。	

 <p>警告</p>	 <p>必ず守る</p>	<p>商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを確認する 取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p> <hr/> <p>石こうボードの場合は指定のボードアンカーを使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p> <hr/> <p>手洗器用クッション材の張り付け、シリコン系シール剤の塗布(コーキング)は確実にを行う 水などがキャビネット内に浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。</p>	<p>コンセントは水や小水がかからない位置に設置する コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。</p> <hr/> <p>機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者(電気工事士)が行う 火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。</p>
---	---	---	--

 <p>注意</p>	 <p>禁止</p>	<p>水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は使用しない 皮膚の炎症などを起こす原因となります。</p> <hr/> <p>止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない 水が噴き出し、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>商品に強い力や衝撃を与えない 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。 水漏れして、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p>	<p>給水ホースが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない 給水ホースが破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>カウンターの上に乗って作業しない カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。</p>
	 <p>必ず守る</p>	<p>給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <p>※止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください。</p> <hr/> <p>工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>カットした面は滑らかに仕上げる 滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。</p> <hr/> <p>商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。</p> <hr/> <p>商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する 商品が倒れたり落下してけがの原因となります。</p> <hr/> <p>推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。</p> <hr/> <p>凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う 凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>金属露出部や鋭利な部位を扱うときは、軍手などを使用する 取り付け時にけがをする原因となります。</p>	<p>設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>給水・排水接続に関する作業は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>給水ホースと分岐金具を正しく接続する 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>ねじ部の固定については、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する 商品が破損し、けがをする原因となります。</p> <hr/> <p>水準器を用いて水平に設置する 収納物が落下してけがの原因となります。</p> <hr/> <p>手洗器等、器具周囲のすきま処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 水が浸入し、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。</p> <hr/> <p>便器の水たまり部を見て、封水が切れていないことを確認する 封水が切れている場合に下水ガスや塩素ガス、硫化水素などによって設備・機器が腐食し、物的損害・傷害の生じるおそれがあります。</p>

2. 取り付け前のご注意

取り付け前の確認

① 取
▶
※

② 終
点
※

③ 終
点
※

このページを参照して使用してください。

外
用
て



1 設置寸法

トイレの広さは以下の寸法を確保してください。

間口

【Mサイズ】

【Sサイズ】

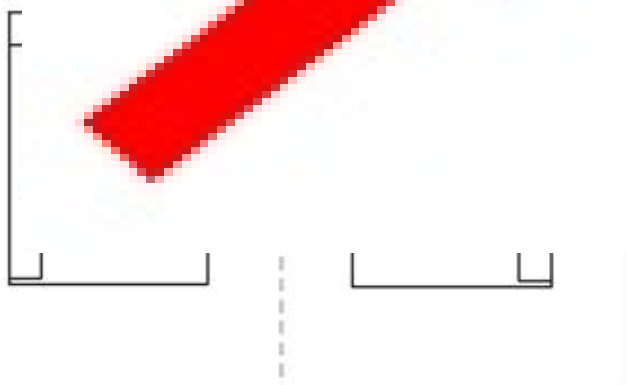
間口

・Sサ
イトイ
※まる
ため

まるこ
スリム

エン

・エ
も
【



巻末をご参照ください。

2 取り付け前のご注意

2 キャビネット扉の開閉範囲

- ・大伊器キャビネット、手洗器キャビネット扉は下図の範囲で開閉します。
- ・開閉

大便
()内



便器

MEMO

2

取り付け前の注意

3 排水位置

・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。

排水心200タイプ

排水心可変タイプ

・ま
・ま
・ま
・ま
・ま

必
●

排
水
管

●

排
水
管

※

材を別

))※

)

-

巻末をご参照ください。

4 寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓位置

・水抜栓立ち上げ可能な範囲は下図のとおりです。

※区

事

経

※

相

相

イフ
フ

イフ
フ

巻末をご参照ください。

※1 5サイズ カウンター長さ1600の場合

5 給水位置

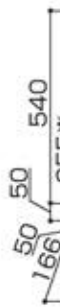
給水新設の場合

- ・ 下の位置に上下両面に給水管(φ25)を取り出してください。
- ・ 手
- ・ 寒



既存給水流用の場合

- ・ 下の領域が対応範囲となります。
 - ・ 対
 - ・ 手
 - ・ 給
 - ・ 水
- 【まる



- ・ 水
 - ・ 給
- 【まる



6

補強材位置(必ず入れる)

ねじ位置については下記URL内の「ねじ位置情報」をご覧ください。
 [URL]
<http://search.toto.jp/contents/navi/construction/wl/default.htm>



大便器キャビネット部

【後壁について】

壁
・大

壁



【横壁について】

シヨク:

(当品)

巻末をご参照ください。

手洗器部

・下図の斜線箇所(壁重)に+12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。

壁
・大

【壁



ね



巻末をご参照ください。

同柱に2本以上固定できることを確認してください。

エンドパネル部

・取
斜
【Lタ



巻末をご参照ください。

7 電気配線

定格消費電力は右表を参照してください。
(AC100V 50/60Hz共通です。)

定格消費電力	ウォシュレット		ヒーター付便器 (水抜方式)	ヒーター付タンク (水抜方式)	電気温水器	自動水栓
		1280W (F1A,F2A,F3A)	1282W (F3AW)	35W	2W	505W

コンセント設置位置 大便器キャビネット部

(一般地・流動方式のハンドル式水栓・自動水栓・電気温水器付自動水栓)
または水抜方式のハンドル式水栓・電気温水器付自動水栓の場合)

- ・コンセントは接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式コンセント(自動水栓または水抜方式の場合)は、接地用端子の付いた
- 接地
- ・既存
- ・新規
- ・向か
- ・コン
- ・コン



巻末をご参照ください。

※2 右勝手の場合

2

取り付け前の注意

コンセント設置位置 大便器キャビネット部(水抜方式の自動水栓の場合)

・コンセントは接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを2カ所設置してください。

- ・既
- ・新
- ・向
- ・上
- ・下



巻末をご参照ください。

※2 石勝手の場合

コンセント設置位置 手洗器部(電気温水器付自動水栓の場合)

・この場合は手洗器より約1.5m以上離れた接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを、手洗器より約1.5m以内の

- ・上
- ・下
- ・M

300±5(コンセント)



巻末をご参照ください。

350±5(コンセント)

← 手洗器端

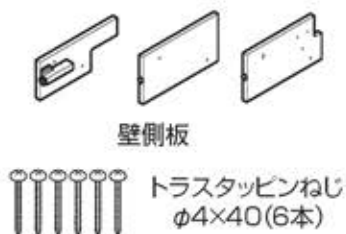
手洗器端 →

3.部品の確認

- ・専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。
- ・包装箱の内容はまるごと収納タイプ(左勝手)を基本として記載しています。

コアキャビネットセット

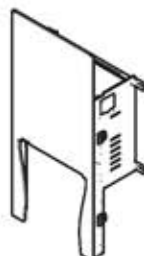
壁側板セット(手洗器設置側)



壁側板セット (手洗器設置側と反対側)



コアキャビネット



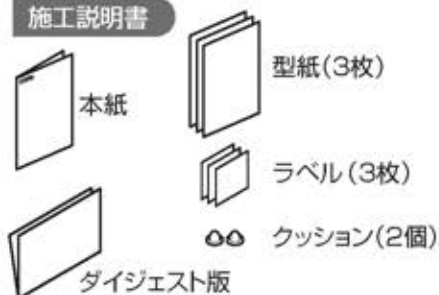
棚板セット



引き出しラック



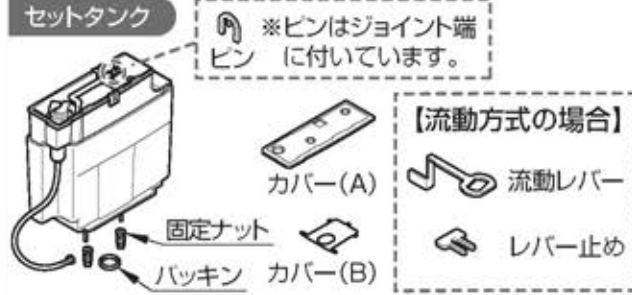
施工説明書



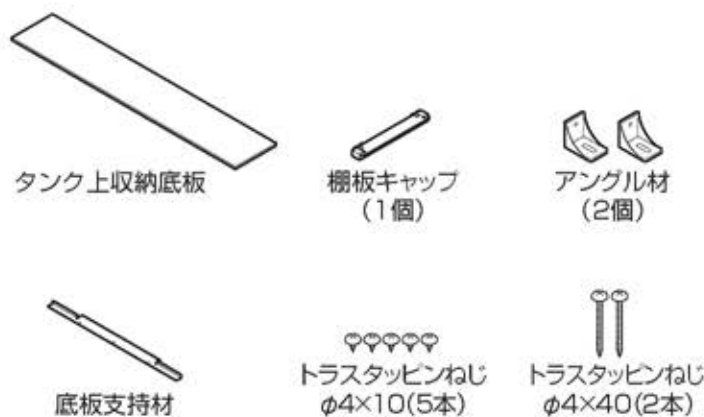
取扱説明書



セットタンク

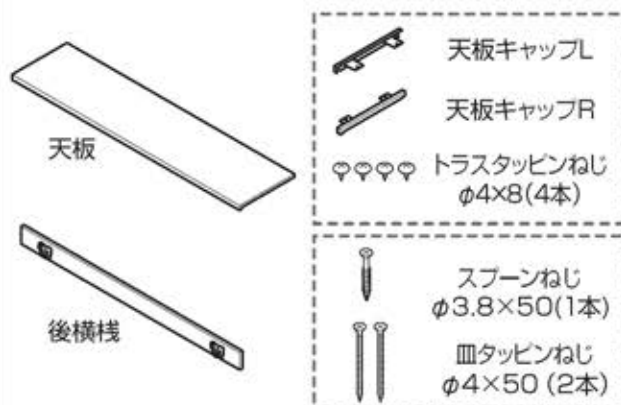


タンク上収納底板セット(まるごと収納タイプの場合)



天板セット

【手洗器なし まるごと収納タイプの場合】



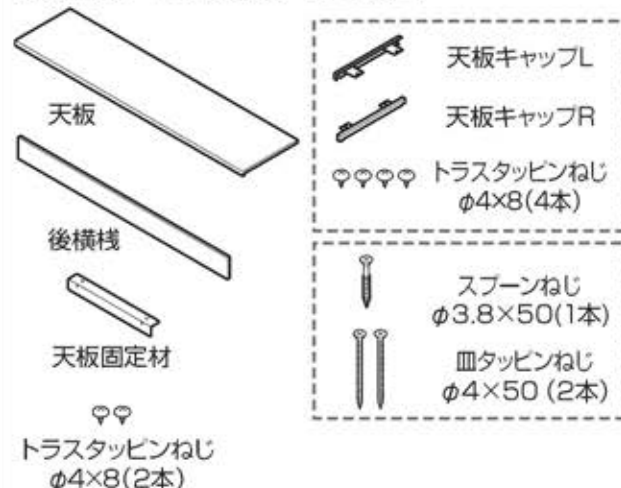
左扉セット



右扉セット



【手洗器なし スリム収納タイプの場合】



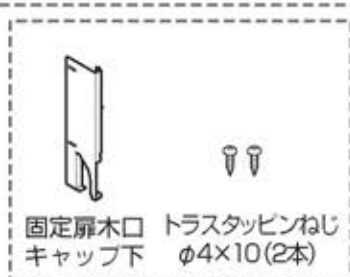
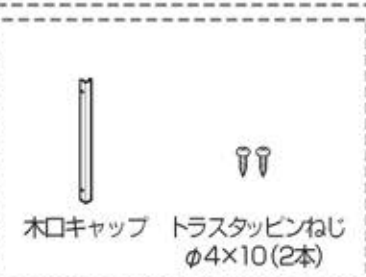
コアキャビネットセット (つづき)

扉セット(手洗器設置側)

【まるごと収納タイプの場合】



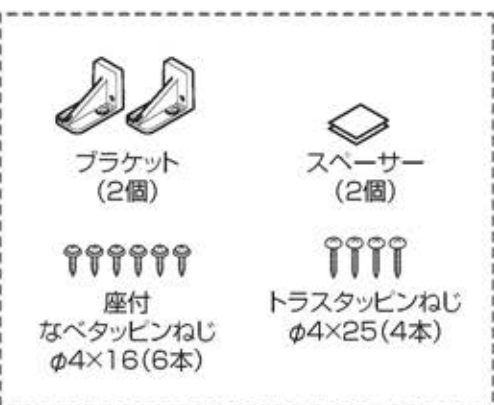
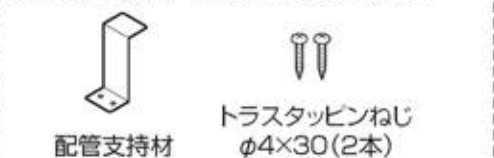
【スリム収納タイプの場合】



手洗器カウンター部材

カウンターセット

【まるごと収納タイプ排水心200の場合】

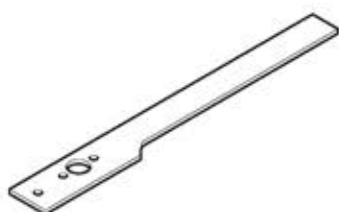


手洗器カウンター部材 (つづき)

カウンターセット(つづき)

【Mサイズの場合】

【Sサイズの場合】



上段カウンター



上段カウンター

カウンター
キャップトラスタッピンねじ
φ4×10(1本)皿タッピンねじ
φ4×40(10本)下段ブラケット
(3個)トラスタッピンねじ
φ4×20(6本)座付
なべタッピンねじ
φ4×16(6本)

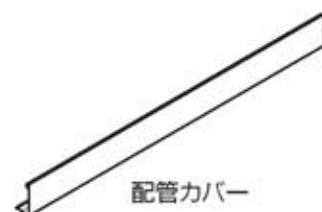
上段補強枠



下段補強枠



下段カウンター



配管カバー

手洗器キャビネット部材の詰めあわせ

分岐金具



パッキン

フレキホース(手洗器用)



ニップル

パッキン

※手洗器Mサイズ
ハンドル式水栓の場合は
ニップルは入っていません。

手洗器Mサイズのみに入っているもの

自動水栓

※自動水栓の場合



ハンドル式水栓

※ハンドル式水栓の場合



排水目皿



手洗器固定金具セット



クッション材

手洗器固定金具
(2個)取付ボルト
(2本)ワッシャー
(2個)取付ナット
(2個)

手洗器Sサイズのみに入っているもの

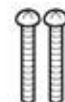
施工部材セット

固定プッシュ
(2個)

手洗器固定金具



クッション材

ホース
クランプトラスタッピンねじ
φ4×30(3本)トラス小ねじ
M5×54(2本)ワッシャー
(2個)

手洗器キャビネット部材の詰め合わせ(つづき)

自動水栓／電気温水器付自動水栓の場合

自動水栓機能部

【一般地】



【寒冷地】



コントローラー固定材



コンセントプレートカバー

※電気温水器設置の場合のみ



商品選択されている場合に入っているもの

紙巻器

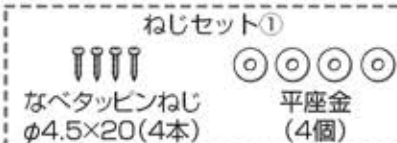
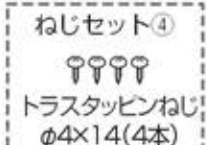
【メタル製】



〈下記の部品は使用しません〉



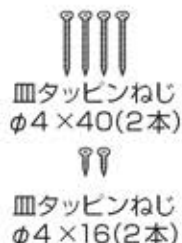
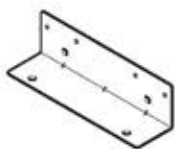
【樹脂製】 ※ねじセットの番号は各袋に記載の番号です。



〈下記の部品は使用しません〉



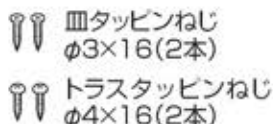
紙巻器固定材



タオル掛け

【手洗器下取付タイプ】

手洗器Mサイズの場合



手洗器Sサイズの場合



その他部材の詰めあわせ

止水栓

※止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください。

【給水新設用】



【既存給水流用】※水抜方式の場合は【床給水】を使用します。



なべ小ねじ
M4×8(2本)

座付
タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

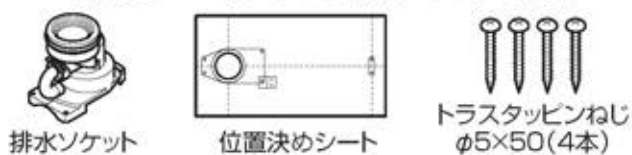
ホースクランプセット

【水抜方式の場合】

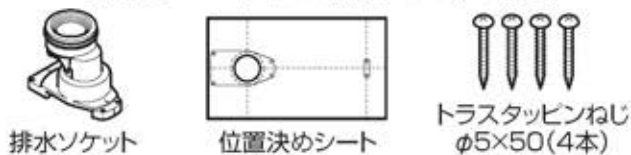


排水ソケットセット

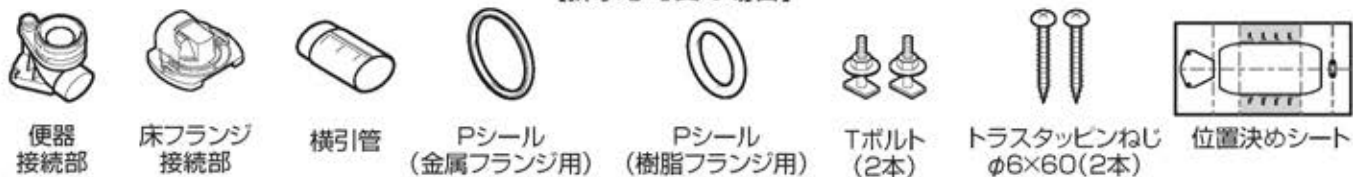
【排水心200(まるごと収納タイプ)の場合】



【排水心200(スリム収納タイプ)の場合】



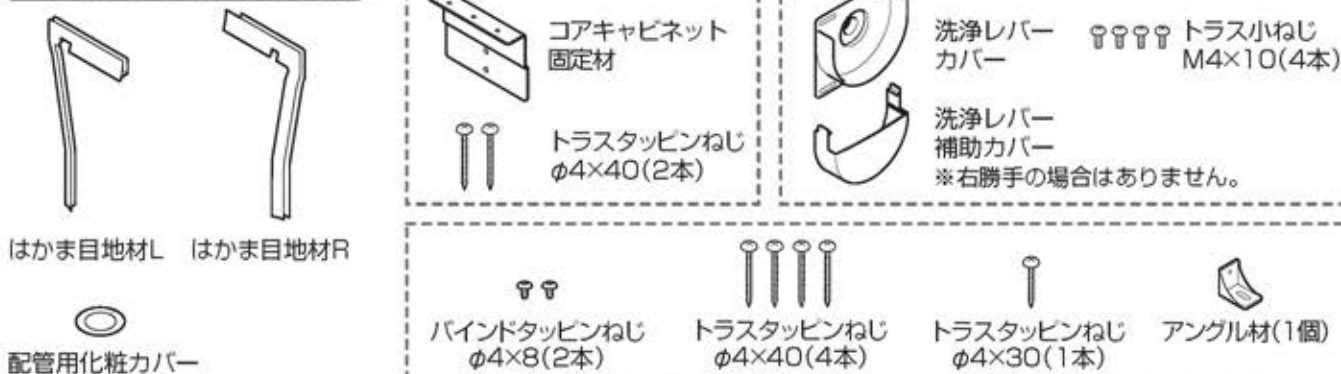
【排水心可変の場合】



天板開閉部材セット(まるごと収納タイプの場合)



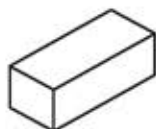
コアキャビネット付属部材セット



商品選択されている場合に入っているもの

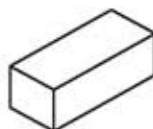
手すり

【ハンドグリップ】



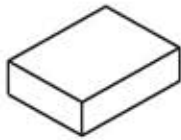
タオル掛け

【壁取付タイプ】



その他包装

ウォシュレット



分岐金具※

※ウォシュレットの箱の中に入っています。

「手順編 2.止水栓」で使します。

大便器



サイドカバー(左)



サイドカバー(右)



化粧キャップ(後)
(2個)



便器本体



固定片



皿木ねじ
φ5.8×56



木ねじ
φ4.8×63(2本)



化粧キャップ(前)

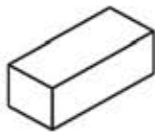


木ねじ
(固定片用)
φ5×50(2本)



ワッシャー
(後部固定用)
(2枚)

便器洗浄ユニット



便器洗浄ユニット

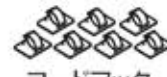
<下記部品は使用しません>



ワッシャーA



ワッシャーB



コードフック
(7個)



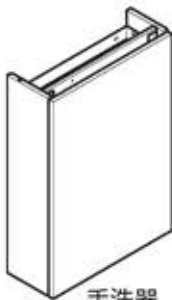
サンドペーパー

手洗器セット

【Mサイズの場合】



手洗器キャビネット(手洗器Mサイズの場合)



手洗器
キャビネット



固定ねじ
φ4.5×50(4本)



トラスタッピンねじ
φ4×20(2種)
(1本)



トラスタッピンねじ
φ4×20(2本)



化粧キャップ
(4個)



コンセントカバー

【Sサイズの場合】



背板



キャビネット
カバー

手洗器キャビネット (手洗器Sサイズの場合)



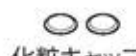
手洗器
キャビネット



固定ねじ
φ4.5×50(2本)



トラスタッピンねじ
φ4×20(2本)



化粧キャップ
(2個)

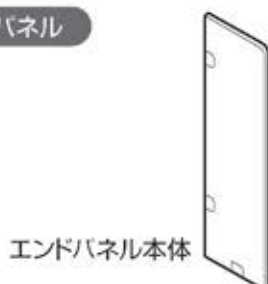


キャビネット
カバー

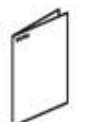
その他包装 (つづき)

商品選択されている場合に入っているもの

エンドパネル



電気温水器



【手洗器Mサイズの場合】



〈下記部品は使用しません〉

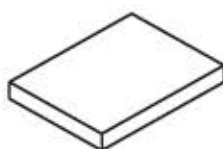


【手洗器Sサイズの場合】



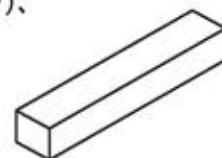
化粧鏡

【アルミフレームタイプ、木製フレームタイプ】



手すり

【インテリア・バー(コンテンポラリタイプ)、天然木手すり】



MEMO

手順編

0.エンドパネル(オプション) ▶22	6.セットタンク ▶38
1.固定金具 ▶23	7.コアキャビネット ▶39
2.止水栓 ▶24	8.後横棧・壁側板 ▶41
3.L型壁側板 ▶30	9.ウォシュレット ▶43
4.排水部材 ▶31	10. 棚板 ▶46
5.大便器 ▶36	11.扉 ▶48
	12. 固定扉 ▶50

	手洗器サイズ	Mサイズ	Sサイズ
13.手洗器キャビネット・カウンター		▶51	▶63
14. 手洗器		▶58	▶71
15.試運転・確認			▶76
16.流動レバー			▶80
17.給水フィルターの清掃			▶80
18.天板			▶81
19.器具類			▶84
20.仕上げ			▶85
引渡し前の点検			▶裏表紙

マーク表示について



寒冷地仕様の場合を示します。



手締めで

電動ドライバー使用禁止です。手締めしてください。



下穴

下穴をあけてください。(例:φ3の場合)



シール

シールテープを巻いてください。



カット

カットしてください。



ボードアンカー

ボードアンカーを差し込んでください。



けがき

けがきをしてください。



水平確認



垂直確認

水準器で水平・垂直確認してください。

0.エンドパネル(オプション) 【エンドパネルがない場合】 P.23「1.固定金具」から作業してください。

1 アングル材の取り付け

▶P.22

2 エンドパネルの取り付け

▶P.22

1 アングル材の取り付け

① トラストッピンねじ $\phi 4 \times 12$ (6本)

手締めで

2 エンドパネルの取り付け

間口寸法Wの測定範囲

トラストッピンねじ $\phi 4 \times 30$ (9本)

② けがき → 下穴 $\phi 3$

間口寸法W 18

③

【幅木がある場合】

① 幅木分カット

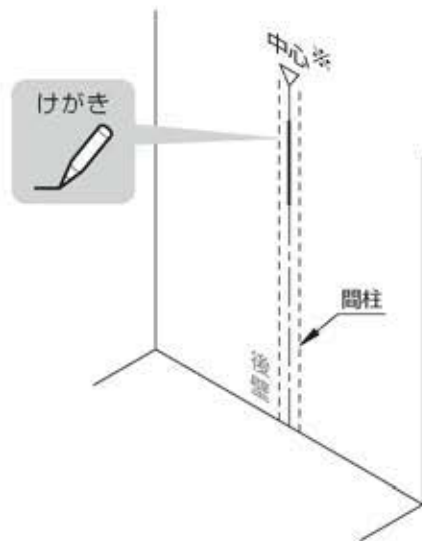
1. 固定金具

1

固定金具

1 固定金具の取り付け

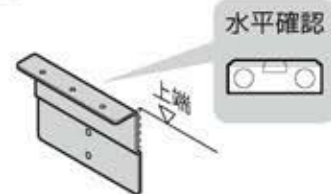
- ①
- ※【壁裏補強なしの場合】
間柱中心
 - 【壁裏補強ありの場合】
間口中心



注意

固定金具の水平が出ていないと、キャビネット全体が傾き、扉の開閉ができなくなる可能性があります

- ② 上端の高さをあわせる



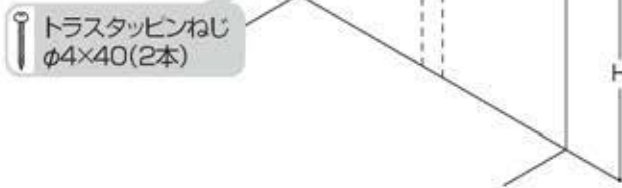
- ③

けがき → 下穴



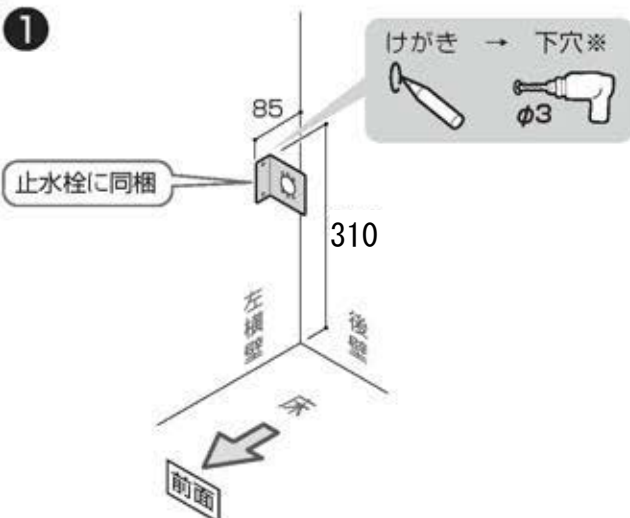
- ④

トラスタッピンねじ
φ4×40(2本)

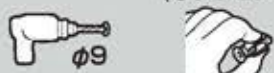


タイプ	H
スリム収納タイプ	825
上記以外	790

既存給水流用の場合



- ※【下地が石こうボードの場合】
下穴 → ボードアンカー
(オプション)



給水新設

既存給水流用

2. 止水栓

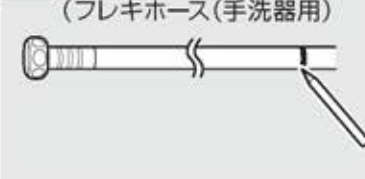
【給水新設】タイプと【既存給水流用】タイプで施工方法が異なります。商品タイプをご確認のうえ、作業を進めてください。

1 止水栓・分岐金具の取り付け



▶ P.24

2 ホースクランプの固定位置マーク付け



▶ P.24

3 フレキホース(手洗器用)の取り付け



▶ P.25

給水新設

▶ P.26 一般地/流動方式
▶ P.28 水抜方式

▶ P.26 一般地/流動方式
▶ P.28 水抜方式

▶ P.27 一般地/流動方式
▶ P.29 水抜方式

給水流用

給水新設

1 止水栓・分岐金具の取り付け

ポイント

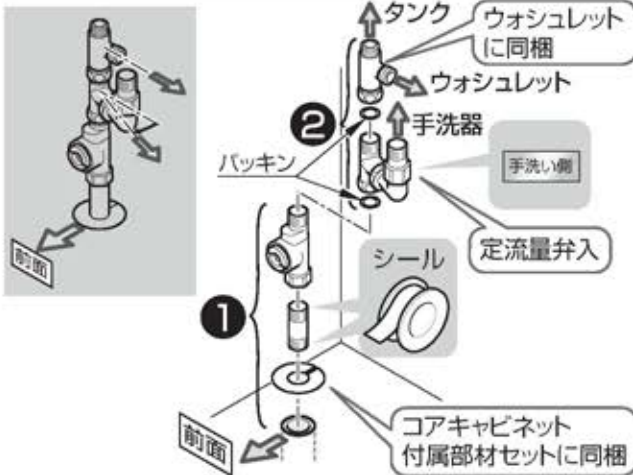
左右勝手とも取り付け位置は正面向かって左

注意

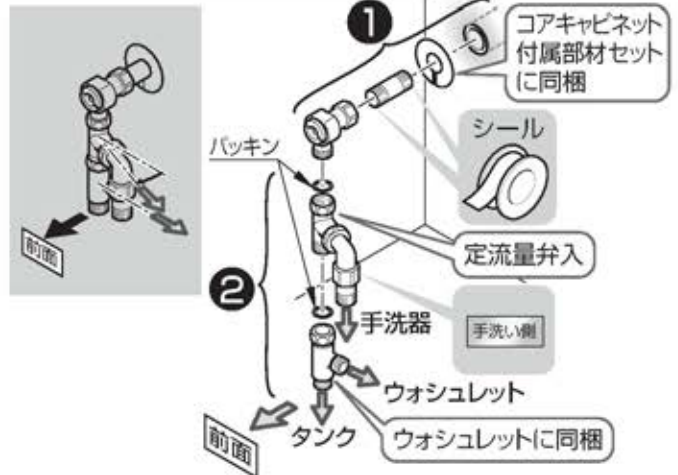
止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください

設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

床給水

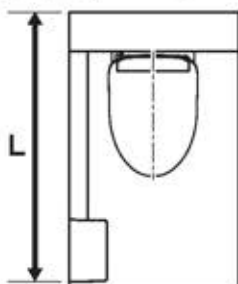


壁給水

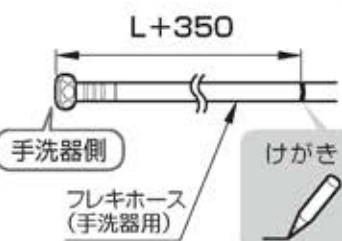


2 ホースクランプ固定位置マーク付け(フレキホース(手洗器用))

奥行寸法Lの測定範囲

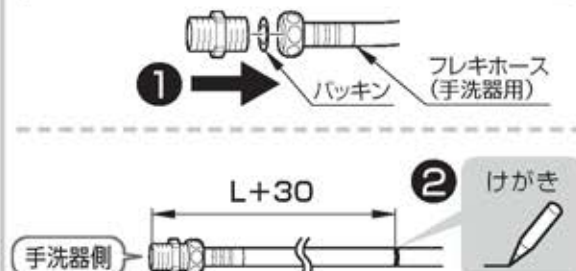


手洗器Mサイズ ハンドル式水栓



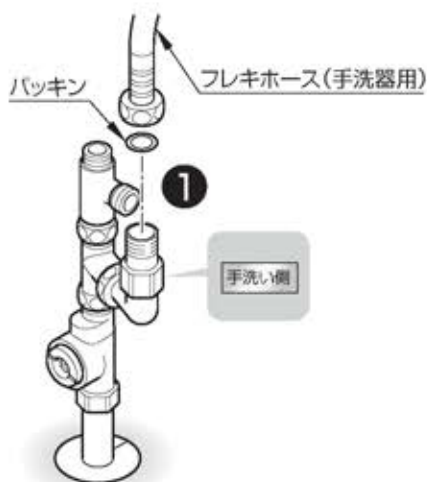
手洗器Mサイズ 自動水栓

手洗器Sサイズ

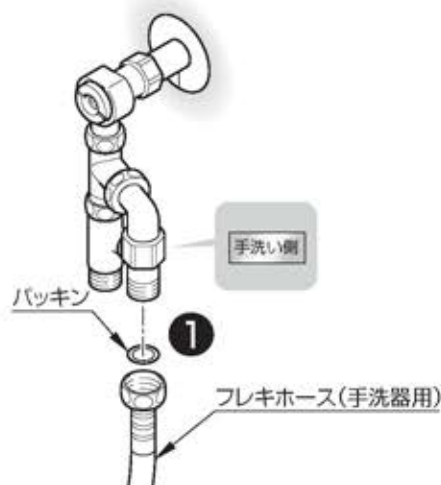


3 フレキホース(手洗器用)の取り付け

床給水



壁給水



- 2 ホースクランプ(配管部材セットに同梱)で固定する
※フレキホース(手洗器用)の取り回しは下欄参照



フレキホース(手洗器用)の取り回し例

全タイプ共通 注意事項・マーク説明

警告



禁止

ホースは電源プラグ・コンセントの上を通したり、電源プラグ・コンセントに接触させたりしない

結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

- : ホース固定位置 (マーク箇所を固定)
○: ホース固定位置 (任意の箇所を固定)
- : ホース取り回し範囲

水抜方式の場合

※ホース取り回しは床から175mm以上確保してください。(水が抜けず、凍結する場合があります。)

※下図は間口750mmの場合です。

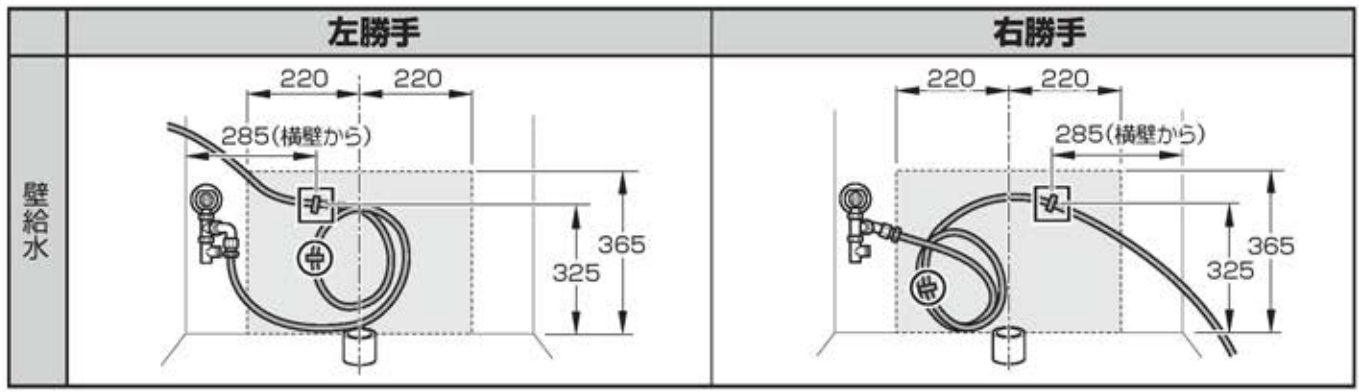
間口寸法751mm以上の場合、下図を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。

床給水

	左勝手	右勝手
一般地 流動方式		
水抜方式		

給水新設 | 既存給水流用

壁給水

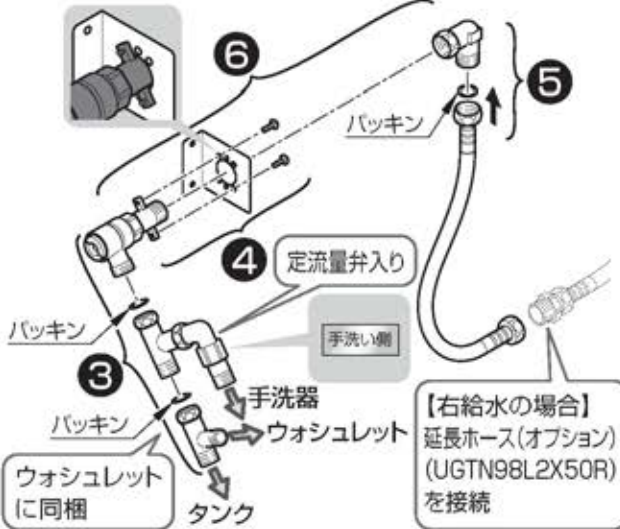


既存給水流用 一般地 / 流動方式

1 止水栓・分岐金具の取り付け

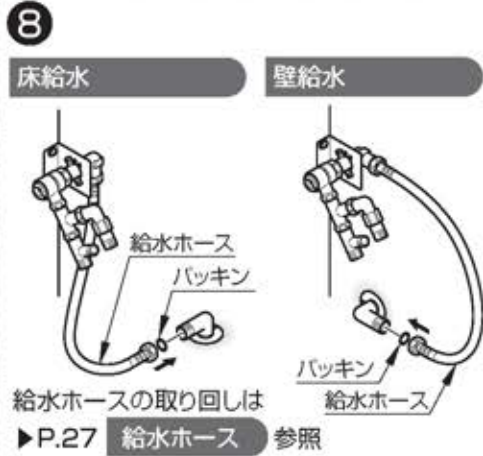
- 1 床給水
 - 短辺側シール
 - コアキャビネット付属部材セットに同梱
- 壁給水
 - 短辺側シール
 - コアキャビネット付属部材セットに同梱

注意
 止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。設置しただけの場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。



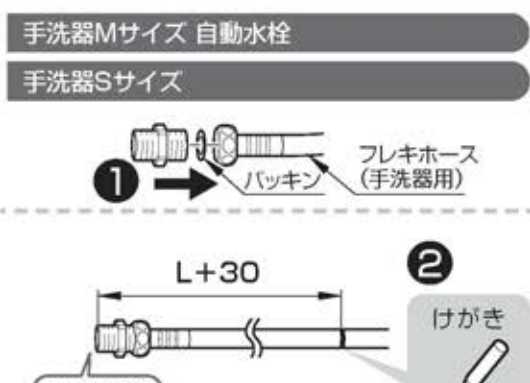
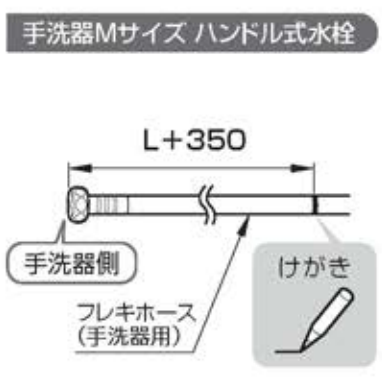
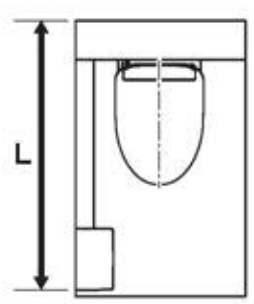
- 2 なべ小ねじ M4×8 (2本)
- 3 はずす (Remove)

- 7 座付タッピンねじ $\phi 4.5 \times 38$ (2本)
 【エンドパネルに壁側板を取り付けている場合】
必ず使用
 「エンドパネル」に同梱
 トラストタッピンねじ $\phi 4 \times 12$ (2本)

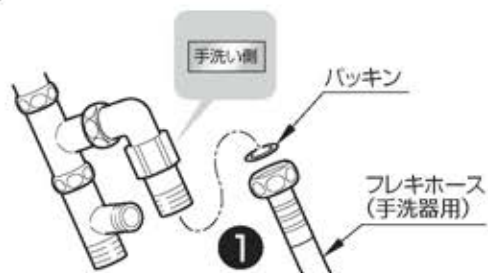


2 ホースクランプ 固定位置マーク付け (フレキホース(手洗器用))

奥行寸法Lの測定範囲



3 フレキホース(手洗器用)の取り付け



② ホースクランプ(配管部材セットに同梱)で固定する

フレキホース(手洗器用)の取り回しは

▶P.28 **フレキホース(手洗器用)** 参照



給水ホース・フレキホース(手洗器用)の取り回し例

給水ホース

	左給水	右給水
壁給水	<p>止水栓より下にある</p> <p>止水栓より上にある</p> <p>R60以上</p> <p>給水取出口</p> <p>止水栓に近い</p> <p>R60以上</p>	<p>580</p> <p>延長ホース(UGTN98L2X50R)</p> <p>※給水位置が床仕上げ面から355mm以上の場合は、棚板が取り付けできません。</p>
床給水	<p>約20°</p> <p>約20°</p> <p>便器側に向ける</p>	<p>約20°</p> <p>約20°</p> <p>便器側に向ける</p> <p>延長ホース(UGTN98L2X50R)</p>

給水新設

既存給水流用

既存給水流用 一般地 / 流動方式

フレキホース(手洗器用)

警告



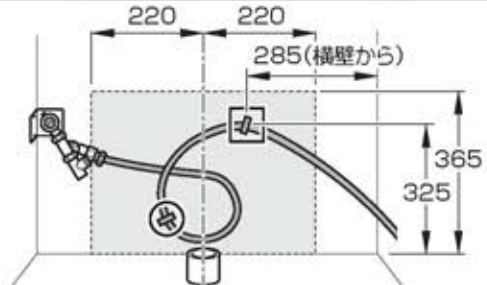
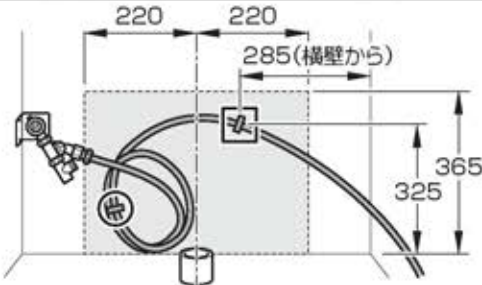
ホースは電源プラグ・コンセントの上を通したり、電源プラグ・コンセントに接触させたりしない
結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

□: ホース固定位置 (マーク箇所を固定)
○: ホース固定位置 (任意の箇所を固定)

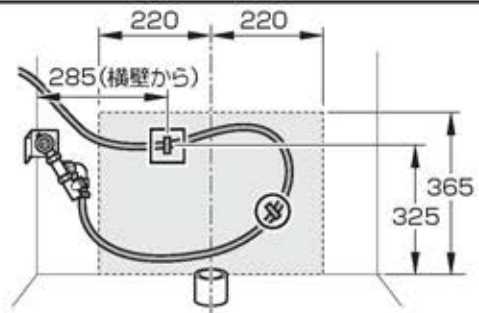
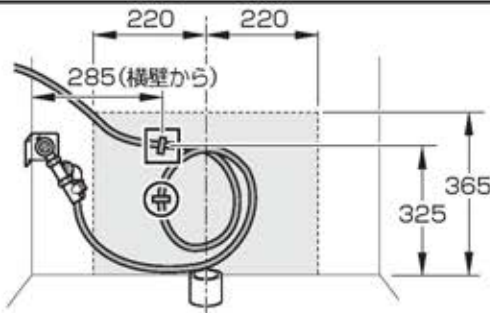
間口寸法750mmの場合

間口寸法960mmの場合

右勝手



左勝手



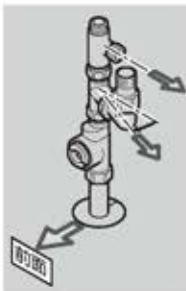
既存給水流用 水抜方式

1 止水栓・分岐金具の取り付け

注意

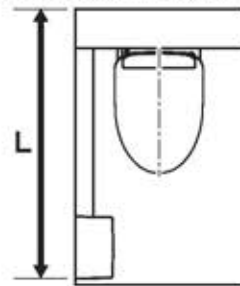
止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください
設置しただけの場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

※図は止水栓が左側にある場合

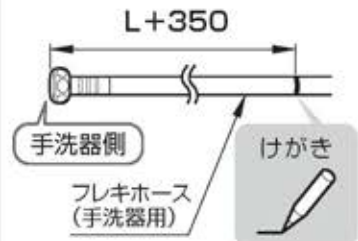


2 ホースクランプ固定位置マーク付け(フレキホース(手洗器用))

奥行寸法Lの測定範囲

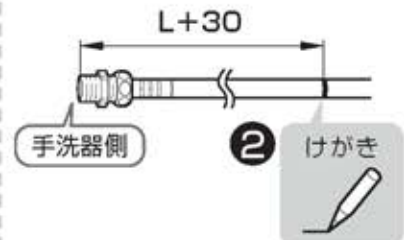
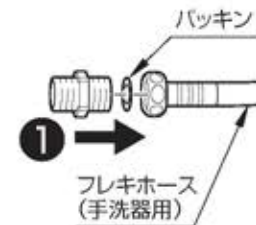


手洗器Mサイズ ハンドル式水栓

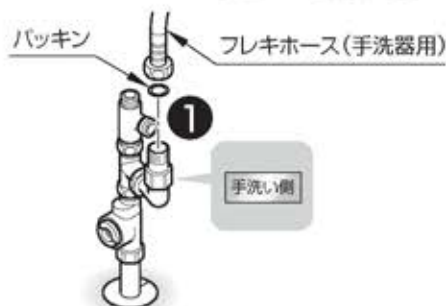


手洗器Mサイズ 自動水栓

手洗器Sサイズ



3 フレキホース(手洗器用)の取り付け



② ホースクランプ(配管部材セットに同梱)で固定する
フレキホース(手洗器用)取り回しは下欄参照



フレキホース(手洗器用)の取り回し例

□: ホース固定位置
(マーク箇所を固定)

■: ホース取り回し範囲

○: ホース固定位置
(任意の箇所を固定)

*ホース取り回しは床から
175mm以上確保してください。
(水が抜けず、凍結する場合があります。)

警告



禁止

ホースは電源プラグ・コンセントの上
を通したり、電源プラグ・コンセント
に接触させたりしない

結露水などにより、電源コンセントに水がか
かり、火災や感電の原因となります。

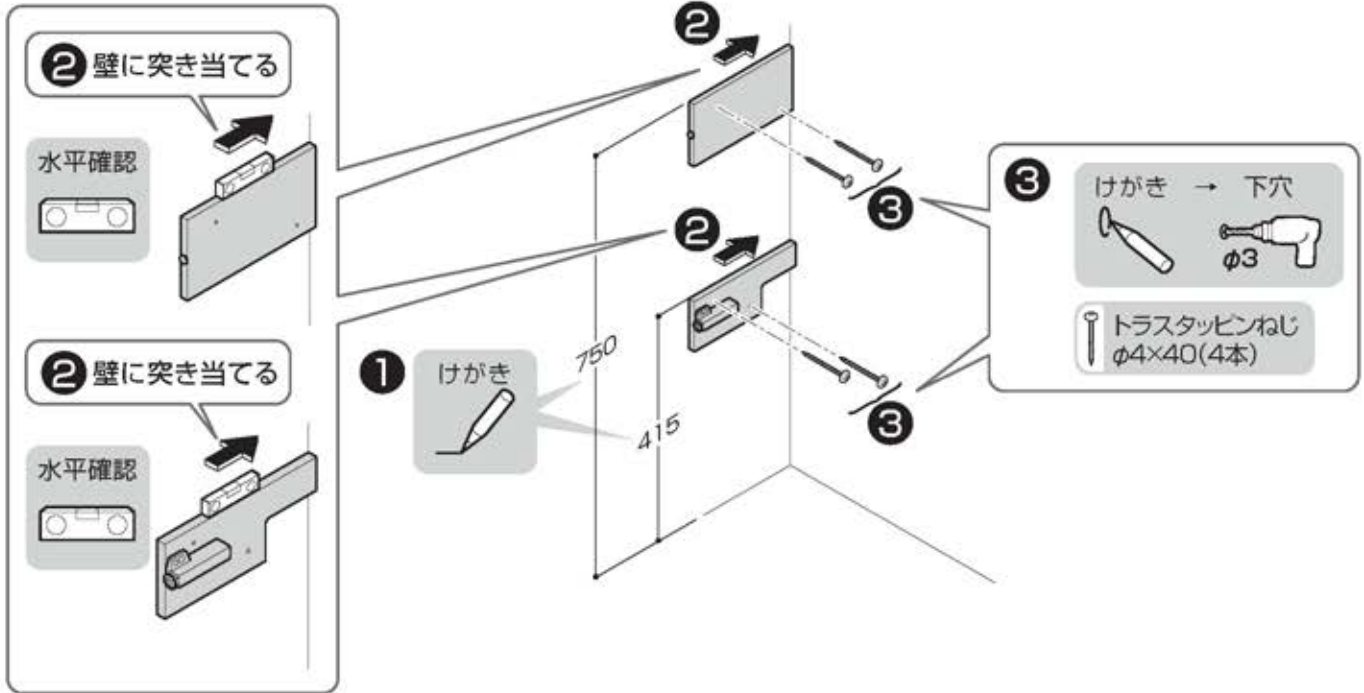
		間口寸法750mmの場合	間口寸法960mmの場合
右勝手 水抜方式	給水が左側		
	給水が右側		
左勝手 水抜方式	給水が左側		
	給水が右側		

排水心 200mm

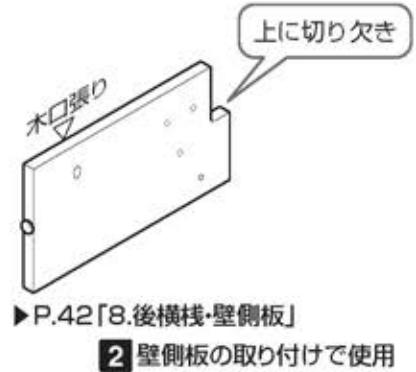
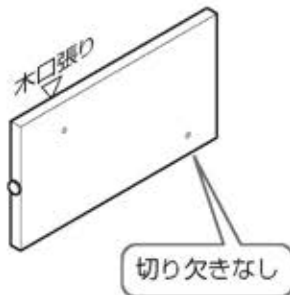
排水心可変

3.L型壁側板

1 L型壁側板の設置



L型壁側板の種類



MEMO

4.排水部材

【排水心200mmの場合】と【排水心可変の場合】で施工方法が異なります。商品タイプをご確認のうえ、作業を進めてください。

排水心200mmの場合

1 排水ソケットの取り付け



▶P.31

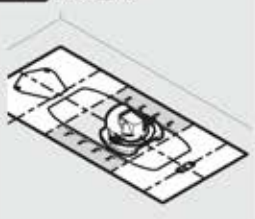
2 手洗器排水ホースの取り付け



▶P.32

排水心可変の場合

1 床フランジ接続部の仮置き



▶P.33

2 排水ソケットの組み立て



▶P.34

3 排水ソケットの取り付け



▶P.34

4 手洗器排水ホースの取り付け



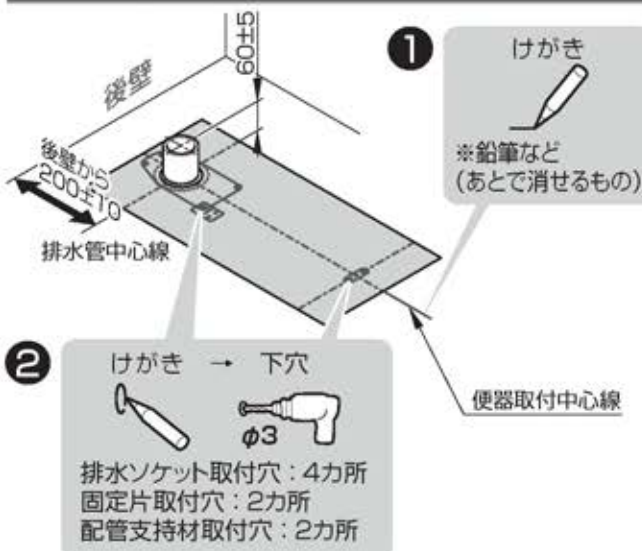
▶P.35

排水心200mmの場合

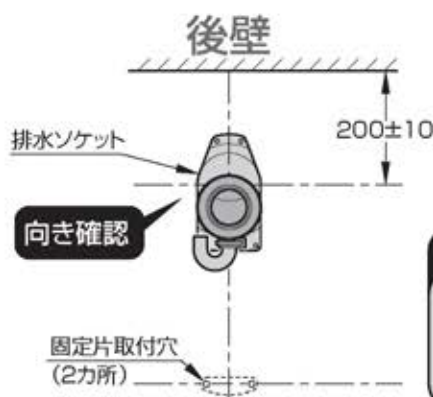
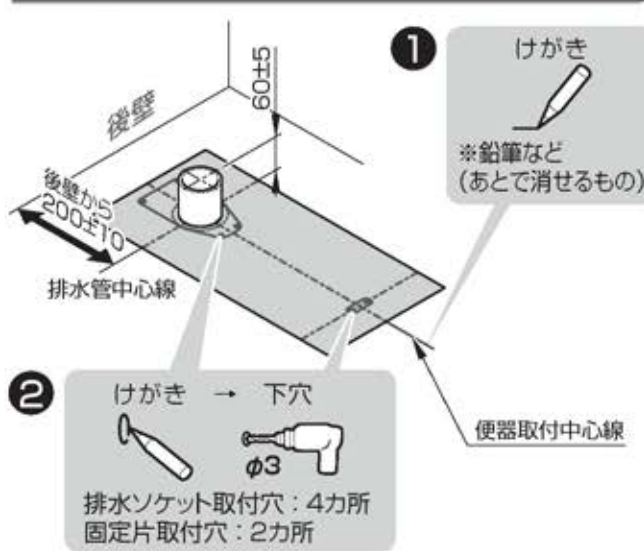
1 排水ソケットの取り付け

※位置決めシートの配置は図を参照ください。

まるごと収納タイプ

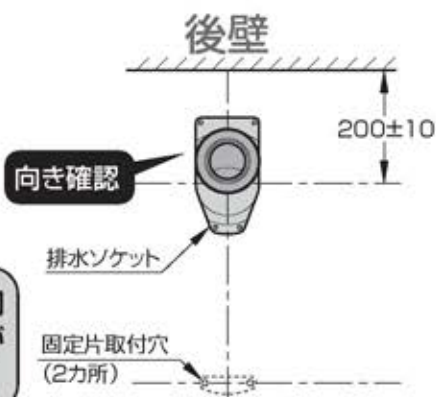


スリム収納タイプ



注意

排水ソケットを間違った方向に取り付けると、便器の施工ができなくなります。



排水心 200mm | 排水心可変

排水心200mmの場合

まるごと収納タイプ/スリム収納タイプ 共通

③

【VP/VU75】

【VP/VU100】



⚠ 注意

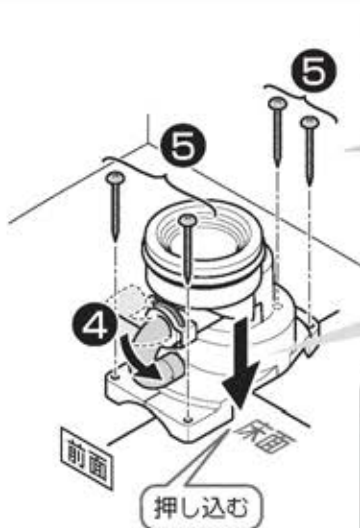


必ず守る

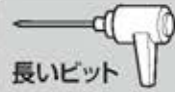
接着剤は必ず、排水socketと排水管の両方の正しい位置に塗布する
水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。

まるごと収納タイプ

スリム収納タイプ



トラストッピンねじ $\phi 5 \times 50$ (4本)



・排水管の切断面のバリ、汚れは必ず除去すること
・けがいた穴位置、中心線にあわせる

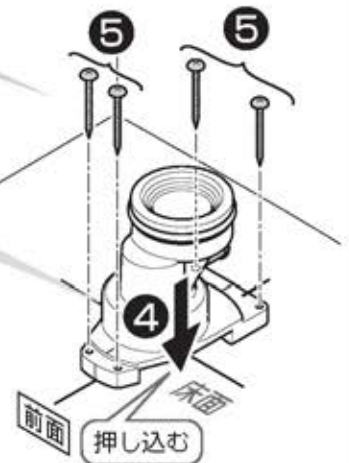
⚠ 注意



必ず守る

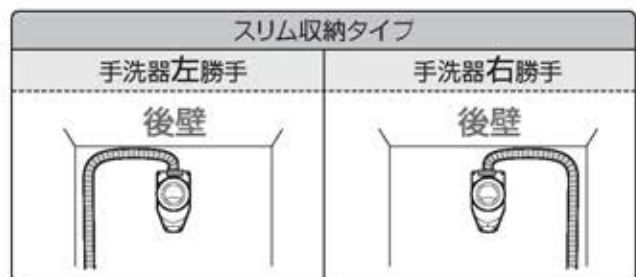
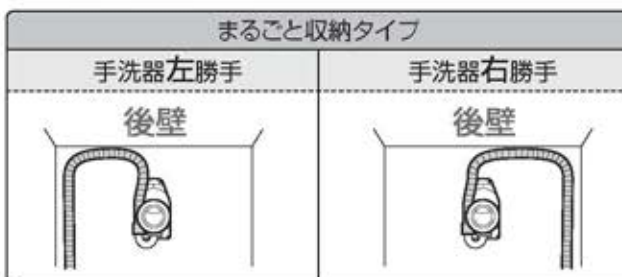
排水socketは下面が床面に
あたるまで押し込む
水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。

トラストッピンねじ $\phi 5 \times 50$ (4本)



2 手洗器排水ホースの取り付け

手洗器排水ホース取り回し



排水心200mmの場合

まるごと収納タイプ

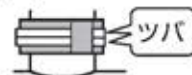


スリム収納タイプ



注意

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する



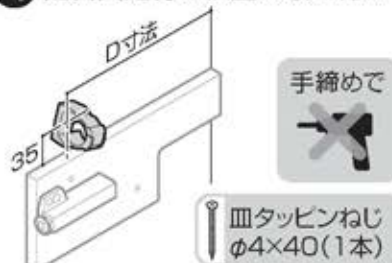
必ず守る

クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

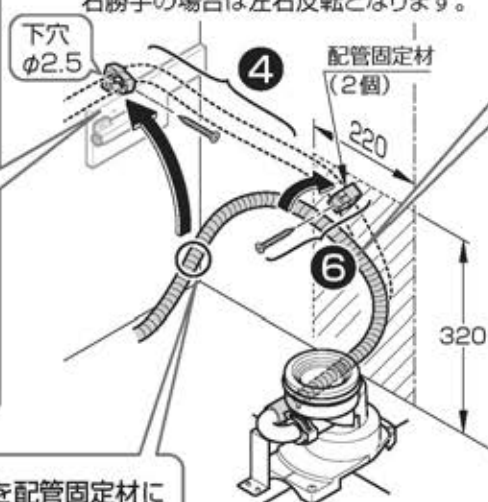


まるごと収納タイプ/スリム収納タイプ

4 配管固定材を横壁に取り付け



※図は手洗器が左勝手の場合です。右勝手の場合は左右反転となります。



6 配管固定材を後壁(斜線範囲内)に取り付けて、ホースを固定

皿タッピンねじ
φ4×40(1本)

逆勾配注意

手洗器排水ホースがたるまないように固定する
手洗器から異音発生のおそれがあります。



【下地が石こうボードの場合】
下穴 → ボードアンカー
(オプション)

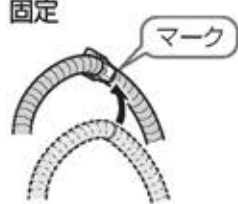


水漏れ確認

接続後、すぐに水漏れ確認する



5 ホースを配管固定材に固定



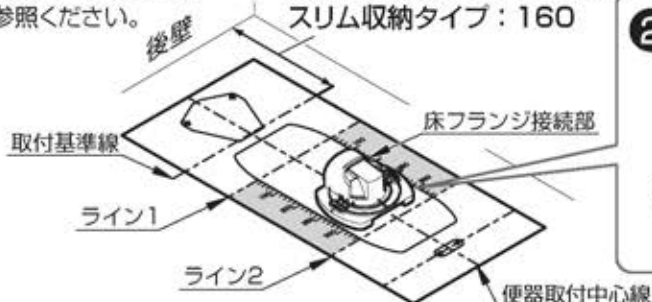
排水心可変の場合

1 床フランジ接続部の仮置き

1 既設の便器を外し、Pシールを取り除く

※位置決めシートの配置は図を参照ください。

まるごと収納タイプ：246
スリム収納タイプ：160



2 床フランジ接続部を既設フランジの上に仮置き



排水心 200mm 排水心可変

2 排水ソケットの組み立て

① 同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する



注意

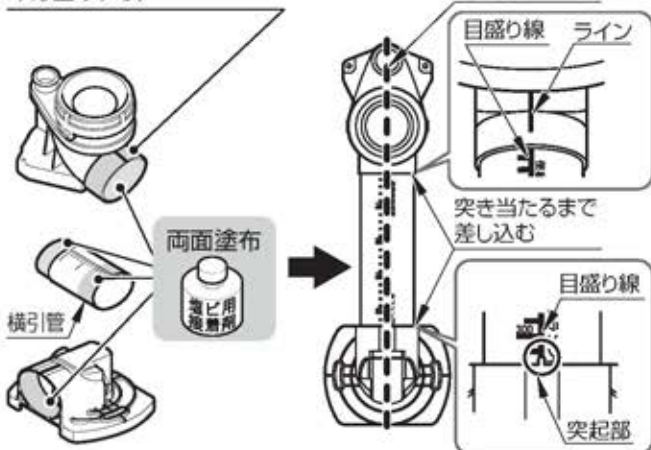
切断後、バリを取り除く
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。



【ライン1の場合】横引管は不要
【ライン2の場合】横引管のカットは不要

② 排水ソケットの組み立て

【横引管を使用しない場合】
この面にも塩ビ用接着剤を十分塗布する。



② 床フランジ接続部を仮置きして、ガタツキがないか必ず確認する

注意

横引管は中心をあわせ、最後まできちんと押し込む

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

必ず守る

床面に対してガタツキがないように接着する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

3 排水ソケットの取り付け

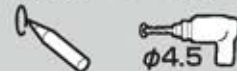
※位置決めシートの配置は図を参照ください。

まるごと収納タイプ：246
スリム収納タイプ：160



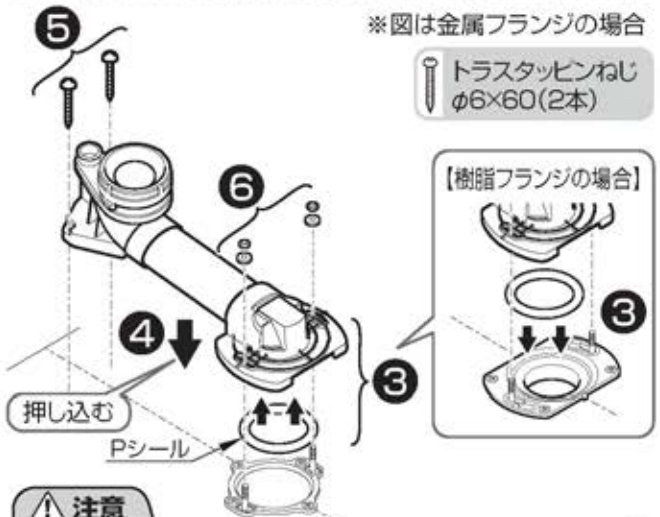
②

けがき → 下穴



排水ソケット取付穴：2カ所
固定片取付穴：2カ所

けがき ※鉛筆など (あとで消せるもの)



※図は金属フランジの場合

トラスタッピンねじ φ6×60(2本)

注意

Pシール取り扱い上の注意

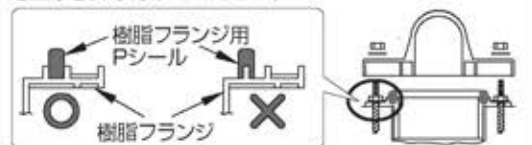
- 既設の床フランジのタイプにあわせ、金属フランジ用Pシールまたは、樹脂フランジ用Pシールを使用する
- 既設のフランジタイプによって、Pシールの取付方法が異なるので注意する

Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり、汚水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

(樹脂フランジ用)

Pシールは必ずフランジ側にセットしてから、排水ソケットを上から押し付けてください。

必ず守る



Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

(金属フランジ用)

Pシールは必ず床フランジ接続部(排水アジャスター)にはめてから、フランジに押し付けてください。

(床フランジ接続部裏面)

※図は金属フランジの場合
Pシール



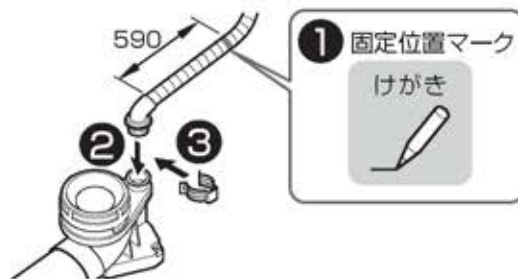
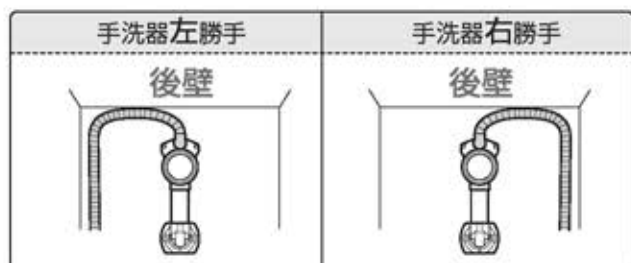
注意

斜線内にはみ出させない

排水心可変の場合

4 手洗器排水ホースの取り付け

手洗器排水ホース取り回し



注意



必ず守る

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する
クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

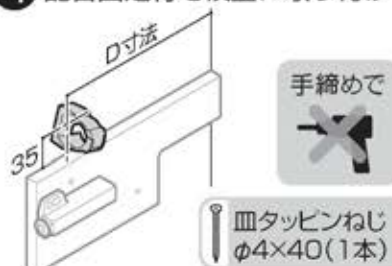


ツバ



※図は手洗器が左勝手の場合です。右勝手の場合は左右反転となります。

4 配管固定材を横壁に取り付け



手締めで

皿タッピンねじ
φ4×40(1本)

	D寸法
スリム収納タイプ	95
まるごと収納タイプ	180

下穴
φ2.5配管固定材
(2個)

4

220

【下地が石こうボードの場合】

下穴 → ボードアンカー
(オプション)

6 配管固定材を後壁(斜線範囲内)に取り付けて、ホースを固定

皿タッピンねじ
φ4×40(1本)

320

逆勾配注意

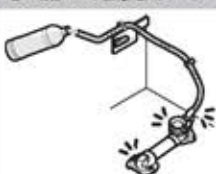
手洗器排水ホースがたるまないように固定する

手洗器から異音発生のおそれがあります。



水漏れ確認

接続後、すぐに水漏れ確認する



5 ホースを配管固定材に固定

マーク



MEMO

5. 大便器

手順は排水心200mmのイラストで記載しています。

1 大便器固定の準備

▶ P.36

2 大便器の固定

▶ P.36

【排水心200mmの場合】



【排水心可変の場合】



1 大便器固定の準備

便器の排水穴を持つ

ポイント
床にけがいた印と便器前方の穴をあわせる

木ねじ $\phi 5 \times 50$ (2本)

注意
けがき → 下穴 (大便器を外す) $\phi 3$

結露防止カバー (取り外さない)

注意
締め過ぎて便器を割らないこと

化粧キャップ(後)
ワッシャー
向きに注意

木ねじ $\phi 4.8 \times 63$ (2本)

便器の排水穴を持つ

皿木ねじ $\phi 5.8 \times 56$ (1本)

ポイント
床にけがいた印と便器前方の穴をあわせる

注意
必ず実行

便器後部の固定を必ず先に行う
前側の固定を先に行うと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

2 大便器の固定

1 排水口、排水ソケットの接続部周辺の汚れ除去
(便器の後ろ図)

ゴムジョイント

便器の排水口

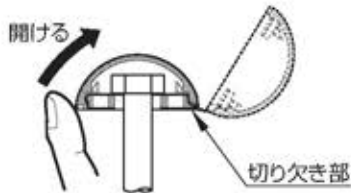
注意

最後の締め増しは、手締めにより行い、大便器を割らないように注意すること

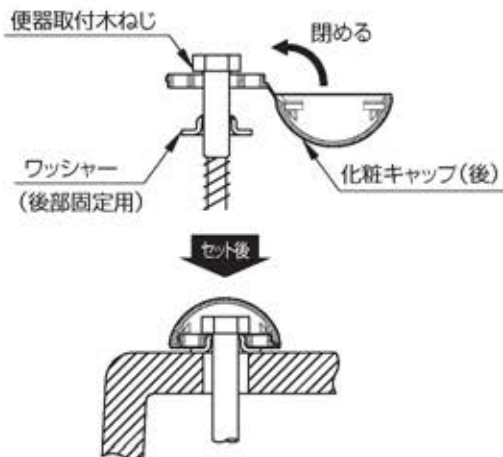
化粧キャップ付きねじの固定方法

【取り付けかた】

- 化粧キャップを開ける
木ねじを手で持ち、切り欠き部をよけて化粧キャップの下部を矢印の方向に指で押し上げる。

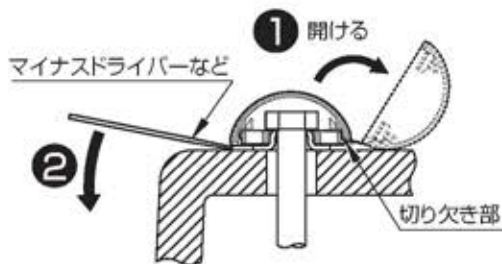


- 木ねじを取り付け後、化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで押し込む。



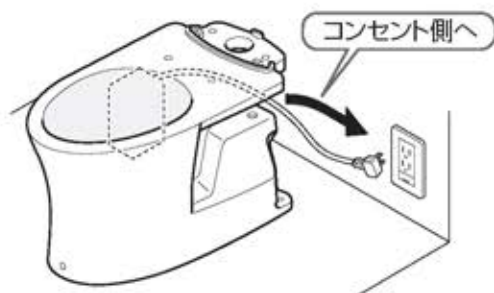
【取り外しかた】

化粧キャップの切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。



ヒーター付便器の場合

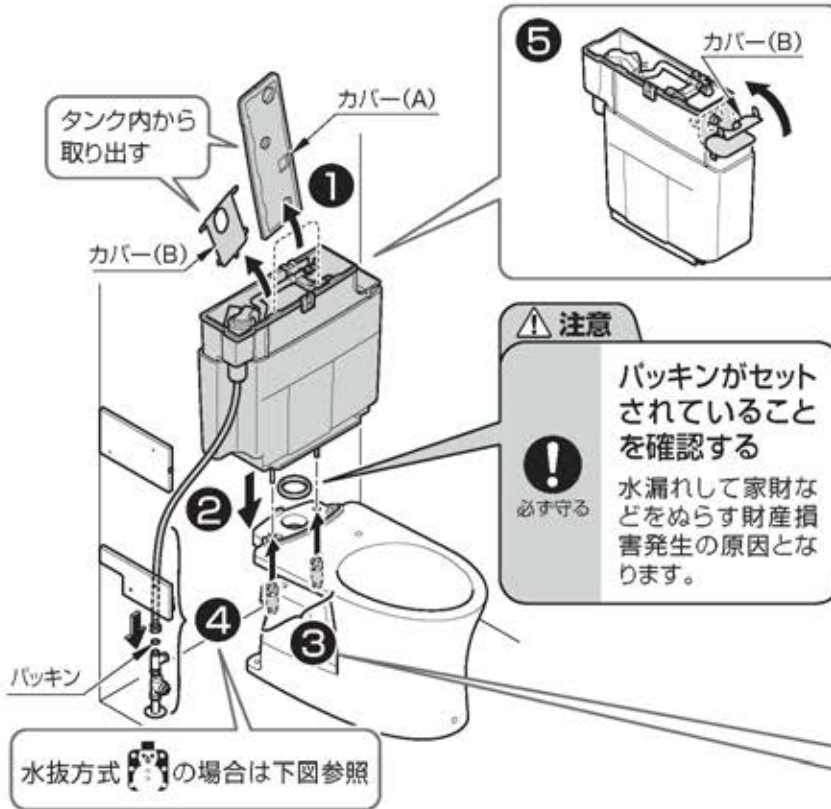
電源コード取り回し



MEMO

6. セットタンク

1 セットタンクの取り付け



固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意

固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う
 工具を使用すると破損するおそれがあります。

⚠ 注意

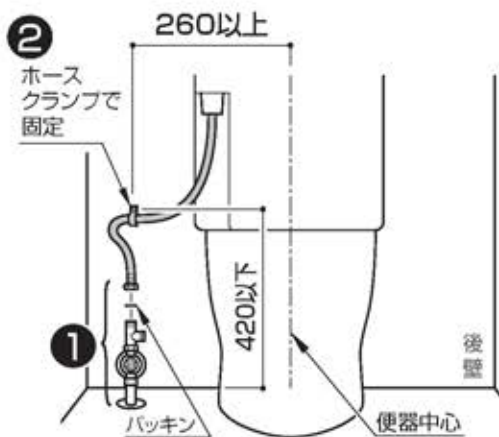
左右の固定ナットを確実に締める
 水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

固定ナットを手締めでかたく締め付ける。

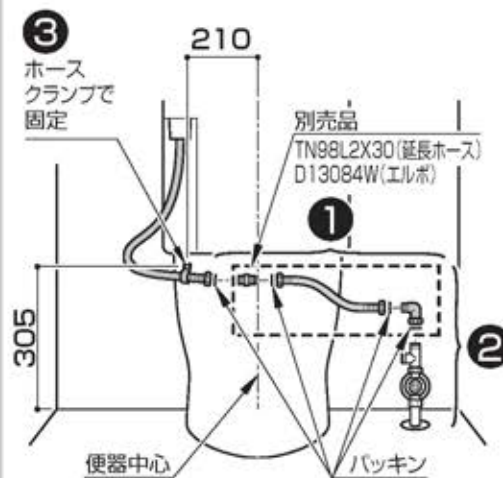


水抜方式

止水栓が左側にある場合



止水栓が右側にある場合



電源コード取り回し

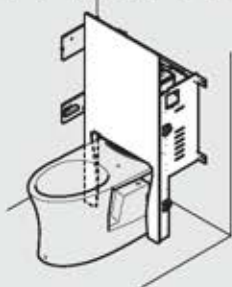


逆勾配注意

ホースがたるまないように固定する

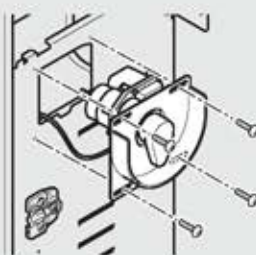
7.コアキャビネット

1 コアキャビネットの設置



▶P.39

2 洗浄レバーの取り付け

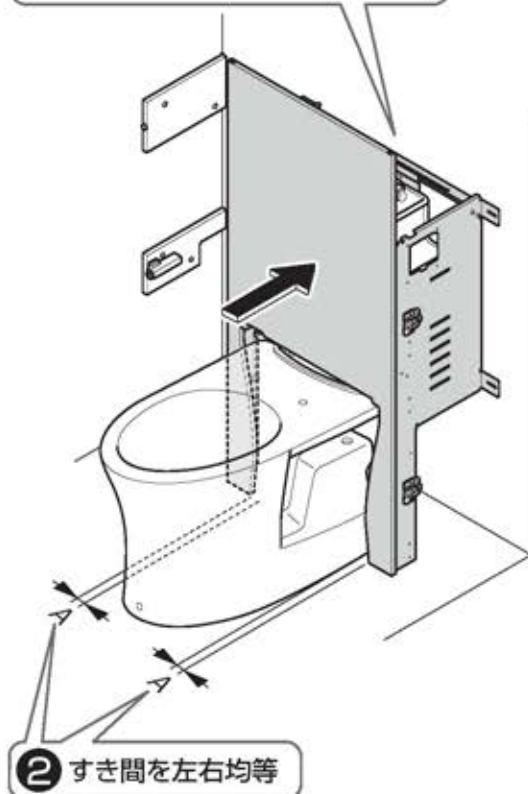
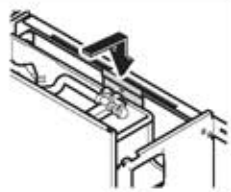


▶P.40

1 コアキャビネットの設置

※タイプにより、コアキャビネットの形状が異なります。

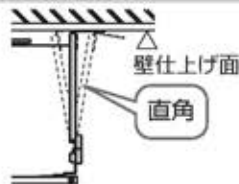
1 ひっかける



2 すき間を左右均等

注意

ねじ固定時に側板が曲がらないようにすること



3 バインドタッピンねじ $\phi 4 \times 8$ (2本)

4 水平確認



5

けがき → 下穴



トラスタッピンねじ $\phi 4 \times 40$ (4本)

6 アンクル材を側板に当て、床に固定(側板への固定は不要)(1カ所)



けがき → 下穴



トラスタッピンねじ $\phi 4 \times 30$ (1本)

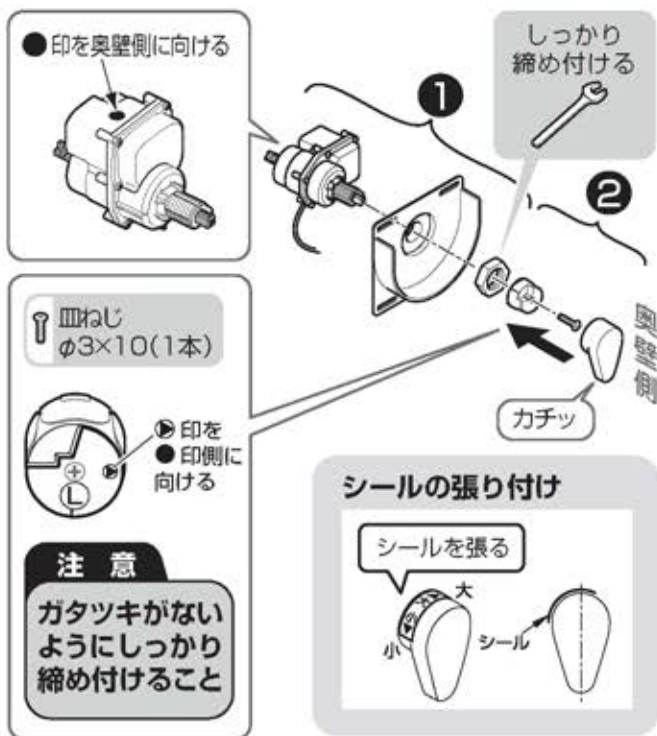
注意

側板へ固定しない



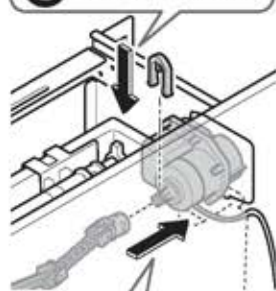
2 洗浄レバーの取り付け

※便器洗浄ユニットと同梱の説明書とは、取り付け向きが異なります。ワッシャーA、ワッシャーBは使用しません。

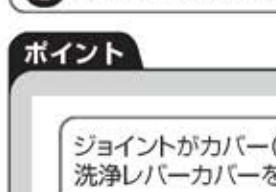


4 ジョイントからピンを取り外す

6 ピンを差し込む

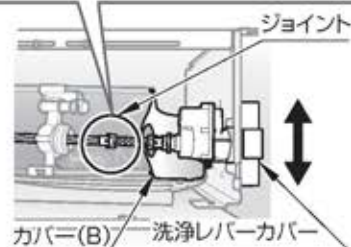


5 ジョイントを差し込む



ポイント

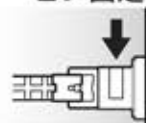
ジョイントがカバー(B)に干渉しないように洗浄レバーカバーを位置調整



ポイント

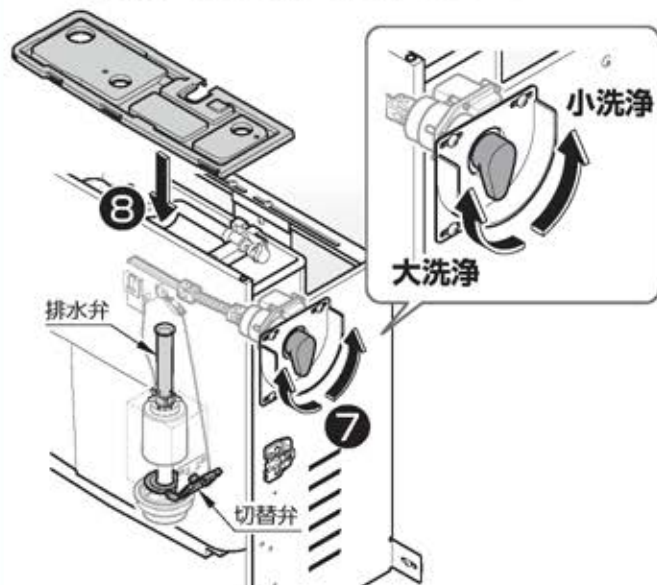
ジョイントが抜けないことを確認

ピン固定位置



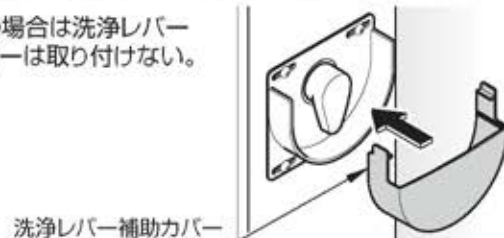
7 作動確認

- レバーが「大」側、「小」側へ正常に作動すること
- 「大」側に回し、排水弁のみが引き上がること
- 「小」側に回し、排水弁・切替弁が引き上がること



9 洗浄レバー補助カバーを取り付ける

※右勝手の場合は洗浄レバー補助カバーは取り付けない。



8. 後横棧・壁側板

1 後横棧の取り付け



▶P.41

2 壁側板の取り付け



▶P.42

1 後横棧の取り付け

① 後横棧カット・穴あけ

ポイント

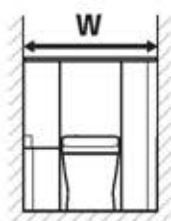
チッピングに注意!

木口張り

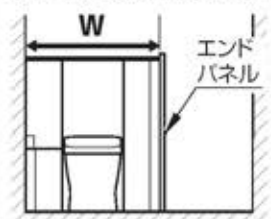
木口張り面からカットする



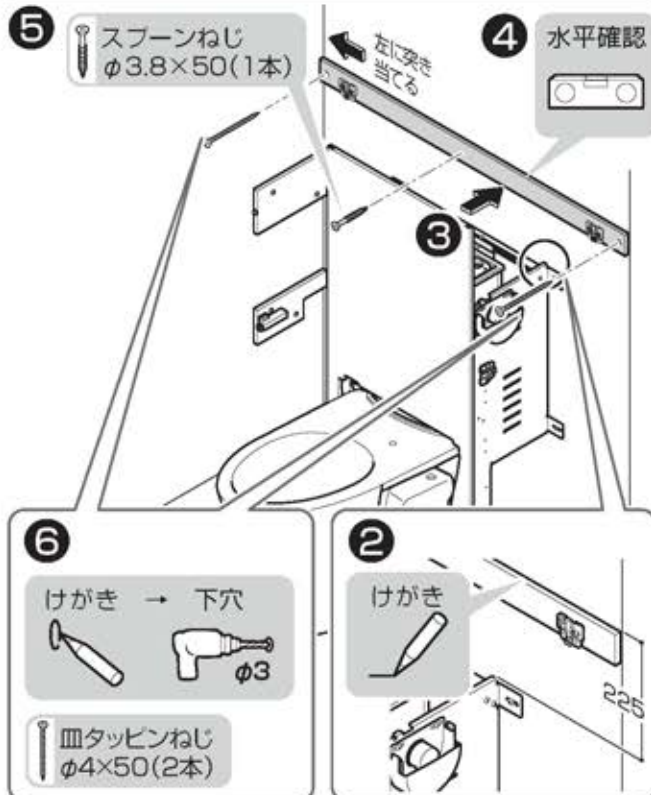
間口寸法Wの測定範囲



【エンドパネルありの場合】



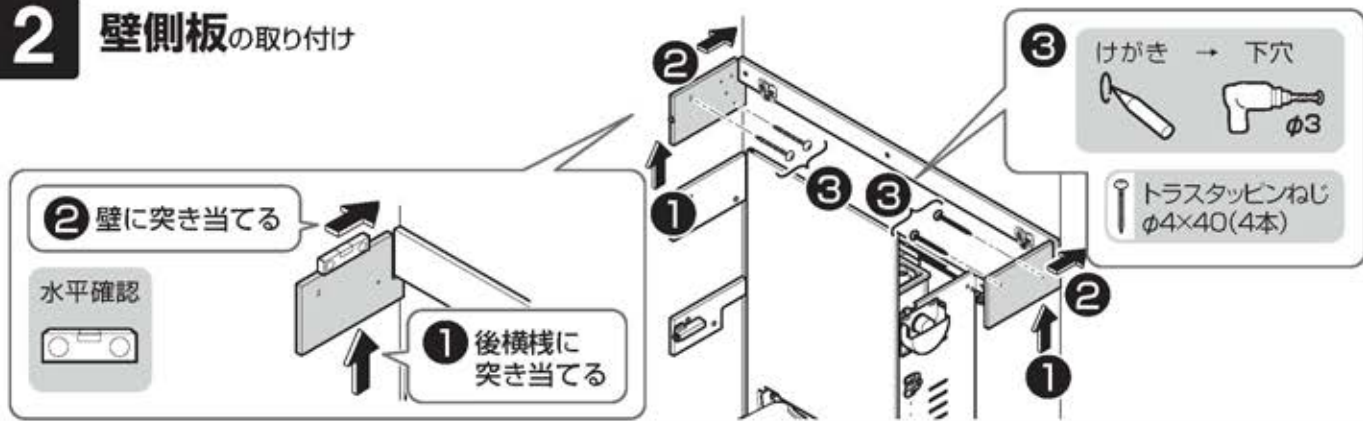
まるごと収納タイプの場合



スリム収納タイプの場合



2 壁側板の取り付け



MEMO

9. ウォシュレット

1 ウォシュレットの設置

▶ウォシュレット施工説明書

2 プラグ・ホースの差し込み

▶P.43

3 ホースの接続

▶P.43

4 リモコンの設定・作動確認

▶P.44

5 サイドカバーの取り付け

▶P.45

6 はかま目地材の取り付け

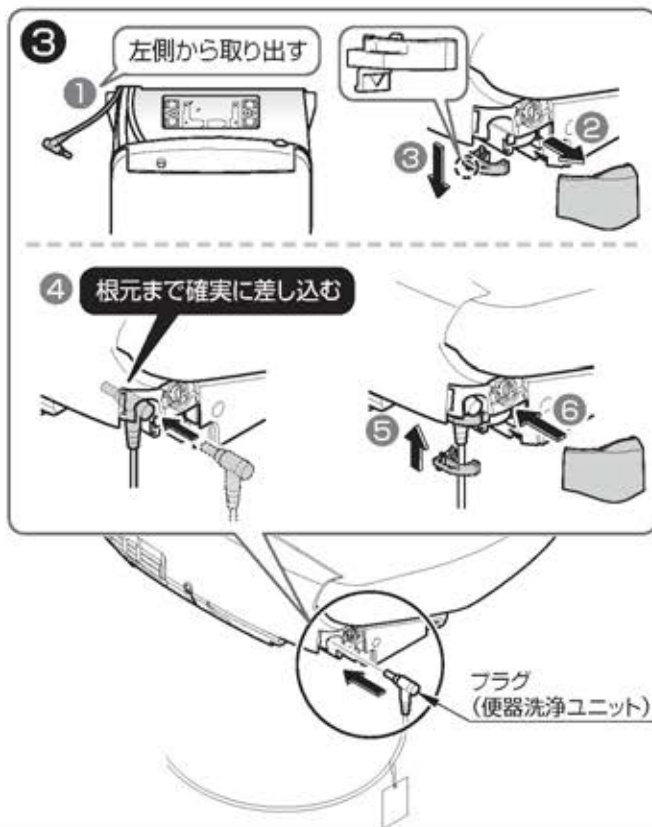
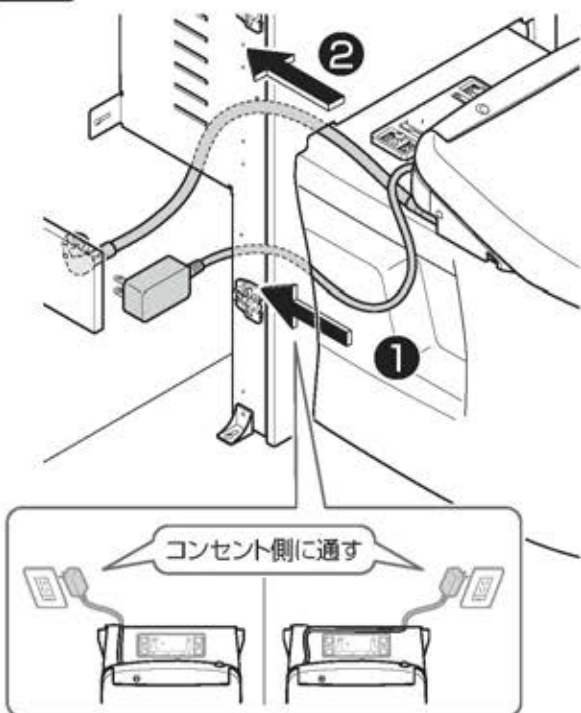
▶P.45

1 ウォシュレットの設置

▶ウォシュレット施工説明書

作業がしやすいようにウォシュレットを手前に引き出しておく。

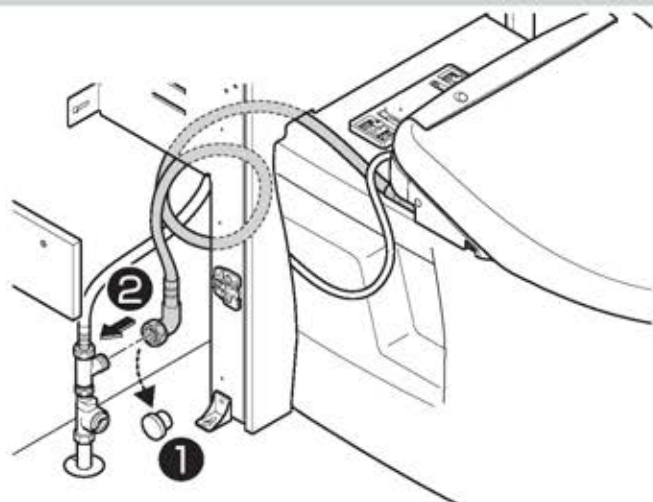
2 プラグ・ホースの差し込み



3 ホースの接続

注意

ホースを折り曲げたり
つぶしたりしない



4 リモコンの設定・作動確認

- ① 電源プラグの差し込み
※ノズルがいったん出て戻る初期動作を行うか確認

- ② 流すボタンの取り付け
▶流すボタン取付説明書

流すボタン(便器洗浄ユニットに同梱)



注意

リモコンには流すボタンが取り付けられていません。必ず取り付けてください。

リモコンをウォシュレット本体の受信部に向ける

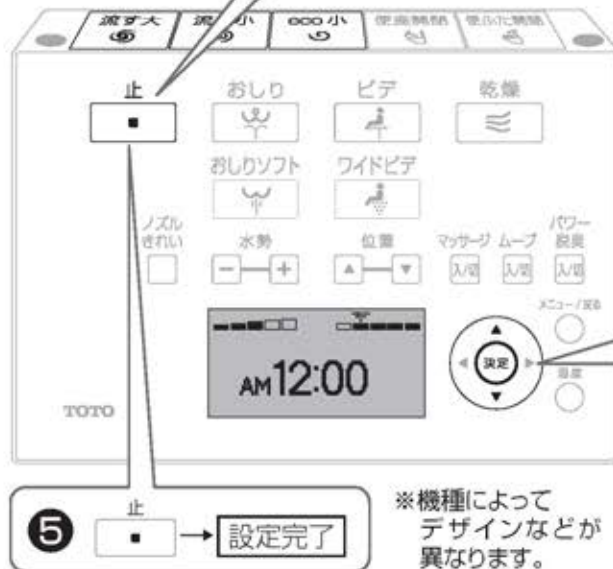


- ③ 止 10秒以上押す

便器洗浄モード 1/10
1. 便器洗浄モード1
2. 便器洗浄モード2
↓で選ぶ⇒[決定]押す

注意

モード設定はウォシュレット本体を取り付け、電源を入れた後に行ってください。
※ウォシュレット本体の電源が入っていないと設定を受け付けません。



- ④

便器洗浄モード 8/10
7. 便器洗浄モード7
8. 便器洗浄モード8
↓で選ぶ⇒[決定]押す

選択

決定

便器洗浄モード8に設定しました

ピッ

決定後確認

表示

8. 便器洗浄モード8

- ⑤ 止 → 設定完了

※機種によってデザインなどが異なります。

- ⑥ 作動確認
※連続して流すボタンを押しても作動しません。約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。

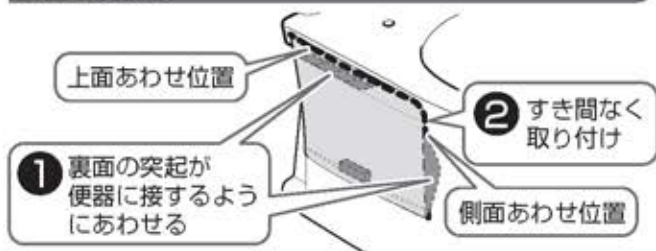


■正しく作動しない場合は、再度手順③から設定してください

MEMO

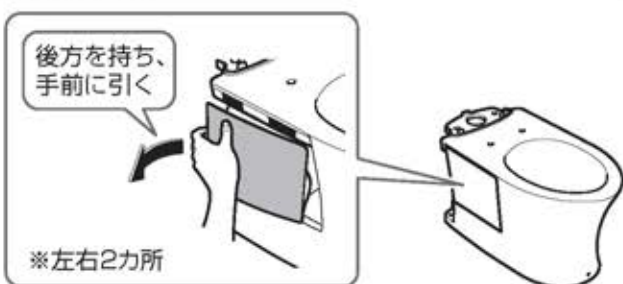
5 サイドカバーの取り付け

取り付けかた



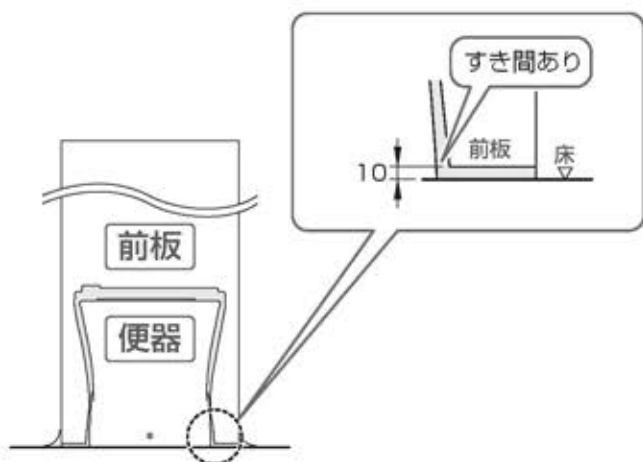
※面ファスナー部(3カ所)をしっかり押さえて、サイドカバーが外れないことを確認してください。

取り外しかた



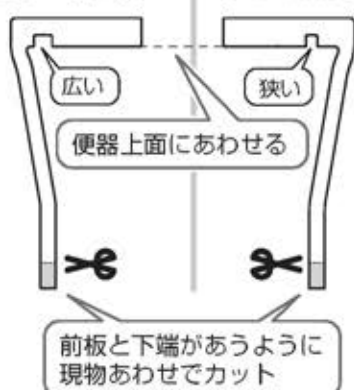
6 はかま目地材の取り付け

1 作業がしやすいようにウォシュレットを手前に引き出しておく。



【はかま目地材 L(表面)】

【はかま目地材 R(表面)】

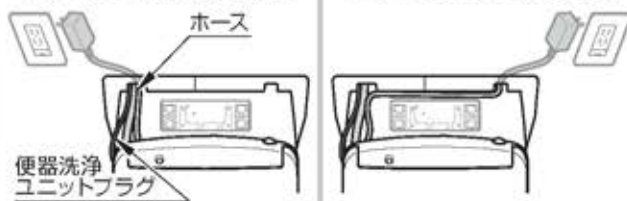


2 「はかま目地材L」 挟み込み

ホース・コードの取り回し(切り欠きに通す)

【コンセントが左側の場合】

【コンセントが右側の場合】



ポイント

コーナー部を曲げない



3 「はかま目地材R」 挟み込み (Lと同様)

ポイント

仕上がりは浮き・すき間がないこと

すき間・くらつきがないこと
サイドカバーが確実にハマっていないと目地材が外れることがあります。

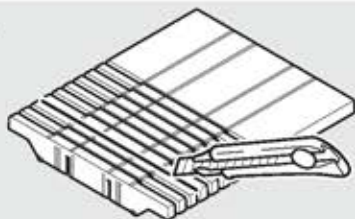
「はかま目地材R」を上重ねる

床に当たっていないこと
目地材が当たっていると浮き・すき間ができます。できた場合はカットしてください。



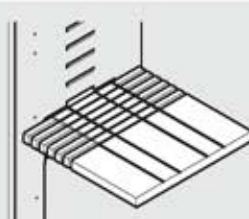
10. 棚板

1 棚板のカット



▶P.46

2 棚板の取り付け

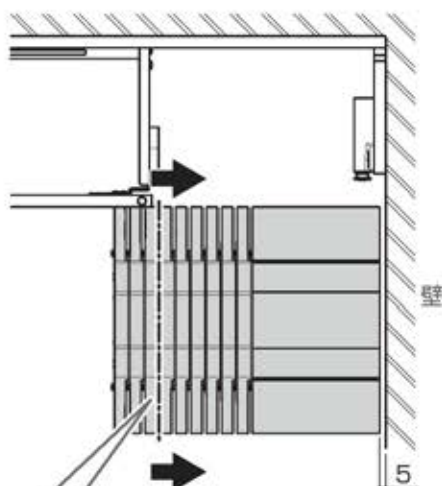


▶P.47

1 棚板のカット

1 設置寸法の測定

【上図】

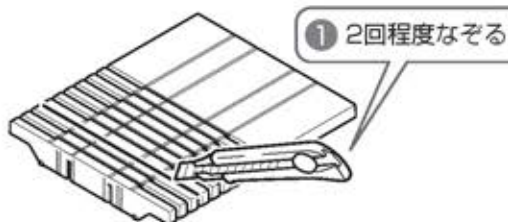


2 けがき
前板の端から壁側寄りにある一番近い溝

1 5mm程度すき間をあけて、前板に当てる

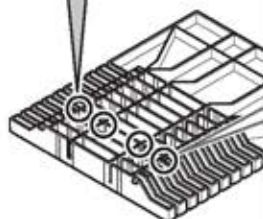
2 棚板のカット

【上面】

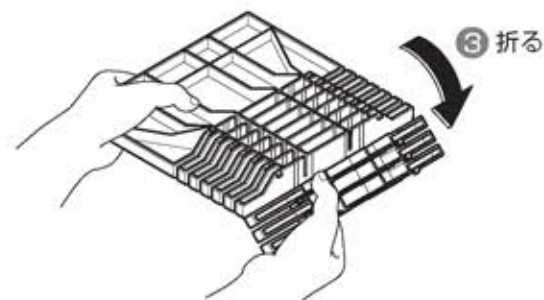
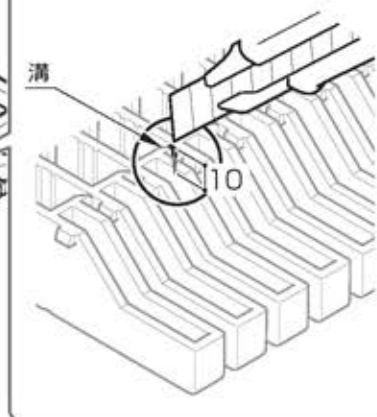


【裏面】

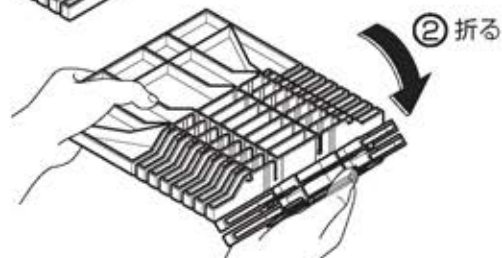
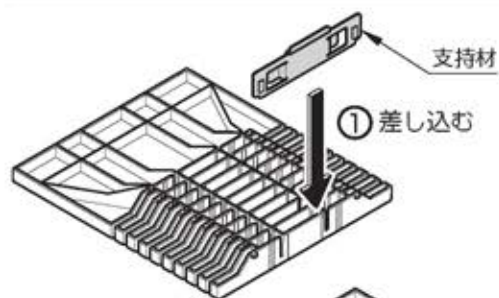
けがいた位置を確認(4カ所)



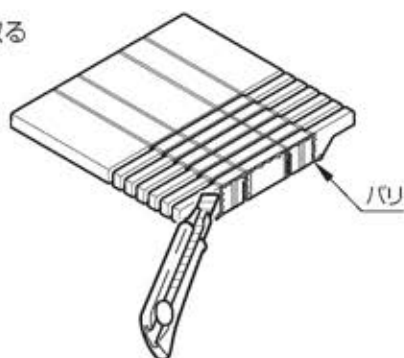
2 リブの溝にあわせて切り込みを入れる(4カ所)



棚板のカット寸法が小さく折りづらい場合



④ バリを取る



注意

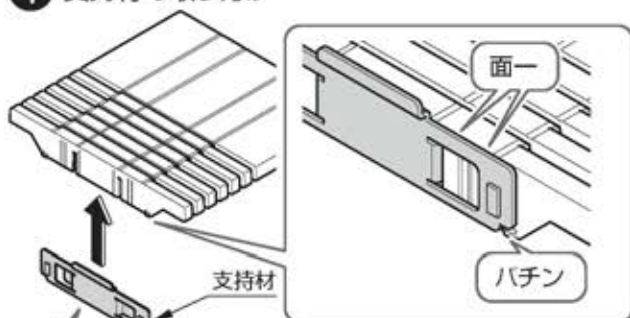
棚板を切断した後は必ずバリを取る

バリ取りが不十分な場合は、切断面でけがをすることがあります。

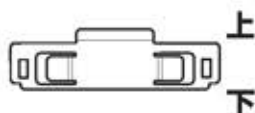
MEMO

2 棚板の取り付け

① 支持材の取り付け

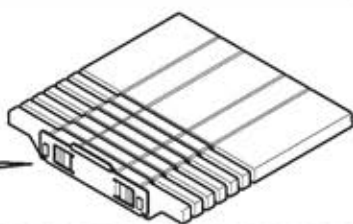


支持材の上下に気を付ける



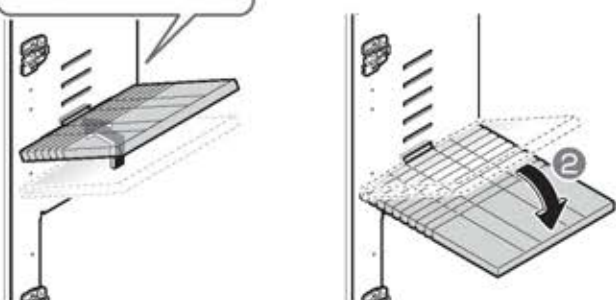
完成図

支持材が外れないことを確認



② 棚板の取り付け

① 溝に棚板の支持材を差し込む



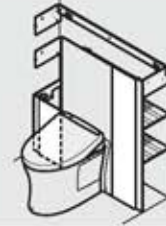
11.扉

1 扉の組み立て



▶P.48

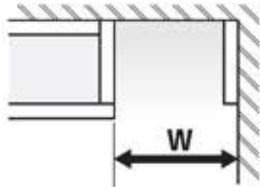
2 扉の取り付け



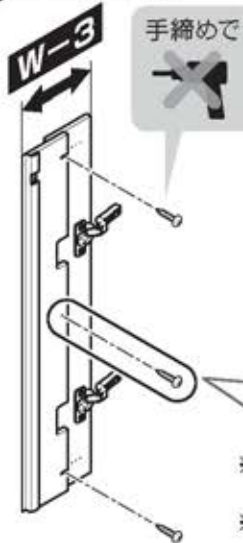
▶P.48

1 扉の組み立て

1 設置寸法の測定



2 扉の組み立て



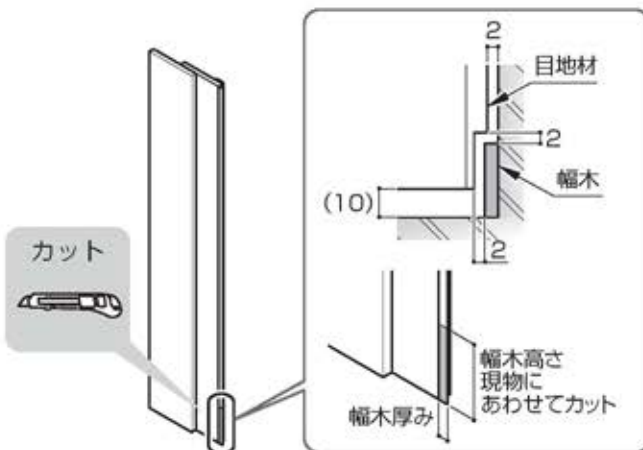
手締めで

トラスタッピンねじ
φ4×20(2本)

本固定用(ここでは使用しない)
▶「15.仕上げ」

※養生シートがある場合は取り付け前にシートをはがす
※図は右扉セットの場合

幅木がある場合



カット

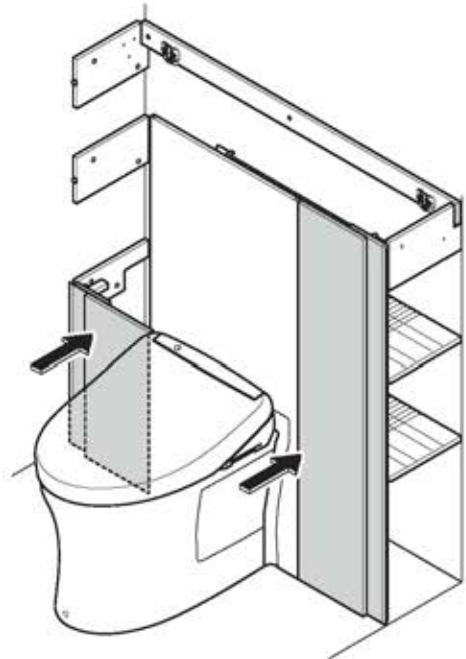
(10)

目地材
幅木

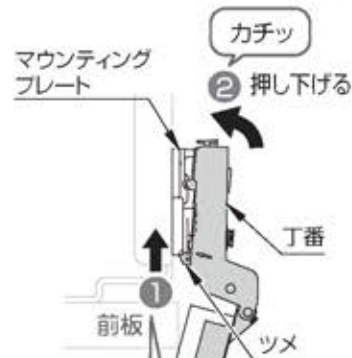
幅木高さ
現物にあわせてカット
幅木厚み

2 扉の取り付け

1 扉をコアキャビネットの丁番に取り付け



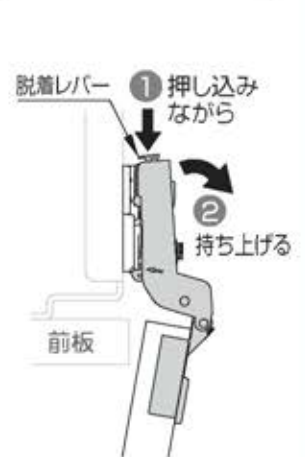
取り付けかた



マウンティングプレート
先端にツメを引っ掛ける

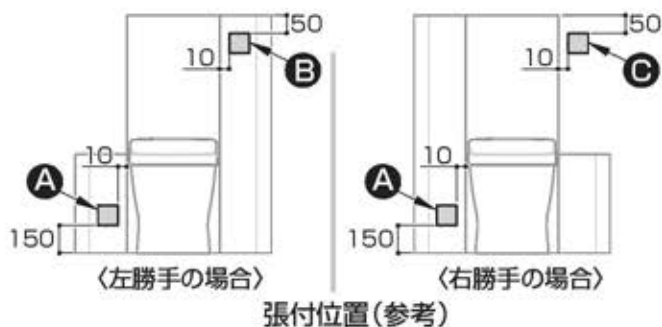
丁番本体がきちんと
マウンティングプレートに
装着されているか確認する

取り外しかた



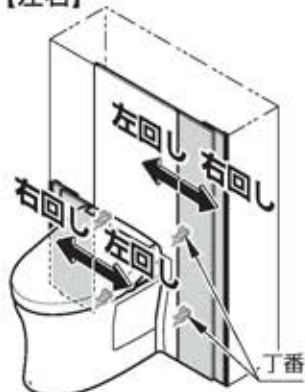
② ラベルの張り付け

- A** 止水栓ラベル (GH04207Z) **B** 便器洗浄ラベル (GH04247) **C** 便器洗浄ラベル (GH04248)
止水栓がある側に張る

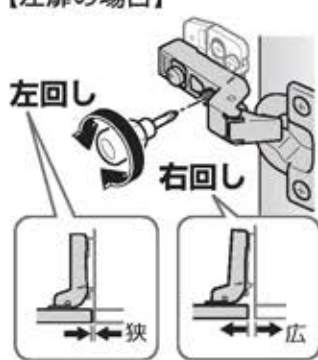


扉の調整

【左右】



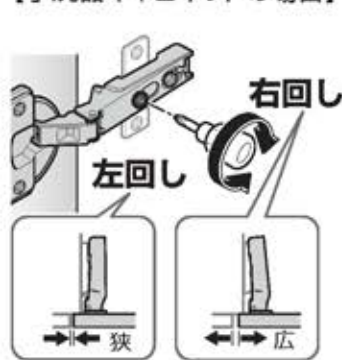
【左扉の場合】



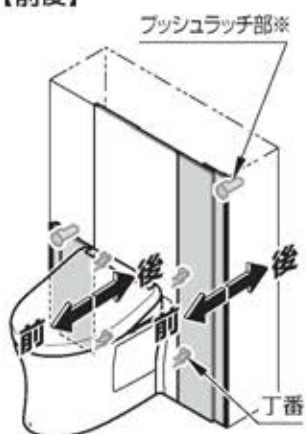
【右扉の場合】



【手洗器キャビネットの場合】



【前後】



【左扉の場合】



【右扉の場合】



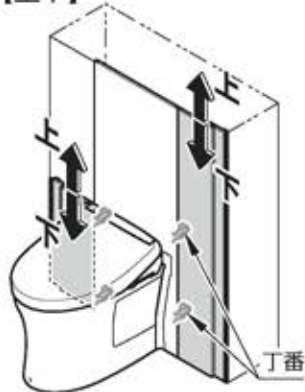
【手洗器キャビネットの場合】



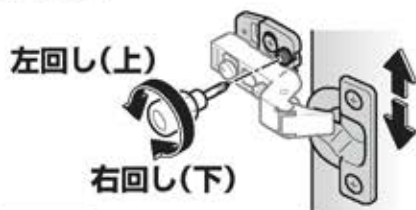
※プッシュラッチ部も前後調整できます。



【上下】



【左扉の場合】



【右扉の場合】



注意

扉の上下調整は2つの丁番の移動方向をあわせる
逆方向に移動すると扉の動きが固くなる場合があります。

※扉の向きによって調整ねじ位置が変わります。

【お引渡し前に】

扉の本固定と調整を必ず行ってください。▶P.87

12. 固定扉

1 固定扉のカット

▶P.50

2 丁番・固定扉キャップの取り付け

▶P.50

3 固定扉の取り付け

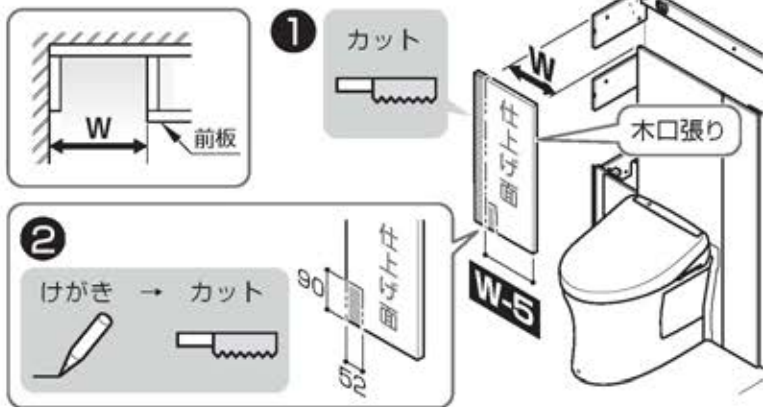
▶P.50

1 固定扉のカット

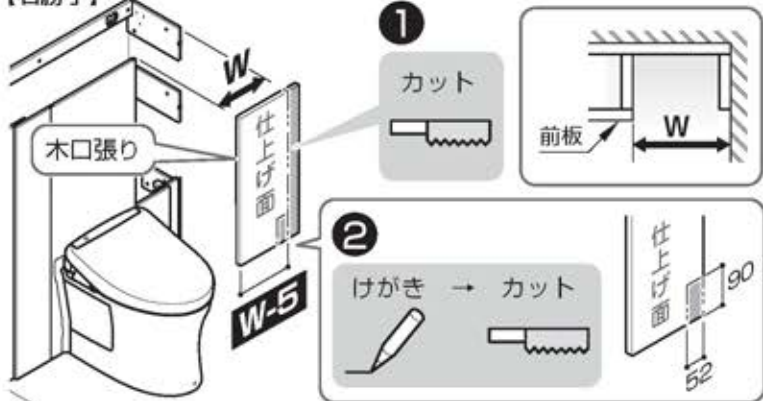
注意

仕上げ面を上にしてカットすること

【左勝手】



【右勝手】



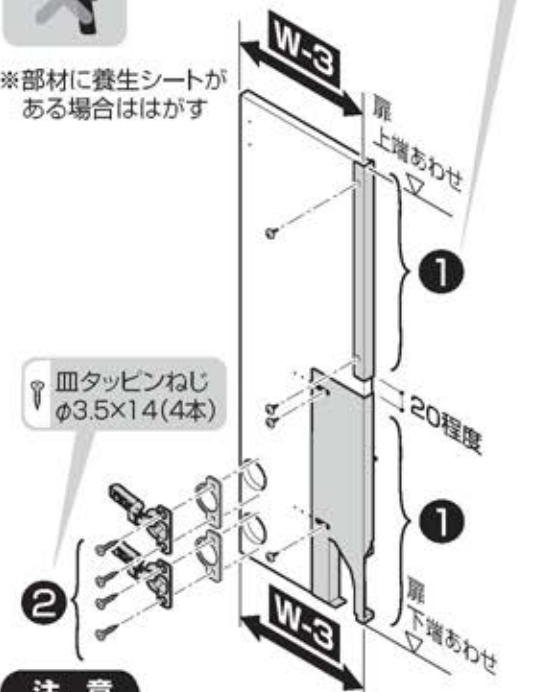
2 丁番・固定扉キャップの取り付け

手締めて



※部材に養生シートがある場合ははがす

トラスタッピンねじ
φ4×10(4本)

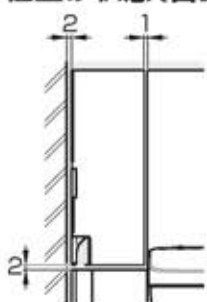


注意

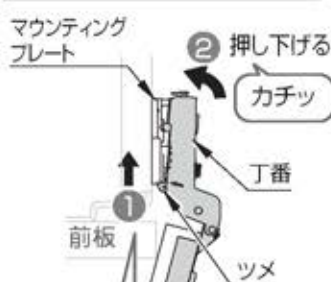
天板開閉部材セットに同梱されている
スライド丁番を使用しないこと
形は同じでも開き角度が違います。

3 固定扉の 取り付け

仕上げ状態(目安)

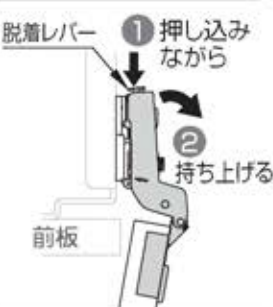


取り付けかた



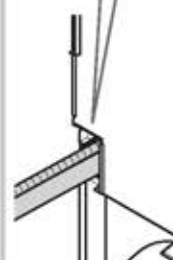
マウンティングプレート
先端にツメを引っ掛ける

取り外しかた



丁番本体がきちんとマウンティング
プレートに装着されているか確認する

フレキホース
(手洗器用)、
排水管を通す



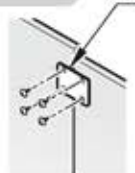
まるごと収納タイプ

トラスタッピンねじ
φ4×10(4本)

手締めて



平板金



12
固定扉

手洗器 M サイズ

13-M.手洗器キャビネット・カウンター

「手洗器Sサイズ」の場合
P.63を参照してください。

カウンターの水平について

ブラケットおよびカウンターが水平となるように、スペーサーなど（現場手配）で必ず調整してください。
壁仕上げの状態（垂直、目地、鏡面など）によって、カウンターの見ばえに影響が出ることがあります。

1 上段カウンターの
部材の
取り付け



▶P.51

2 上段補強棧の取り付け



▶P.53

3 上段カウンターの
取り付け



▶P.54

電気温水器付
自動水栓の場合

4 手洗器
キャビネットの
加工



▶P.54

5 手洗器
キャビネット
の取り付け



▶P.54

6 下段カウンターの
カット



▶P.55

7 下段カウンターの
部材の取り付け



▶P.55

8 下段補強棧の
取り付け



▶P.56

9 下段カウンターの
取り付け



▶P.57

1 上段カウンターの部材の取り付け

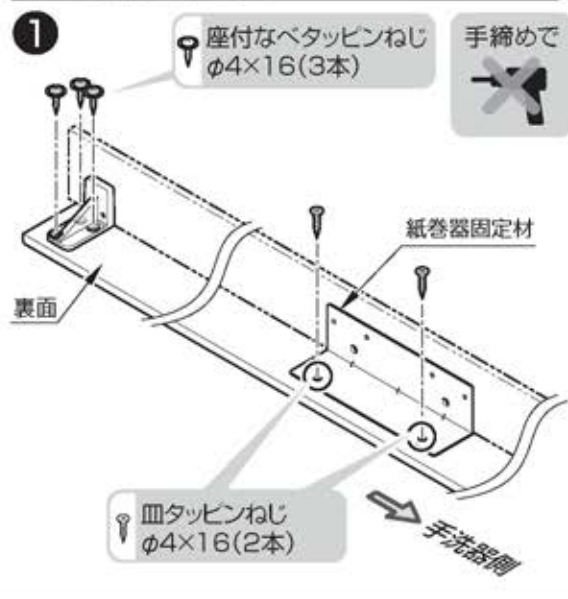
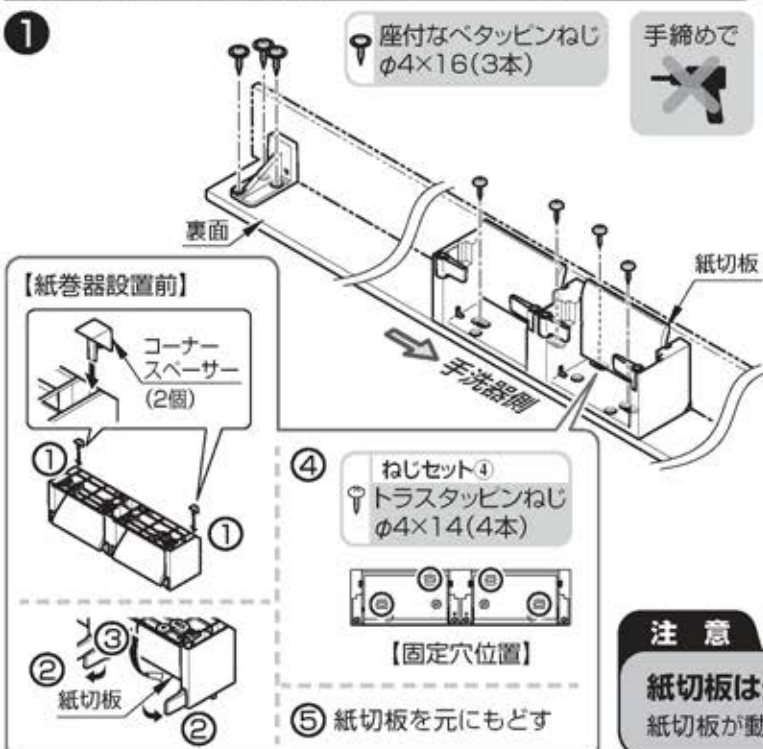
ポイント

ブラケット類の裏面に
上段補強棧をあてがい、
固定する



樹脂製紙巻器の場合（紙巻器固定材はありません）

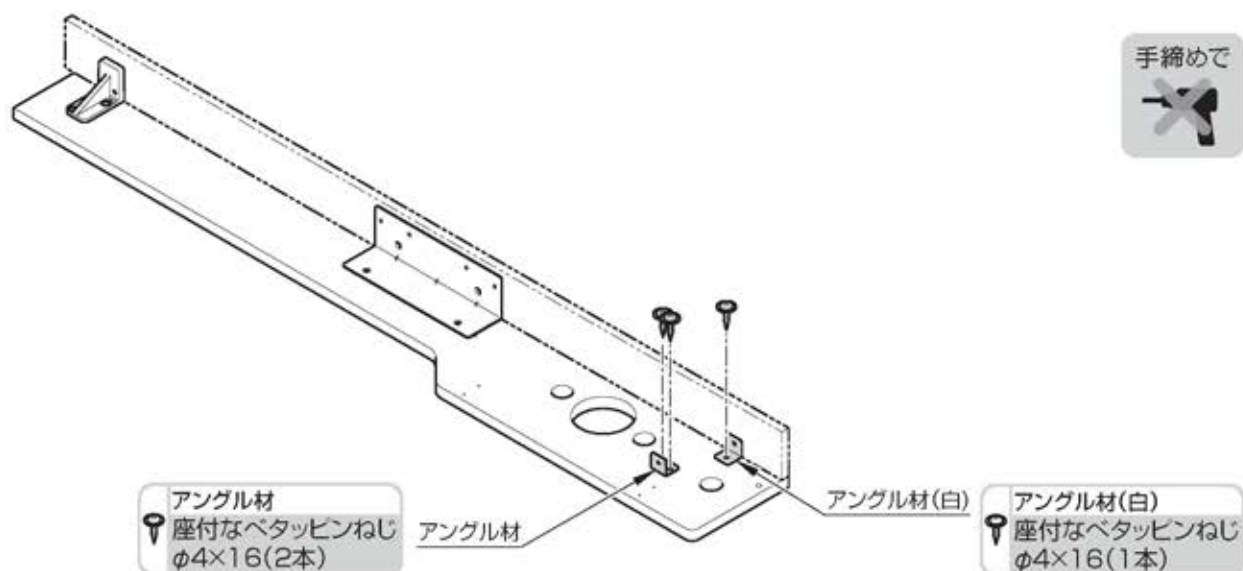
メタル製紙巻器の場合



注意

紙切板は外さない

紙切板が動作不良を起こすことがあります。



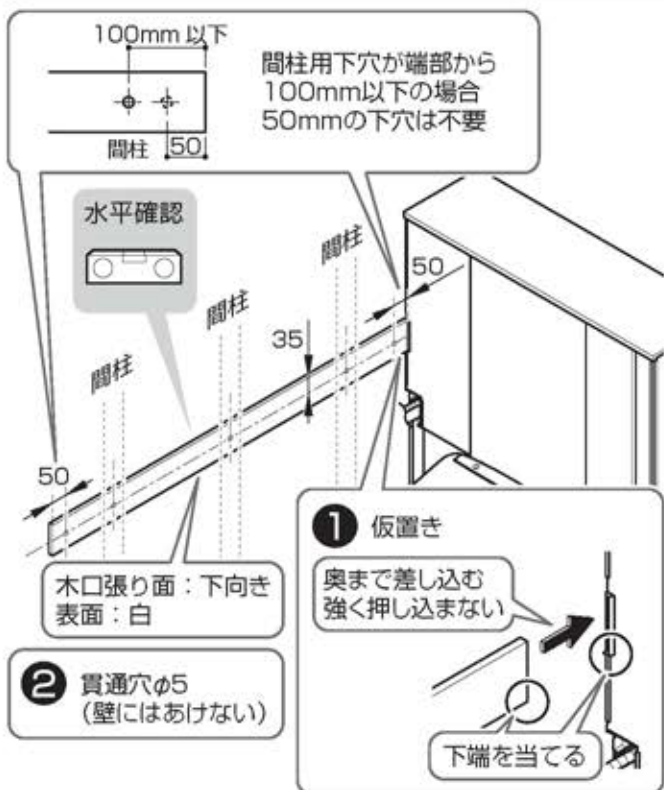
MEMO

13

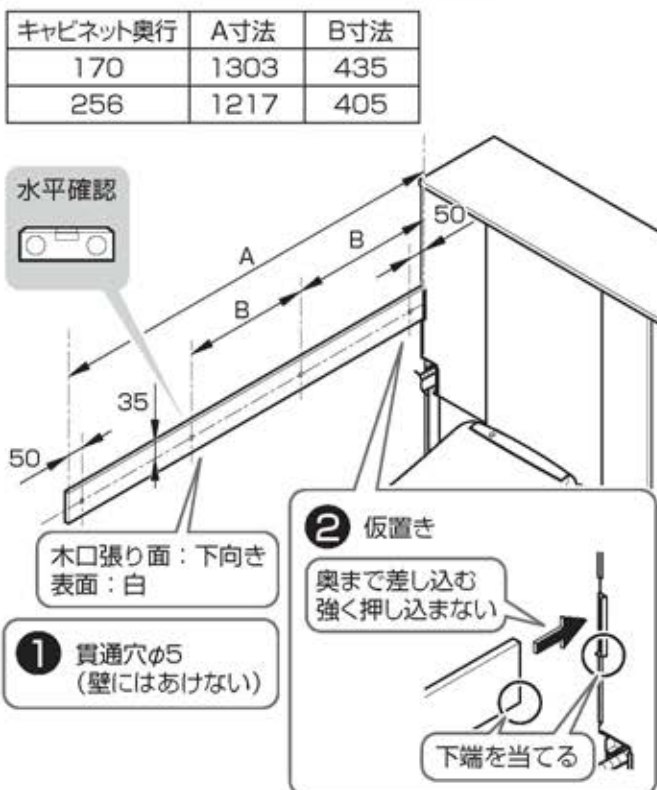
手洗器キャビネット・カウンター

2 上段補強枠の取り付け

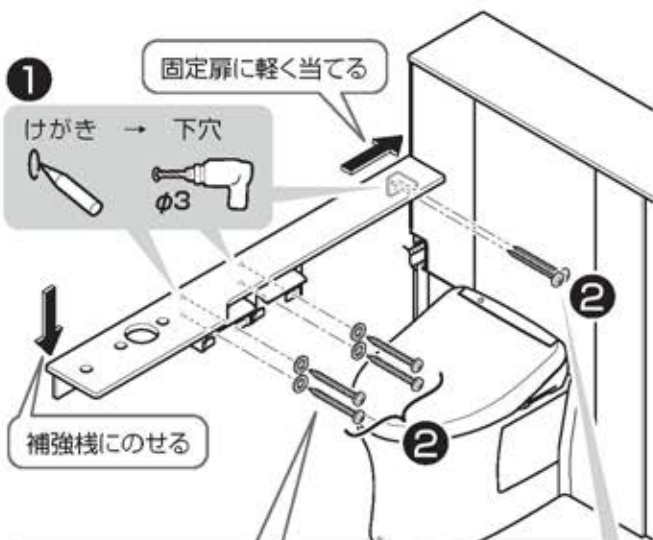
壁裏補強なしの場合



壁裏補強ありの場合



3 上段カウンター取り付け



【樹脂紙巻器の場合】

ねじセット①

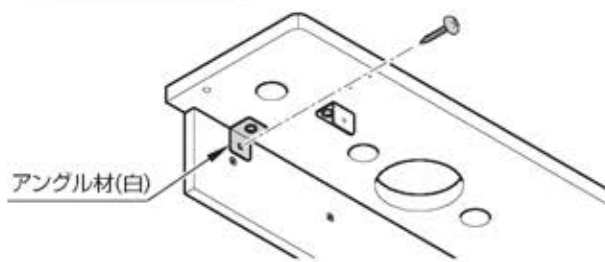
なべタッピンねじ φ4.5×40(4本) 平座金 (4個)

【メタル紙巻器の場合】

皿タッピンねじ φ4×40(2本)

トラスタッピンねじ φ4×30(2本)

③ トラスタッピンねじ φ4×20(1本)



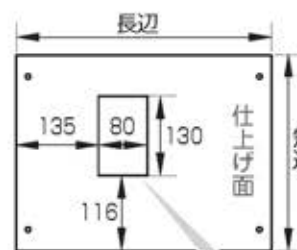
MEMO

電気温水器付自動水栓の場合

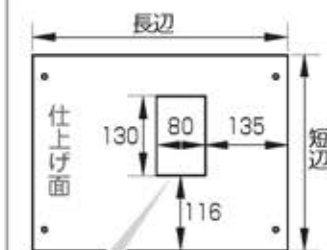
4 手洗器キャビネットの加工

背板にコンセント用の穴を加工

【左勝手】



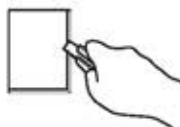
【右勝手】



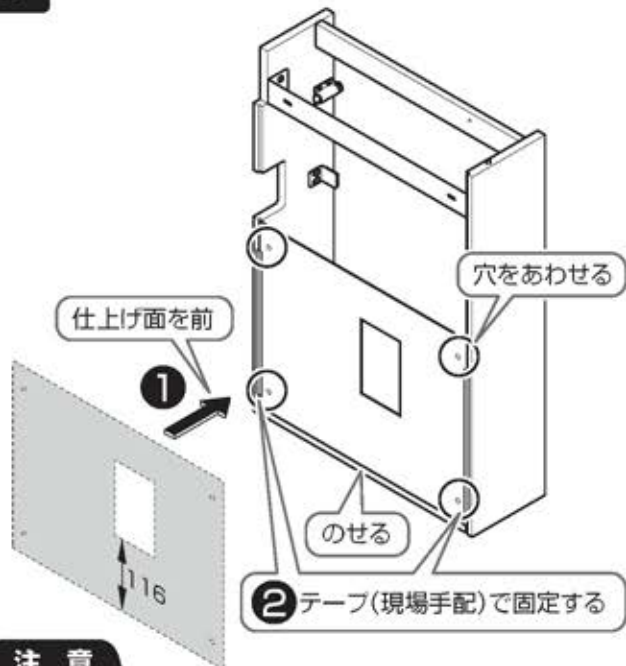
カット
背板に開口

ポイント

小型のノコギリを使用すると簡単にあけられます。



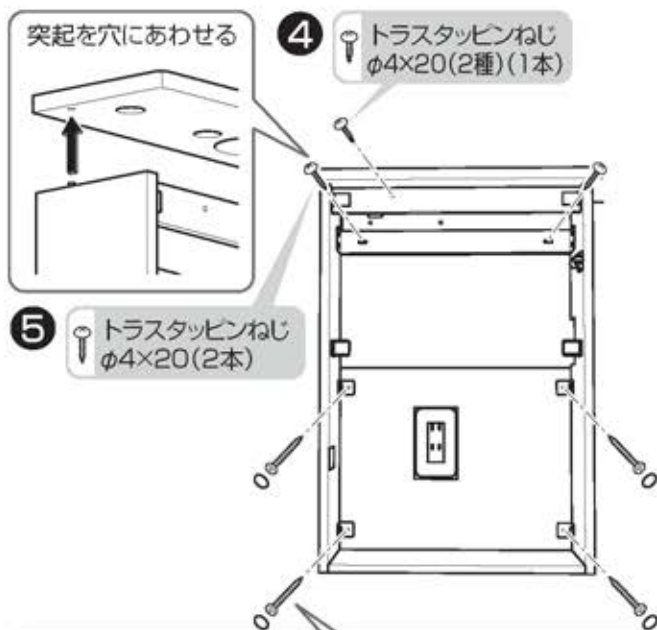
5 手洗器キャビネットの取り付け



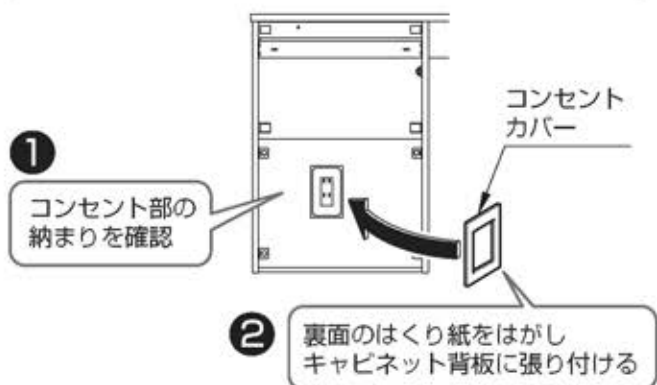
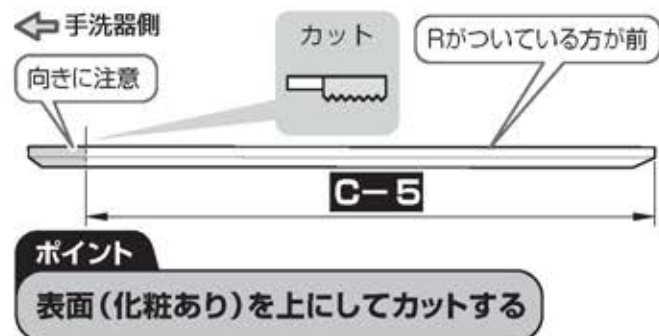
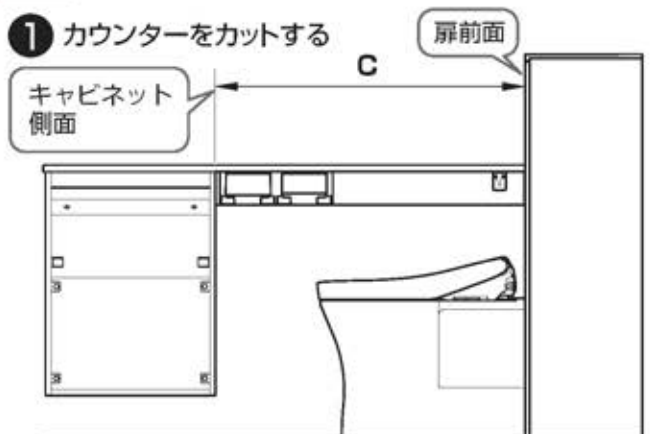
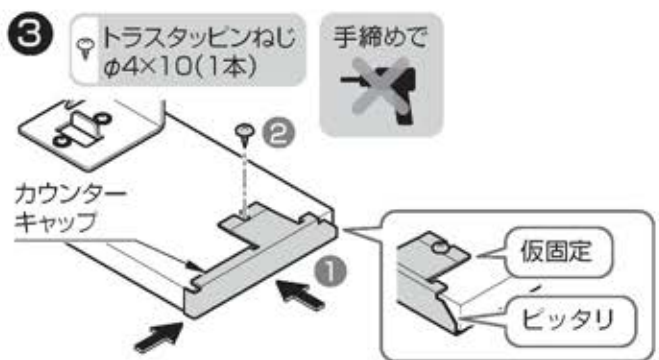
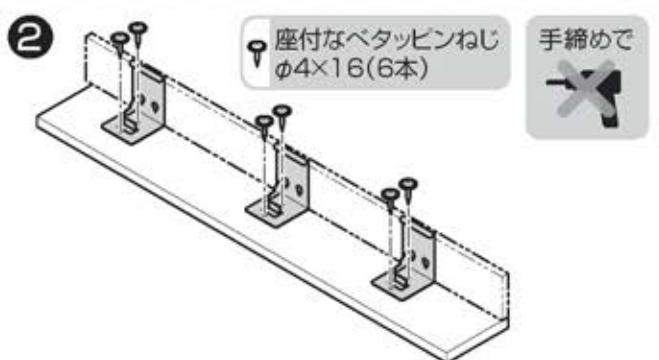
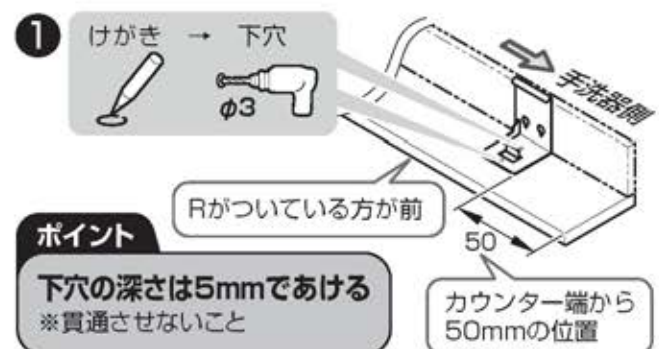
注意

側面にテープがかからないようにする





コンセントがある場合

**6** 下段カウンターのカット**7** 下段カウンターの部材の取り付け

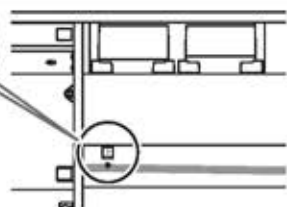
8 下段補強棧の取り付け

壁裏補強なしの場合

注意

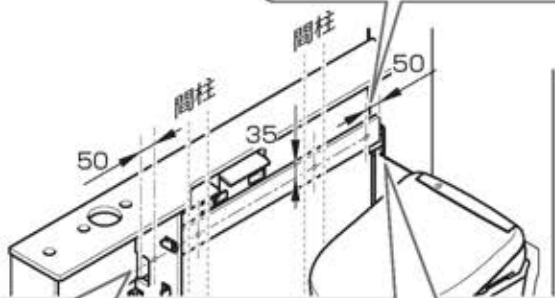
向きに注意!

国マークを手洗器側に



② 貫通穴φ5
(壁にはあけない)

100mm以下 間柱用下穴が
端部から100mm
以下の場合50mm
の下穴は不要



① 仮置き

切欠き部に
差し込む

奥まで差し込む
強く押し込まない

下端を当てる

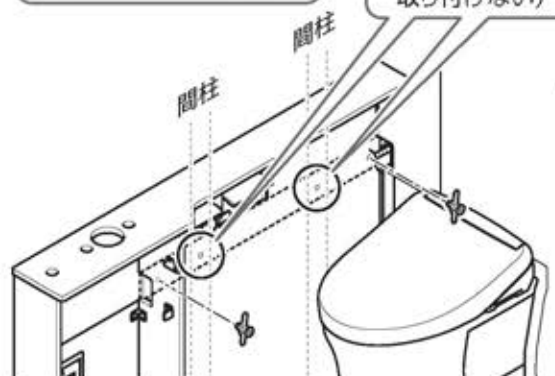


③ けがき → 下穴 → ボードアンカー
(オプション)



ねじ取付用: φ3
両端ボードアンカー用: φ9

間柱にはねじ固定
(ボードアンカーは
取り付けない)

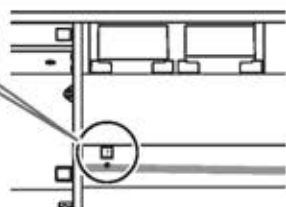


壁裏補強ありの場合

注意

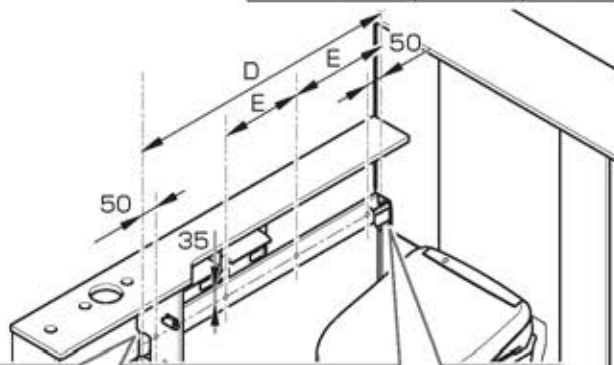
向きに注意!

国マークを手洗器側に



① 貫通穴φ5
(壁にはあけない)

キャビネット奥行	D寸法	E寸法
170	908	300
256	822	275



② 仮置き

切欠き部に
差し込む

奥まで差し込む
強く押し込まない

下端を当てる

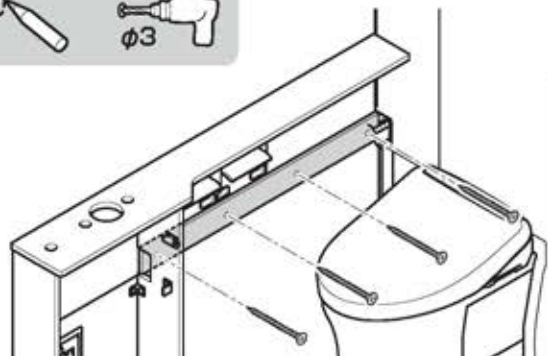


③ 皿タッピンねじ
φ4×40(4本)

けがき → 下穴



φ3



壁裏補強なしの場合

- 4 皿タッピンねじ $\phi 4 \times 40$ ※カウンターの長さによって、使用するねじの数異なります。

下穴



MEMO

9 下段カウンターの取り付け

- 1 トラストタッピンねじ $\phi 4 \times 20$ (6本) 固定扉に軽く当てる

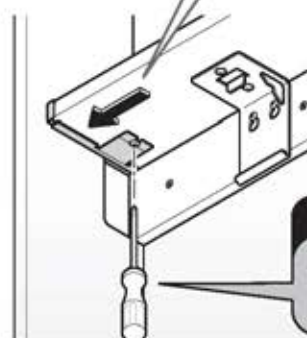
補強棧にのせる



けがき → 下穴



2

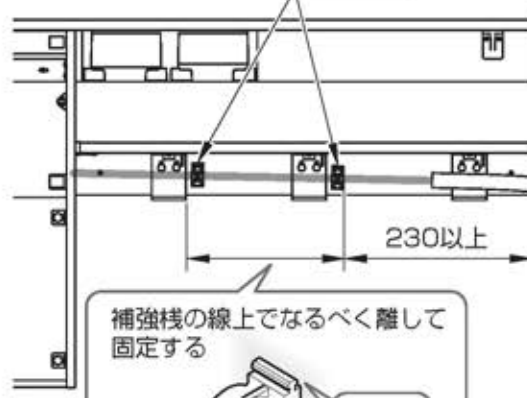
キャップを手洗器
キャビネットに当てる

ポイント

ドライバーにて
手締めする

- 3 なべタッピンねじ $\phi 4 \times 16$ (2本)

配管支持材

補強棧の線上でなるべく離して
固定する

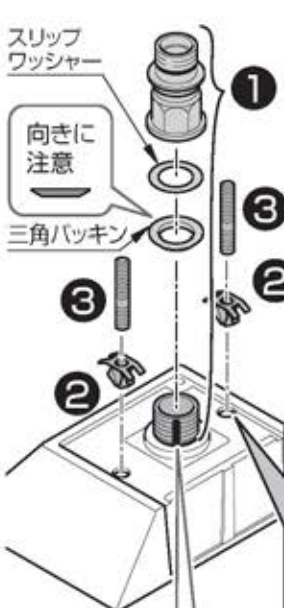
凸が上

手洗器 M サイズ

14-M. 手洗器

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>1 排水金具・手洗器固定金具の取り付け</p>  <p>▶ P.58</p> | <p>2 手洗器の取り付け</p>  <p>▶ P.58</p> | <p>3 水栓金具の取り付け</p>  <p>▶ P.59</p> | <p>4 取付穴の下穴あけ</p>  <p>▶ P.59</p> |
| <p>5 配管固定材の固定</p>  <p>▶ P.59</p> | <p>6 フレキホース(手洗器用)の接続</p>  <p>▶ P.59</p> | <p>7 手洗器排水ホースのカット</p>  <p>▶ P.61</p> | <p>8 排水トラップの取り付け</p>  <p>▶ P.62</p> |

1 排水金具・手洗器固定金具の取り付け



ねじ部が見えなくなるまで締め付ける

手締めで

長い

短い

ポイント
陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む
取付ボルトが途中でしか入らず、手洗器が固定できません。

シリコン系シーラント

注意

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シーラントを塗布する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

接続管を締め過ぎない
排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
(手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。)

2 手洗器の取り付け

警告
クッション材の張り付けは確実に
水などがキャビネット内に浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。

必ず守る

1 クッション材の取り付け

はみ出さぬよう端から少し内側に張る

継ぎ目

ポイント
向きに注意

しっかりとめ込む

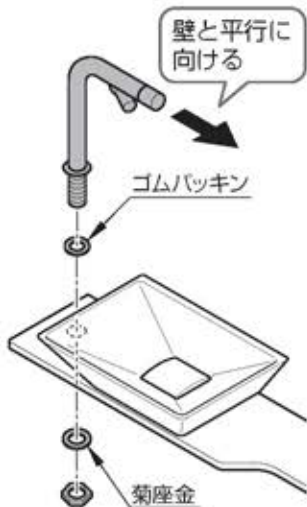
ポイント
手洗器を壁に押し当てる

左右の位置を調整

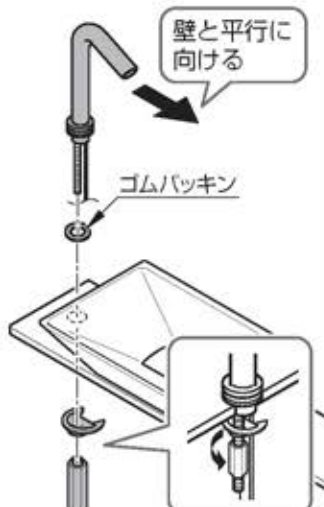
手締めで

3 水栓金具の取り付け

ハンドル式水栓



自動水栓

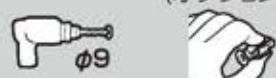


4 取付穴の下穴あけ

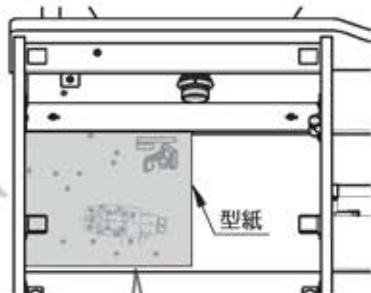
けがき → 下穴※



※【下地が石こうボードの場合】
下穴 → ボードアンカー
(オプション)



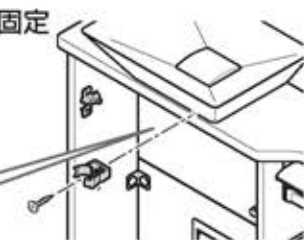
【けがき位置】
ハンドル式水栓: 1カ所
自動水栓: 6カ所
電気温水器付自動水栓:
10カ所



5 配管固定材の固定

皿タッピンねじ
φ4×40(1本)

配管固定材を固定する



6 フレキホース (手洗器用)の接続

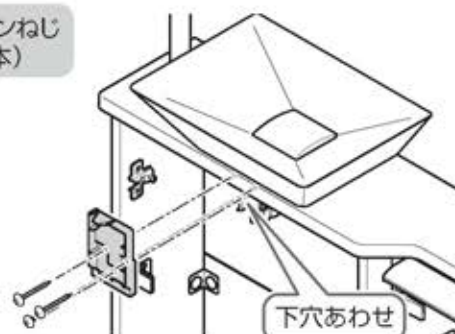
ハンドル式水栓



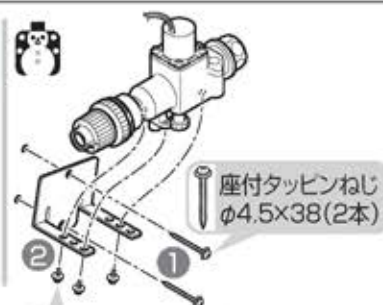
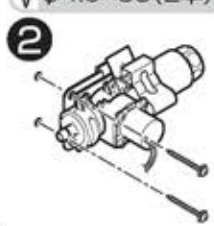
自動水栓・電気温水器付自動水栓

1 コントローラー固定材の取り付け

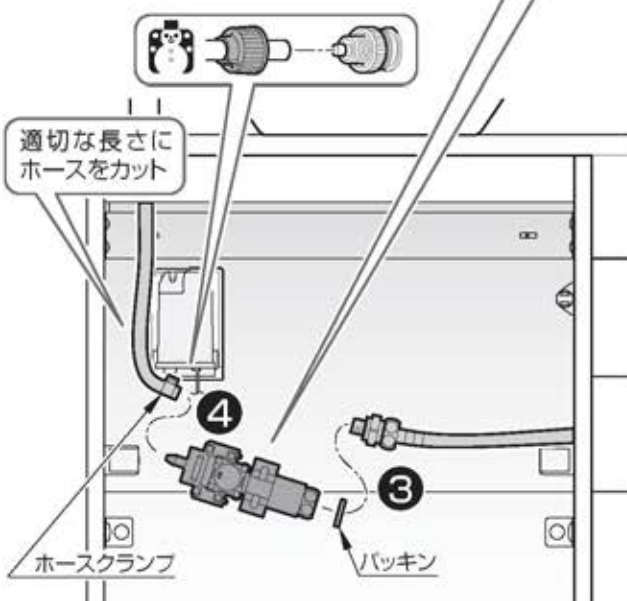
トラスタッピンねじ
φ4×30(3本)



座付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)



座付なべ小ねじ
M4×10(3本)



4 スパウト連結ホースの接続

※電気温水器を設置する場合▶次ページ参照

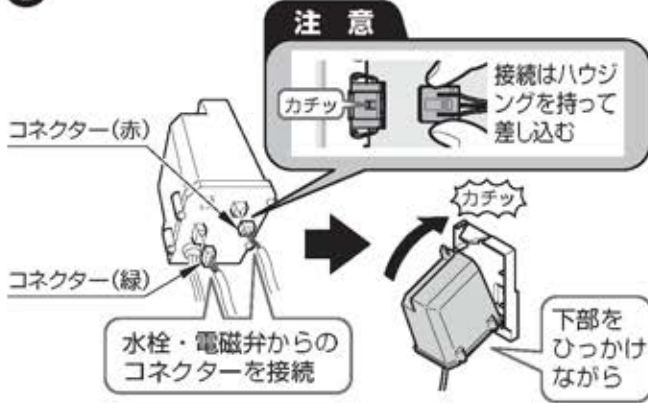
注意



- ・スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるようにカットする
 - ・スパウト連結ホース接続後、確実に固定されていることを確認する
- 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

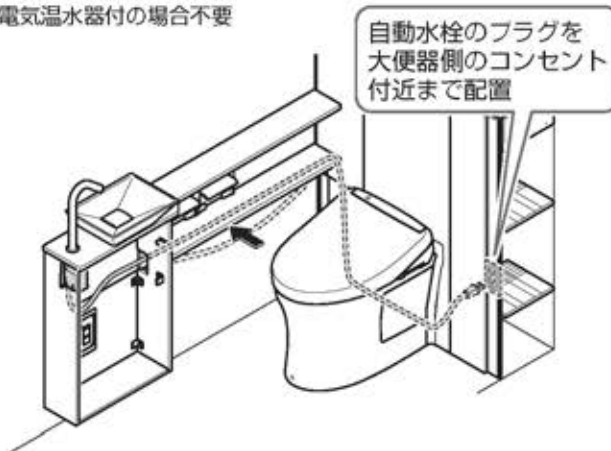
90°

5



6 電源コード配置

※電気温水器付の場合不要



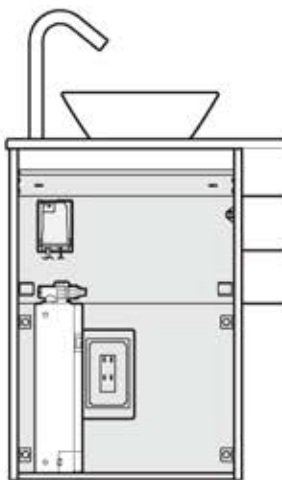
電気温水器付自動水栓

▶電気温水器施工説明書

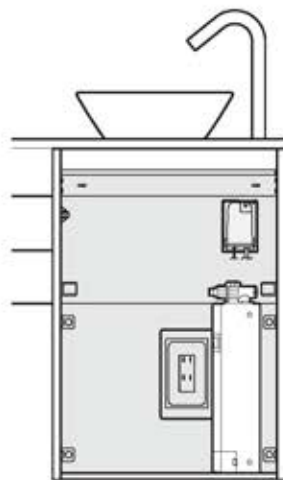
電気温水器取付位置

【左勝手】

【右勝手】



▽床仕上げ面

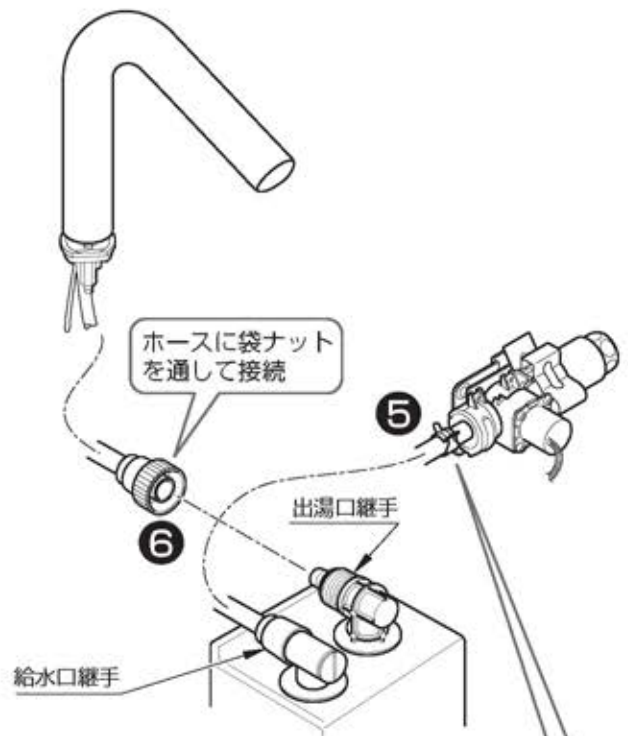
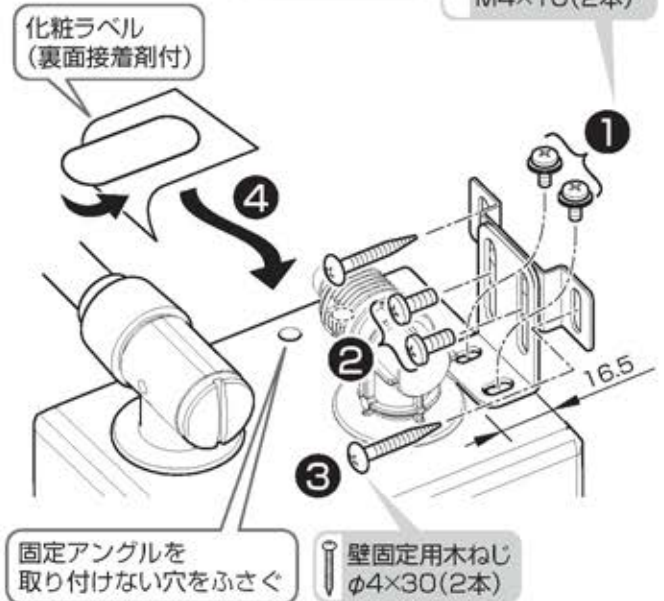


▽床仕上げ面

2

固定用ねじ
M4×5(2本)

固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)



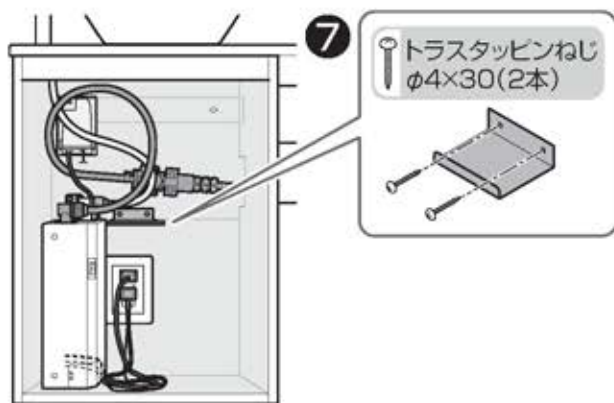
ホースに袋ナットを通す

差し込む

注意

必ず守る

・ホースが確実に差し込まれているか確認する
・ホースが折れ曲がらないよう注意する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



▽床仕上げ面

⚠ 警告

電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や、扉に挟まない
コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。



禁止

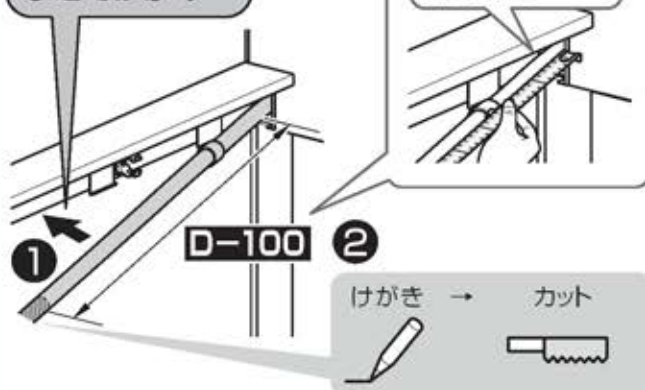
コンセント
プレートカバー



ポイント

排水管を壁側によせてけがく

固定扉キャップに
当てて測る



⚠ 注意

ホースカット時、押切タイプのパイプ
カッターは使用しない
ホースの断面が変形し、水漏
れして家財などをぬらす財産
損害発生の原因となります。



必ず守る



カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

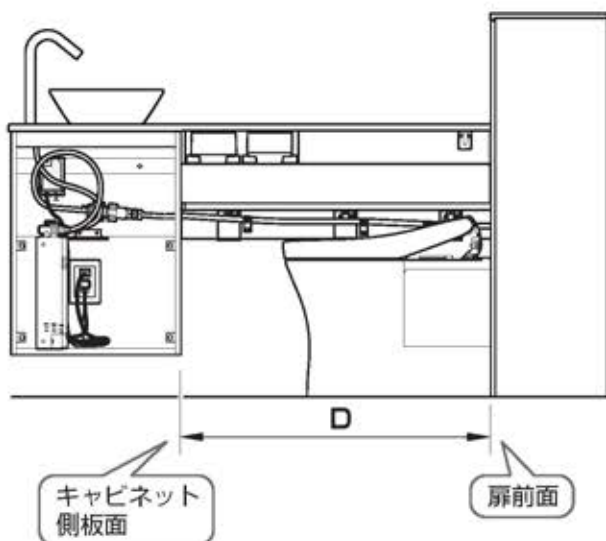
ポイント

手洗器排水ホースは垂直にカットする



MEMO

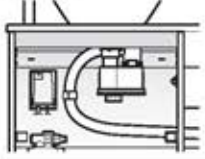
7 手洗器排水ホースのカット



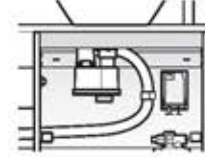
8 排水トラップの取り付け

取り付け状態

【左勝手】



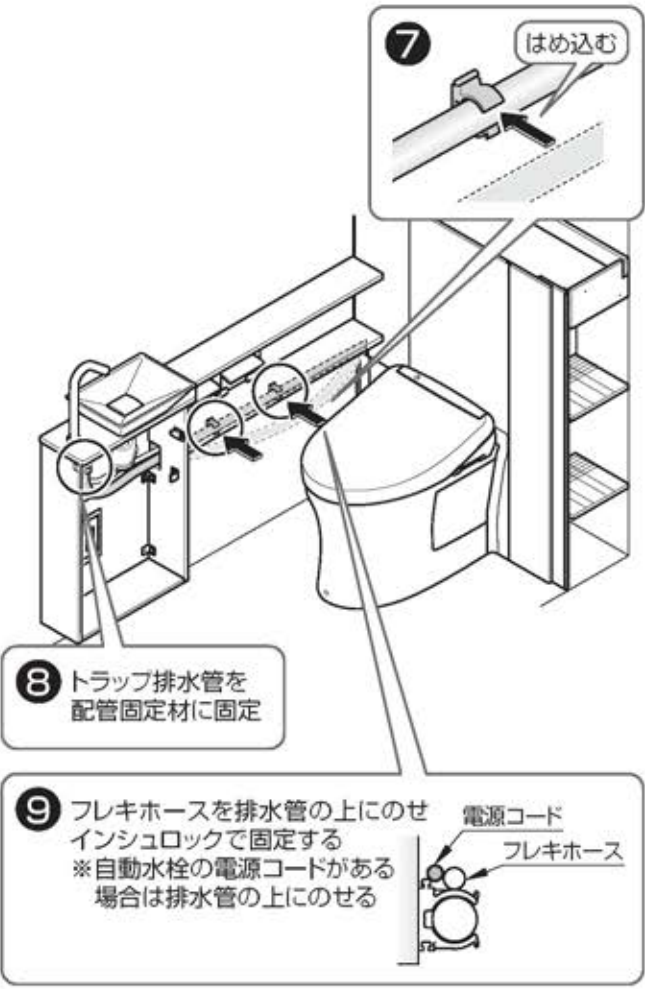
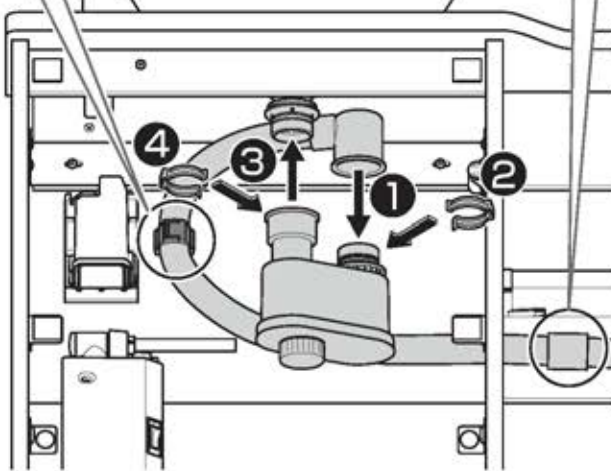
【右勝手】



5 配管固定材に
トラップ排水管を通す
※固定はしない



6



逆勾配注意

トラップ排水管がたるまないように固定する
手洗器から異音発生のおそれがあります。

配管固定材

1 3

注意



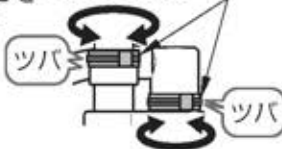
斜めに差し込まない
水漏れして家財などを
めらす財産損害発生
の原因となります。



注意



クイックファスナーが正しく固定されて
いることを確認する
全周にツバがかかっていることを確認する
水漏れして家財などを クイックファスナー
めらす財産損害発生
の原因となります。



MEMO

手洗器 S サイズ

13-S.手洗器キャビネット・カウンター

「手洗器Mサイズ」の場合
P.51を参照してください。

カウンターの水平について

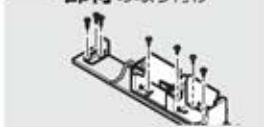
ブラケットおよびカウンターが水平となるように、スペーサーなど（現場手配）で必ず調整してください。
壁仕上げの状態（垂直、目地、鏡面など）によって、カウンターの見ばえに影響が出ることがあります。

1 カウンター類の加工



▶ P.63

2 上段カウンターの部材の取り付け



▶ P.64

3 上段補強木の取り付け



▶ P.66

4 上段カウンターの取り付け



▶ P.67

5 手洗器キャビネットの取り付け



▶ P.67

6 下段カウンターのカット



▶ P.67

7 下段カウンターの部材の取り付け



▶ P.68

8 下段補強木の取り付け



▶ P.69

9 下段カウンターの取り付け

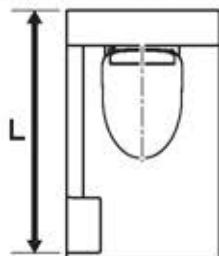


▶ P.70

1 カウンター類の加工

カウンターをカットする場合

奥行寸法Lの測定範囲



ポイント

表面（化粧あり）を上にしてカットする



注意

カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをする
おそれがあります。

必ず守る

カット



← 手洗器側

1600-L

上段カウンター

木口張り

上段補強木

木口張り面:下向き
表面:白

下段補強木

カット



田マーク

下段カウンター

1600-L

配管カバー

両端木口張りなしのカウンターと
配管カバーはここではカットしない

2 上段カウンターの部材の取り付け

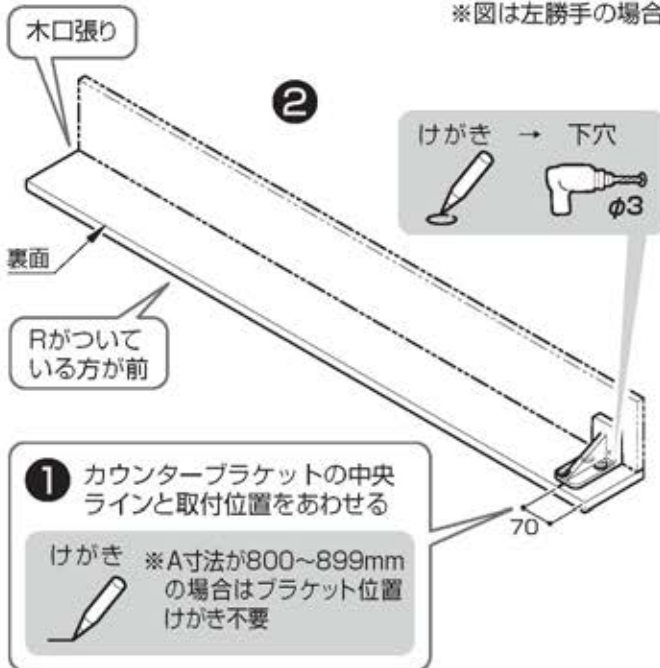
ポイント

ブラケット類の裏面に上段補強桟をあてがい、固定する



A寸法が800mm以上の場合

※図は左勝手の場合



① カウンターブラケットの中央ラインと取付位置をあわせる

けがき ※A寸法が800~899mmの場合はブラケット位置けがき不要

ポイント

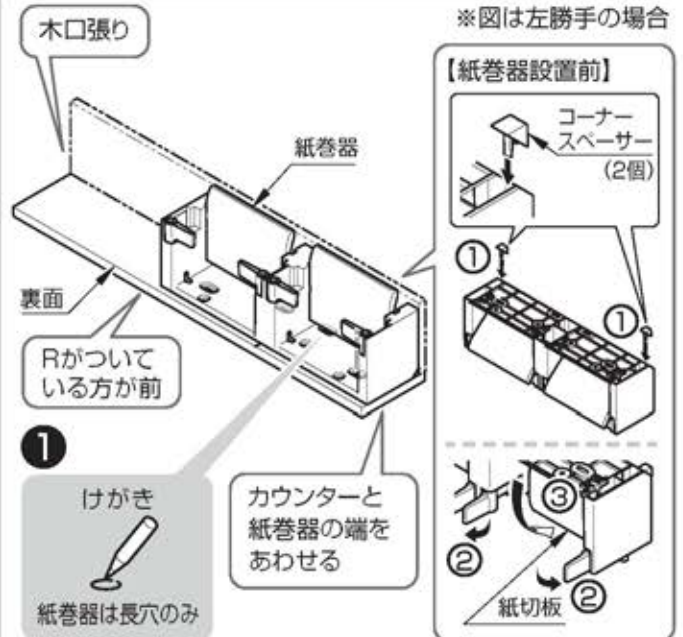
下穴の深さは5mmであける
※貫通させないこと

A寸法が800mmより小さい場合

① 紙巻器を配置しけがく

樹脂製紙巻器の場合

※図は左勝手の場合



①



けがき
紙巻器は長穴のみ

カウンターと紙巻器の端をあわせる

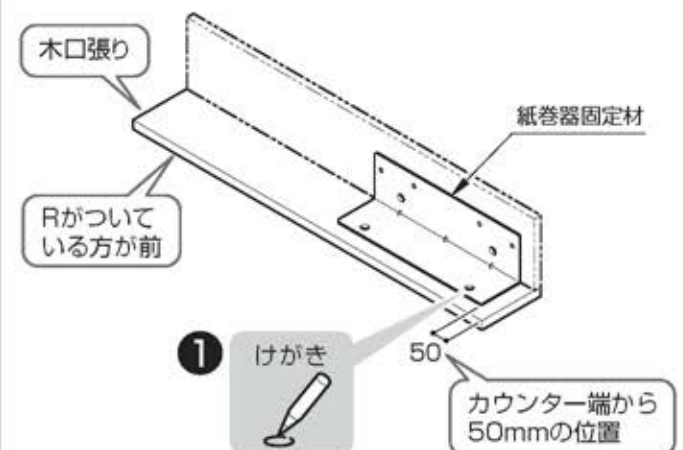
注意

紙切板は外さない

紙切板が動作不良を起こすことがあります。

メタル製紙巻器の場合

※図は左勝手の場合



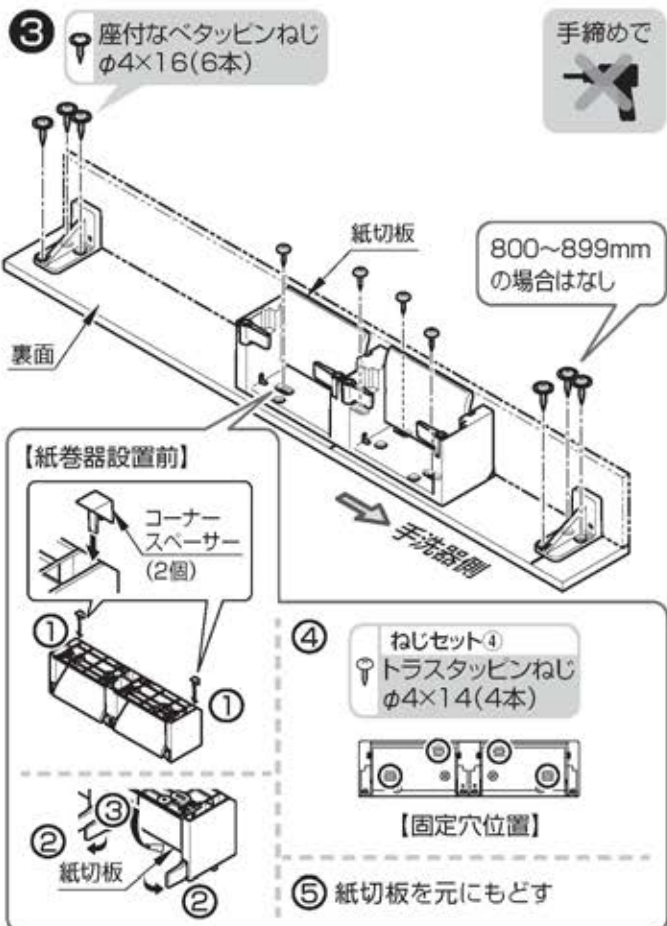
①



けがき
カウンター端から50mmの位置

A寸法が800mm以上の場合

樹脂製紙巻器の場合

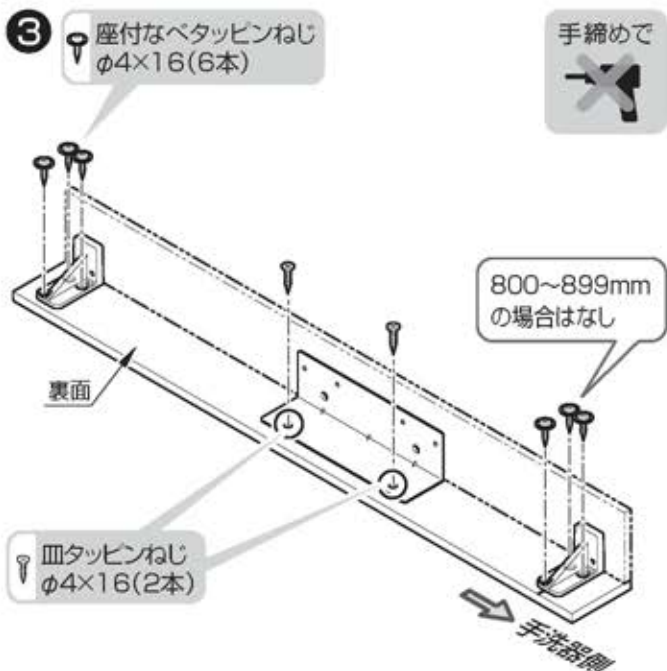


注意

紙切板は外さない

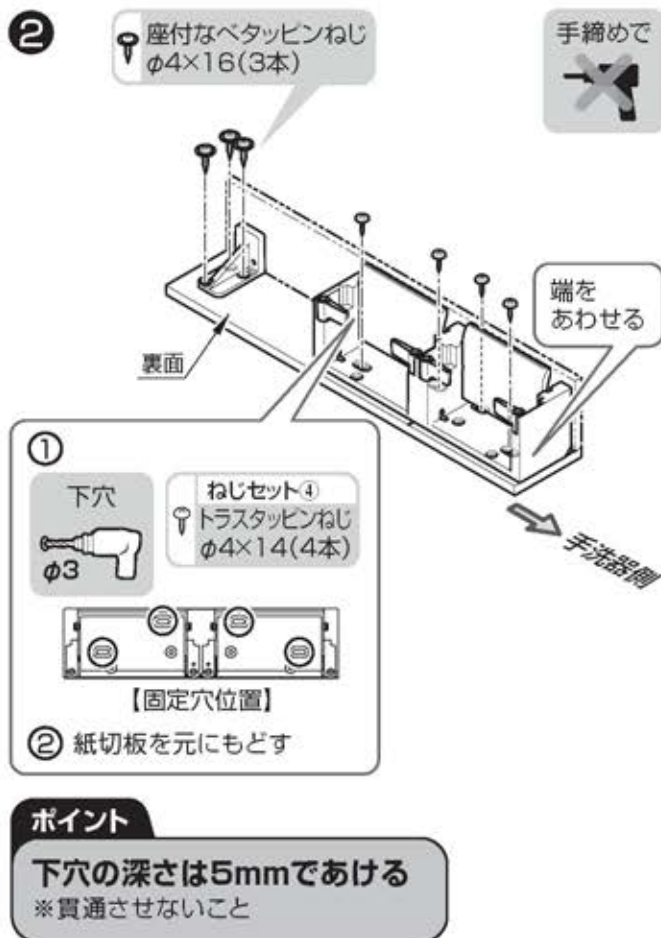
紙切板が動作不良を起こすことがあります。

メタル製紙巻器の場合

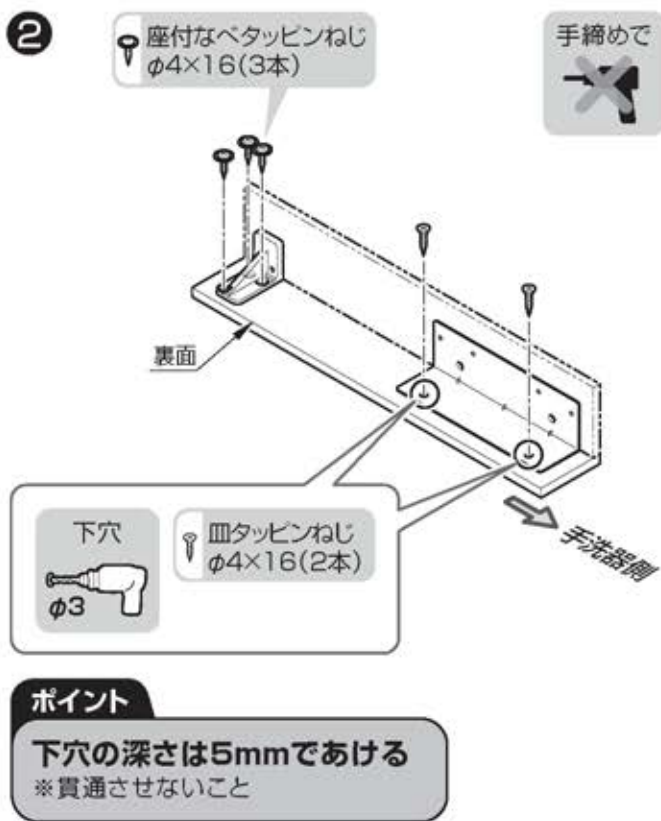


A寸法が800mmより小さい場合

樹脂製紙巻器の場合

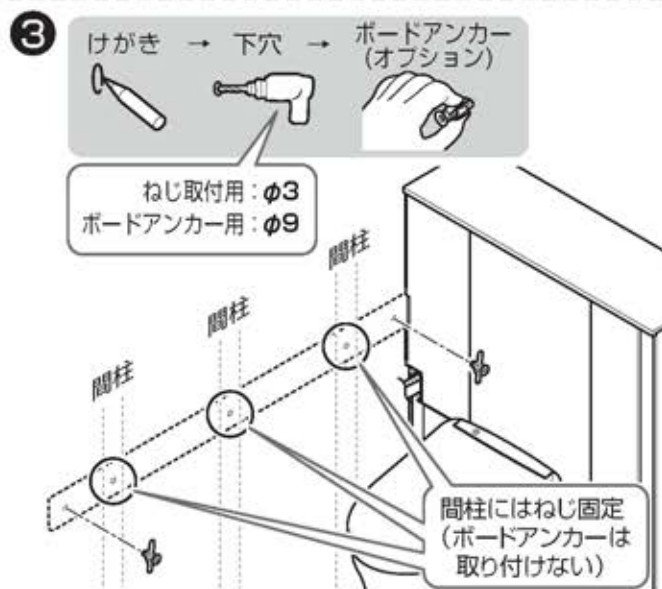
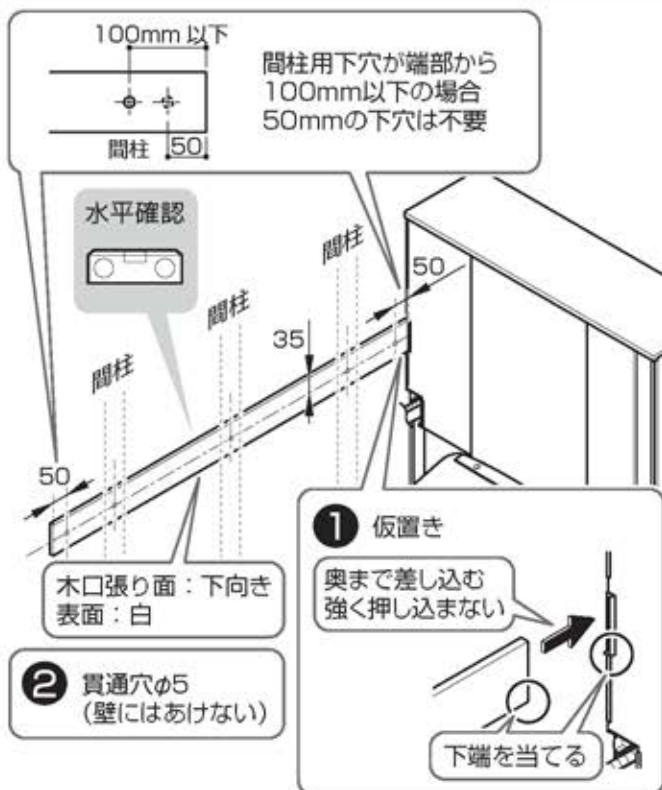


メタル製紙巻器の場合

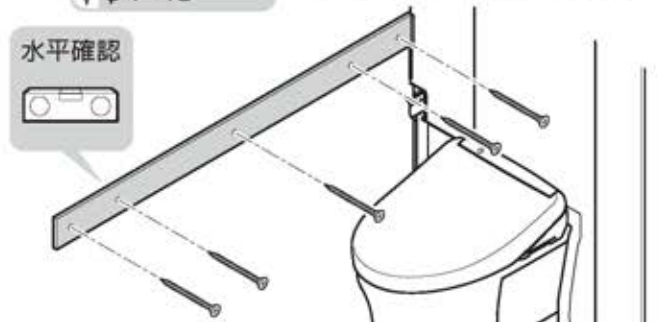


3 上段補強桟の取り付け

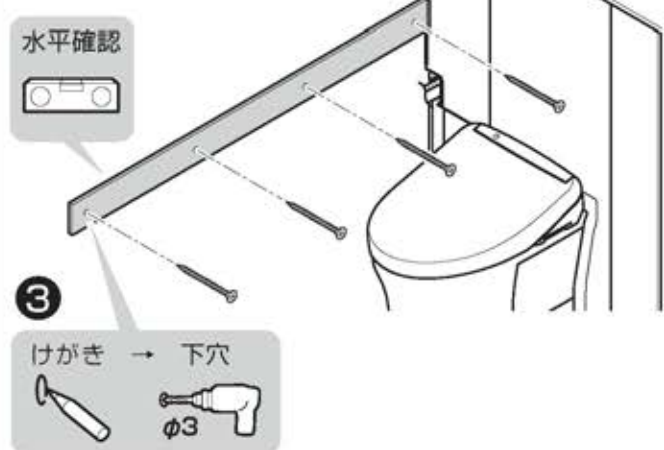
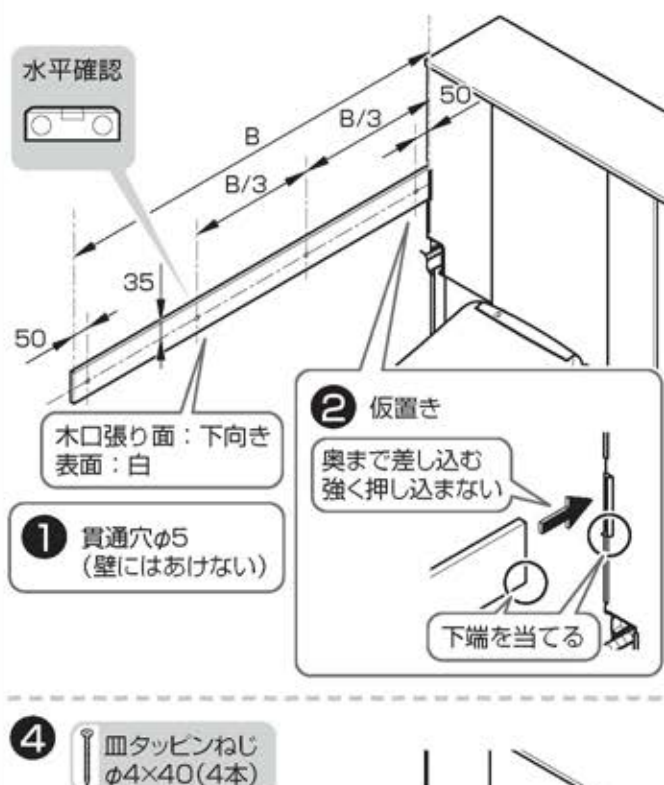
壁裏補強なしの場合



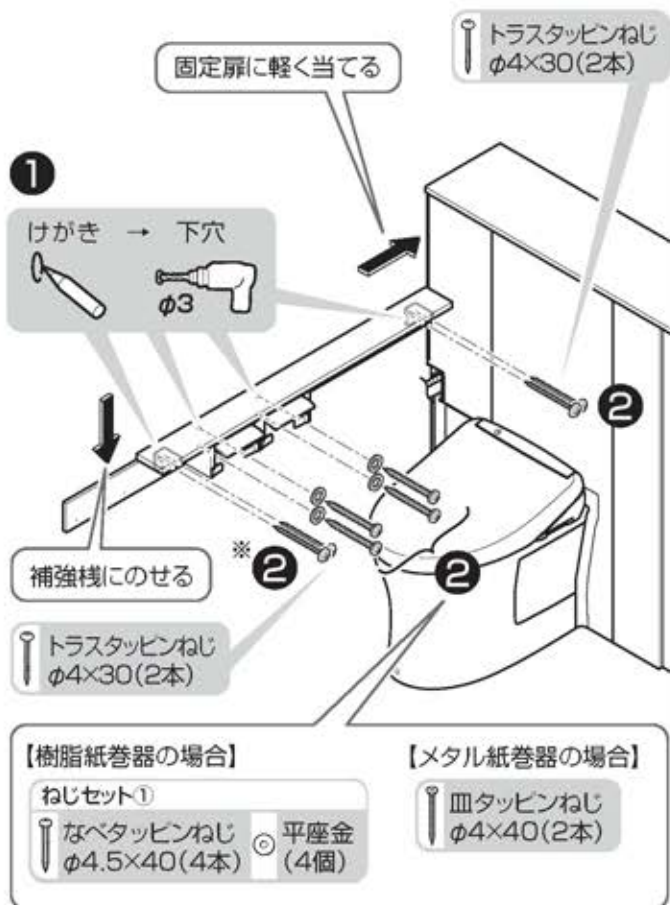
4 皿タッピンねじ φ4×40 ※カウンターの長さによって、使用するねじの数が異なります。



壁裏補強ありの場合



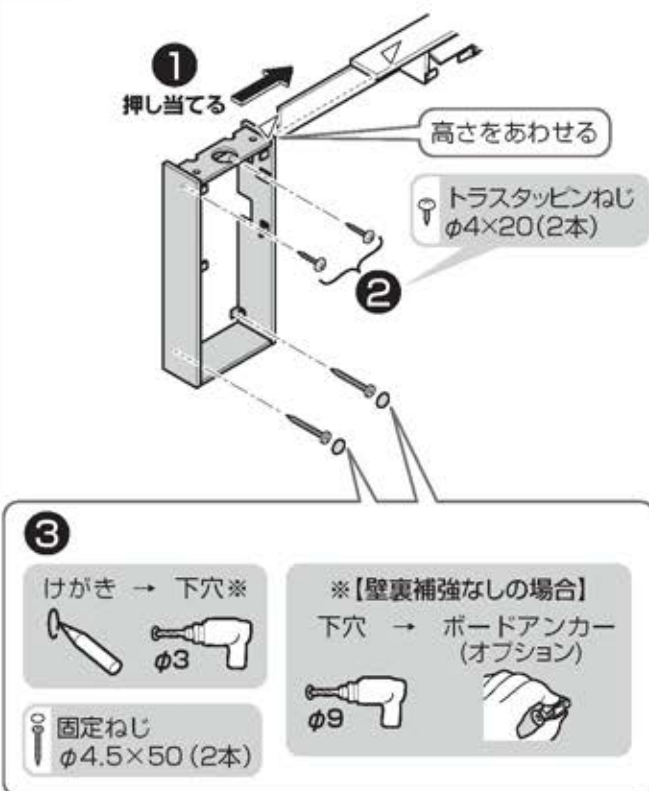
4 上段カウンター取り付け



※900mmより小さい場合は手洗器側のブラケットなし

MEMO

5 手洗器キャビネット取り付け



6 下段カウンターのカット

① カウンターをカットする



ポイント

表面(化粧あり)を上にしてカットする

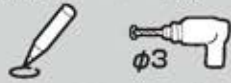
7 下段カウンターの部材の取り付け

ポイント

ブラケット類の裏面に下段補強桎をあてがい、けがく



1 けがき → 下穴



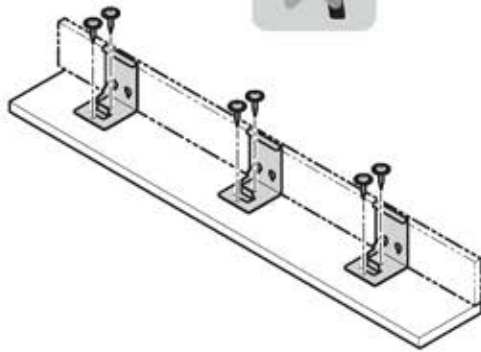
ポイント

下穴の深さは5mmであける
※貫通させないこと

カウンター端から
50mmの位置

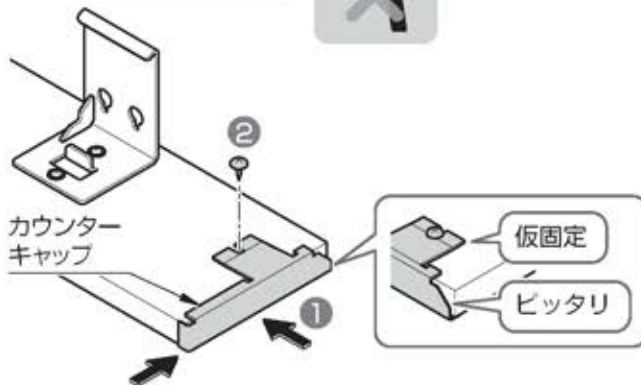
2 座付なベタッピンねじ φ4×16(6本)

手締めで



3 トラストッピンねじ φ4×10(1本)

手締めで



MEMO

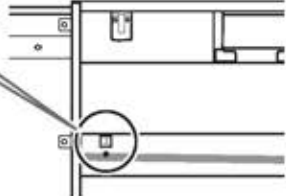
8 下段補強枠の取り付け

壁裏補強なしの場合

注意

向きに注意!

田マークを手洗器側に



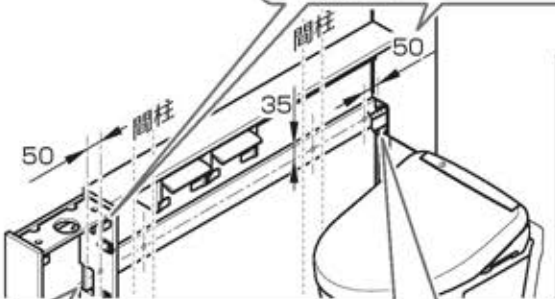
② 貫通穴φ5
(壁にはあけない)

100mm以下



間柱

間柱用下穴が
端部から100mm
以下の場合50mm
の下穴は不要



① 仮置き

切欠き部に
差し込む

奥まで差し込む
強く押し込まない

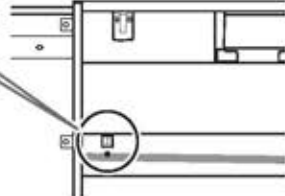
下端を当てる

壁裏補強ありの場合

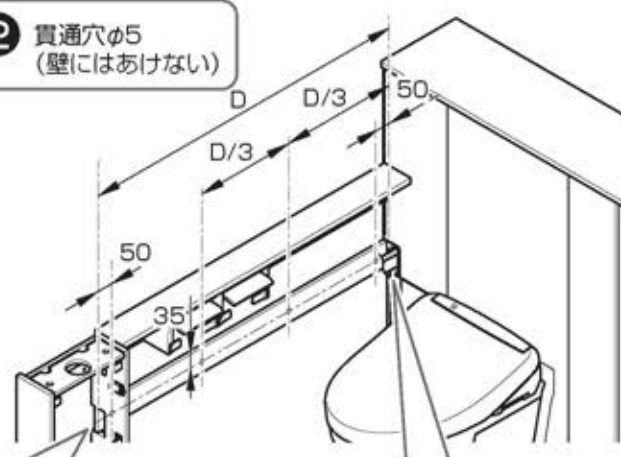
注意

向きに注意!

田マークを手洗器側に



② 貫通穴φ5
(壁にはあけない)



① 仮置き

切欠き部に
差し込む

奥まで差し込む
強く押し込まない

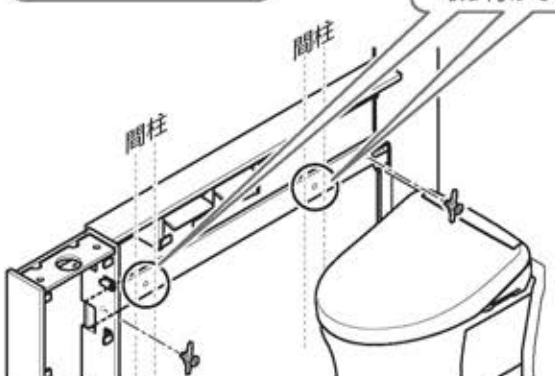
下端を当てる

③ けがき → 下穴 → ボードアンカー
(オプション)



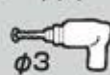
ねじ取付用: φ3
両端ボードアンカー用: φ9

間柱にはねじ固定
(ボードアンカーは
取り付けない)

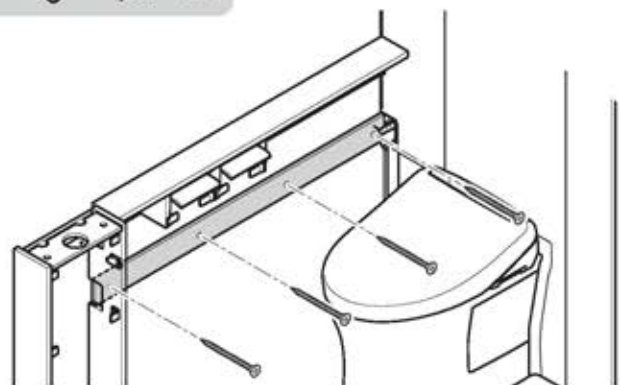


③ 皿タッピンねじ
φ4×40(4本)

けがき → 下穴

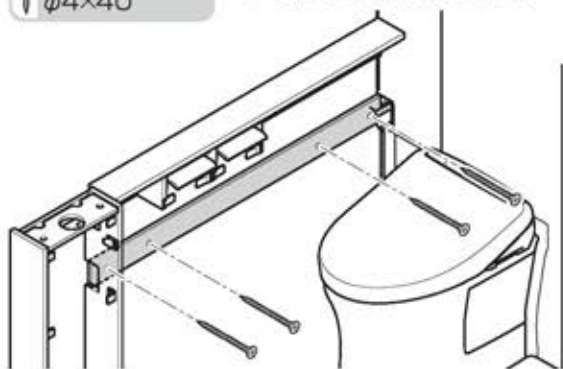


φ3



壁裏補強なしの場合

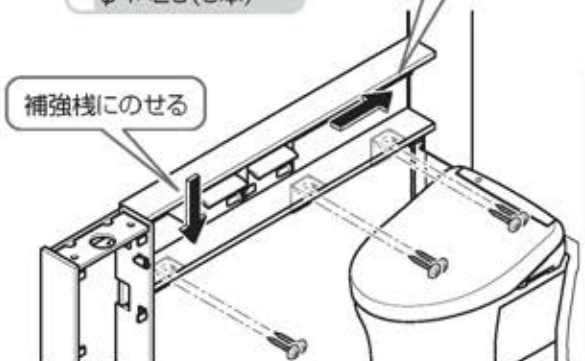
- 4** 皿タッピンねじ $\phi 4 \times 40$ ※カウンターの長さによって、使用するねじの数が異なります。



MEMO

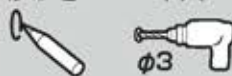
9 下段カウンター取り付け

- 1** トラストタッピンねじ $\phi 4 \times 20$ (6本) 固定扉に軽く当てる



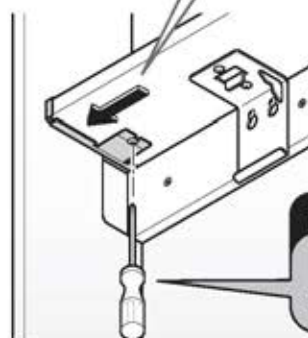
補強棧にのせる

けがき → 下穴



2

キャップを手洗器キャビネットに当てる



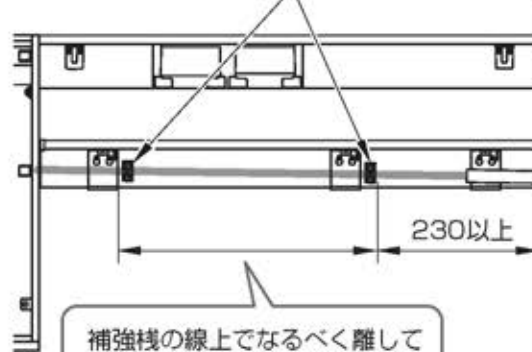
ポイント

ドライバーにて手締めする

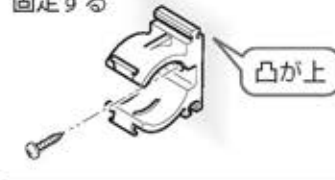
3

なべタッピンねじ $\phi 4 \times 16$ (2本)

配管支持材



補強棧の線上でなるべく離して固定する



手洗器 S サイズ

14-S. 手洗器

1 排水金具の取り付け



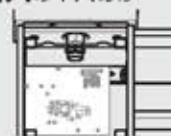
▶P.71

2 手洗器の取り付け



▶P.71

3 取付穴の下穴あけ



▶P.72

4 配管固定材の固定



▶P.72

5 フレキホース(手洗器用)の接続



▶P.72

6 手洗器排水ホースのカット



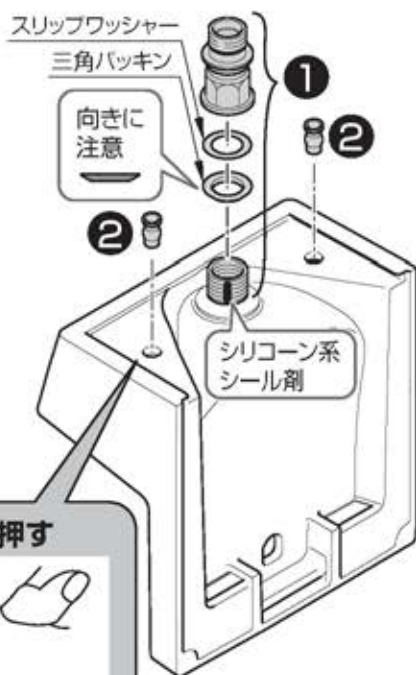
▶P.74

7 排水トラップの取り付け



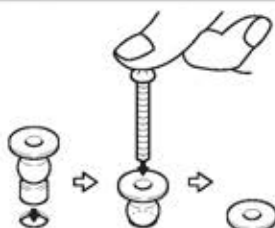
▶P.75

1 排水金具の取り付け



ポイント

取り付けねじで押す



注意



必ず守る

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シーラントを塗布する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



禁止

接続管を締め過ぎない
排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
(手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。)

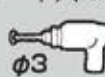
2 手洗器の取り付け

トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)

①



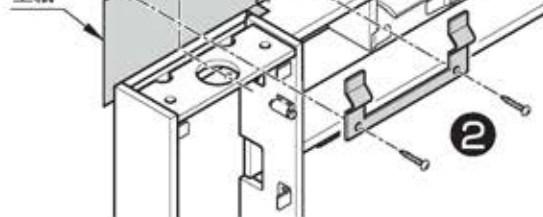
けがき → 下穴※



φ3

カウンター上で
折り曲げる
225
(固定位置)

型紙



②

※【壁裏補強なしの場合】

下穴 → ボードアンカー
(オプション)



φ9



警告



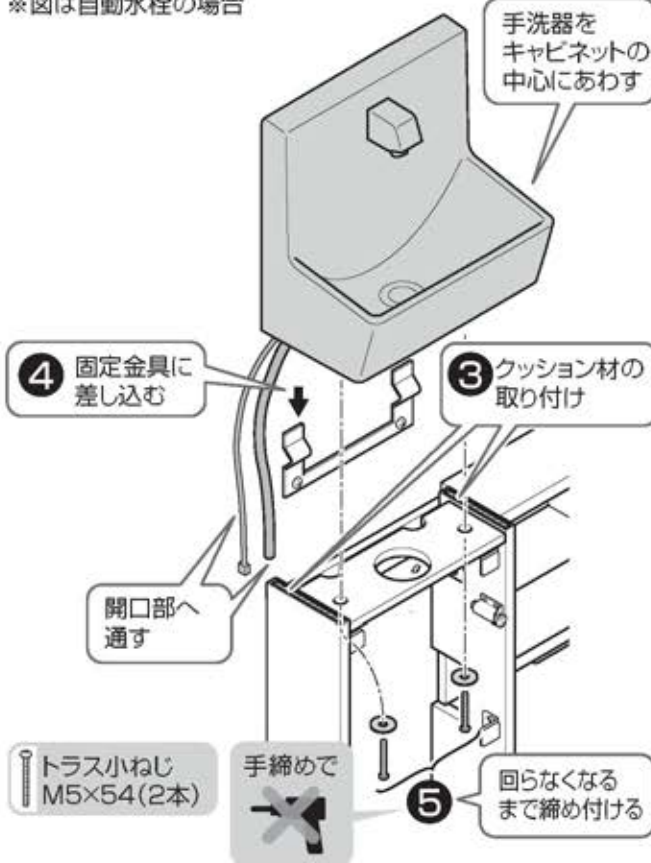
クッション材の張り付けは確実に
水などがキャビネット内に浸入してコンセントに
かかり、火災や感電の原因となります。

注意



水栓部分を持たない
給水金具が破損して水漏れし、財産損害発生の
原因となります。

※図は自動水栓の場合



注意



固定ねじを締め過ぎない
天板が破損する原因となります。

ポイント

開口部にホース類を通す際の注意点

【左勝手】



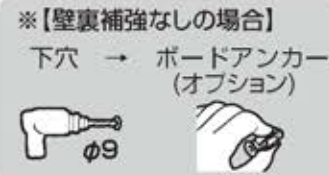
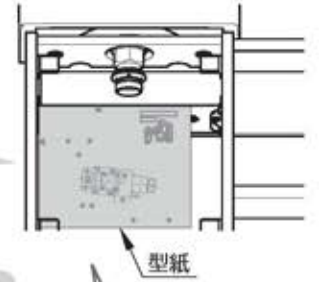
【右勝手】



電気温水器設置の場合のみこちら側へ通す

3 取付穴の下穴あけ

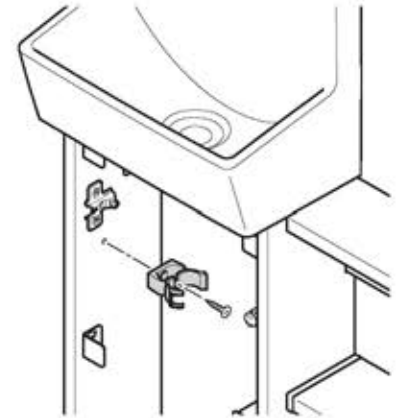
自動水栓



【けがき位置】
自動水栓: 5カ所
電気温水器付自動水栓: 9カ所

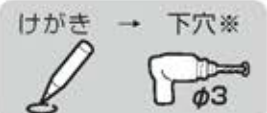
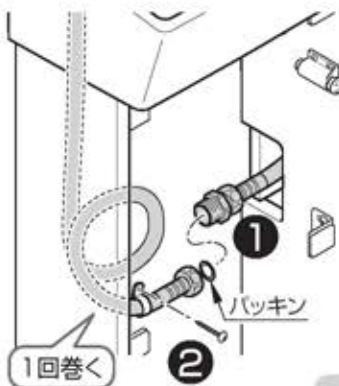
4 配管固定材の固定

皿タッピンねじ
φ4×16(1本)

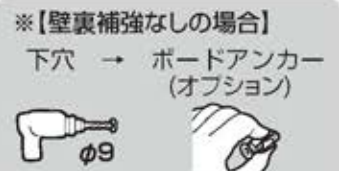


5 フレキホース(手洗器用)の接続

ハンドル式水栓



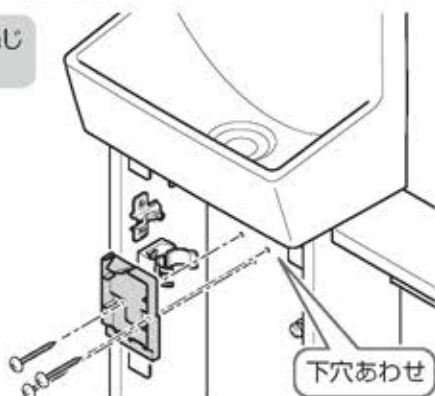
トラスタッピンねじ
φ4×30



自動水栓・電気温水器付自動水栓

① コントローラー固定材の取り付け

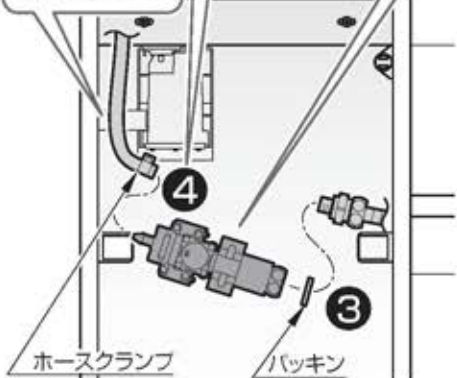
トラスタッピンねじ
φ4×30(3本)



座付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)



適切な長さに
ホースをカット



④ スバウト連結ホースの接続

※電気温水器を設置する場合▶同ページ右参照

⚠ 注意

- ・スバウト連結ホースは、切断面が垂直になるようにカットする
 - ・スバウト連結ホース接続後、確実に固定されていることを確認する
- 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

90°

⑤

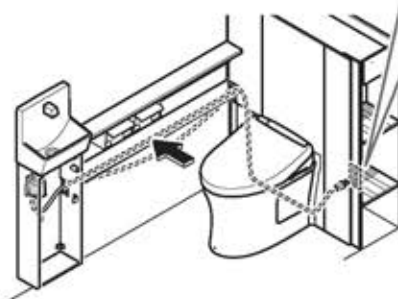
注意



⑥ 電源コードの配置

※電気温水器付の場合不要

自動水栓のプラグを大便器側のコンセント付近まで配置

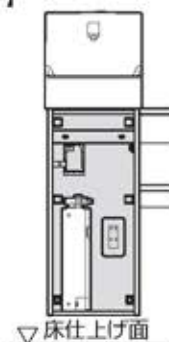


電気温水器付自動水栓

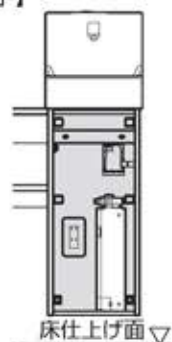
▶電気温水器施工説明書

電気温水器取り付け位置

【左勝手】



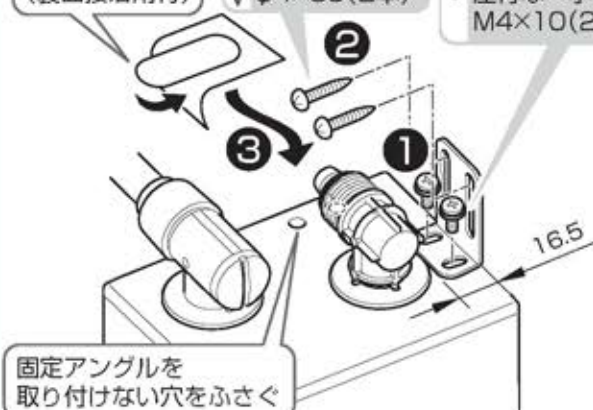
【右勝手】

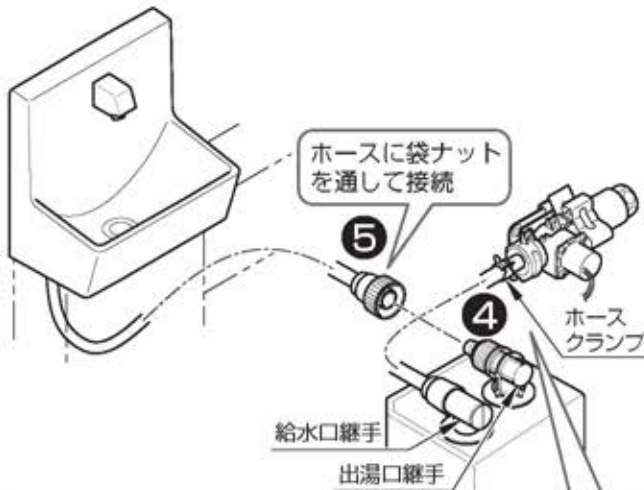


化粧ラベル
(裏面接着剤付)

壁固定用木ねじ
φ4×30(2本)

固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)





ホースに袋ナットを通す

差し込む

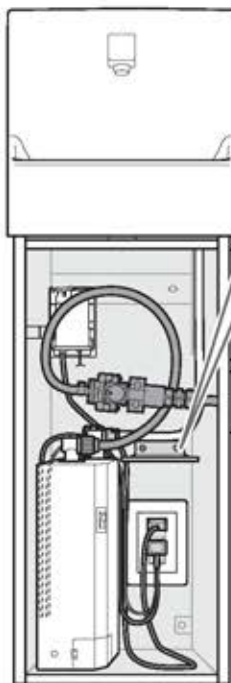


注意

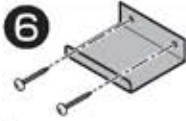


必ず守る

- ・ホースが確実に差し込まれているか確認する
 - ・ホースが折れ曲がらないよう注意する
- 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。



トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)



警告



必ず守る

電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や、扉に挟まないように取り回す
コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。

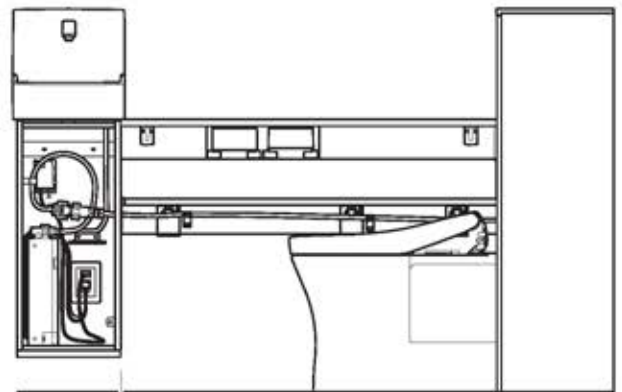


禁止



床仕上げ面

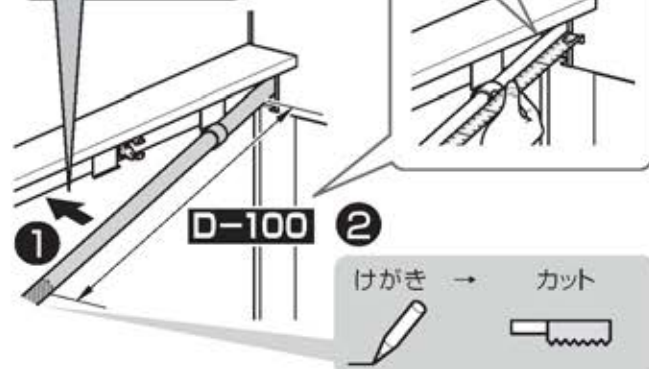
6 手洗器排水ホースのカット



ポイント

排水管を壁側によせてけがく

固定扉キャップに当てて測る



注意



必ず守る

ホースカット時、押切タイプのパイプカッターは使用しない
ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。



カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをされるおそれがあります。

ポイント

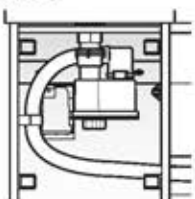
手洗器排水ホースは垂直にカットする



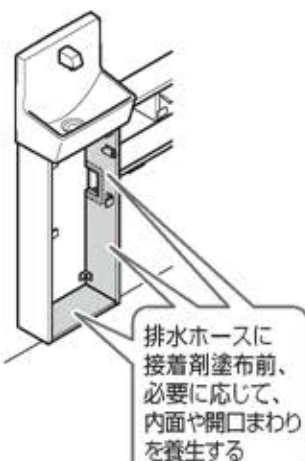
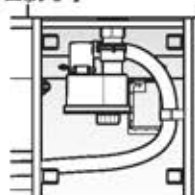
7 排水トラップの取り付け

取り付け状態

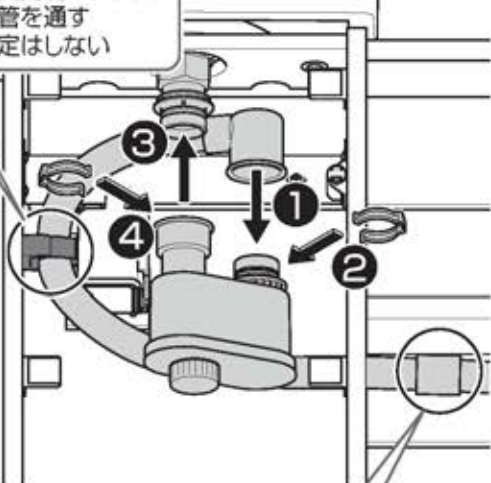
【左勝手】



【右勝手】



5 配管支持材にトラップ
排水管を通す
※固定はしない



1 3

注意

斜めに差し込まない
水漏れして家財などを
ぬらす財産損害発生
の原因となります。

禁止



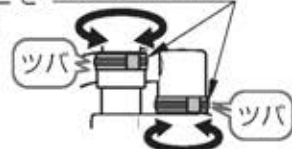
塗布



注意

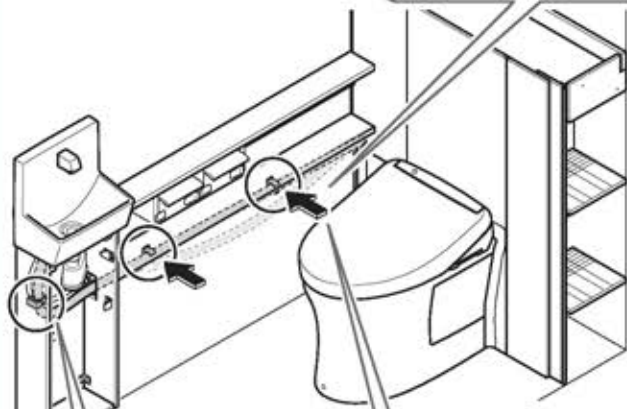
クイックファスナーが正しく固定されて
いることを確認する
全周にツバがかかっていることを確認する
水漏れして家財などを クイックファスナー
ぬらす財産損害発生
の原因となります。

必ず守る



7

はめ込む



8 トラップ排水管を
配管固定材に固定

9 フレキホースを排水管の上のせ
インシュロックで固定する
※自動水栓の電源コードがある
場合は排水管の上のせる

電源コード

フレキホース

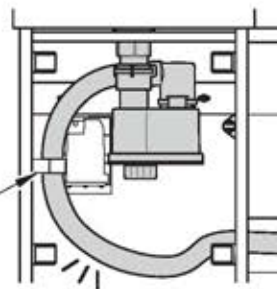


逆勾配注意

トラップ排水管がたるまないように固定する
手洗器から異音発生のおそれがあります。

×

配管固定材



14

手洗器

15. 試運転・確認

- | | | | | |
|--|---|--|--|---|
| 1 水栓の吐水確認

▶P.76 | 2 ウォシュレット
▶ウォシュレット
施工説明書
▼
3 電気温水器
▶電気温水器
施工説明書 | 4 便器洗浄の確認

▶P.76 | 5 大便器・配管類
の水漏れ確認

▶P.77 | 6 水位確認

▶P.77 |
|--|---|--|--|---|

試運転前に

止水栓を開ける
※内側だけを回す



閉 確認後
閉める



1 水栓の吐水確認

注意

【吐水量が少ない場合】

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 2 パッキン交換
(付属) | 1 外す
定流量弁
手洗器側 |
| 3 流量調整 | |

ハンドル式水栓

【Mサイズ】



【Sサイズ】



自動水栓

-
- | | |
|----------------|----------------|
| 【Mサイズ】
センサー | 【Sサイズ】
センサー |
|----------------|----------------|

2 ウォシュレット

吐水確認をする
▶ウォシュレット施工説明書

3 電気温水器

吐水確認をする
▶電気温水器施工説明書

4 便器洗浄の確認

洗浄レバー補助カバー (左勝手の場合)

洗浄レバー補助カバーを
取り外す

洗浄レバー補助カバー

洗浄レバー

【確認ポイント】

- 大・小洗浄とも正常に行われるか
- スムーズに回転するか

注意

正常に作動しない場合、洗浄レバーカバーの
取付位置を確認してください。

洗浄レバー補助カバーを取り付ける

リモコン

流すボタンが取り付けられているか

▶流すボタン取付説明書



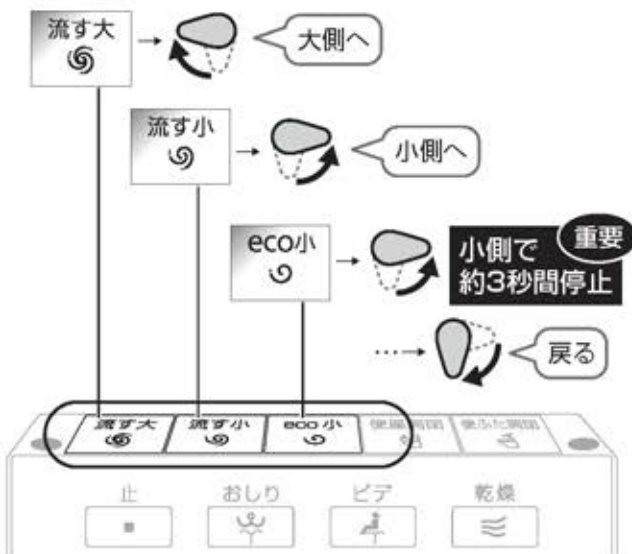
作動確認

【確認のポイント】

□「大」・「小」・「eco小」のボタンを押して、それぞれの洗浄が正常に行われるか

※連続して押すと作動しません。

約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。



※機種によってデザインなどが異なります。

試運転完了後、「運転入/切」が、「入」になっていることを確認する（「運転ランプ」点灯）

「切」のときは、電源プラグをコンセントに差し込んでもウォシュレットは作動しません。

※お客様に引き渡すまでに時間があっても「運転入/切」を切らないでください。

必ず実施してください

6 水位確認

正常な状態

設定変更不要です。



設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。

水たまり面が低い

設定変更してください。

▶P.78

「水たまり面が低い場合の対応方法」



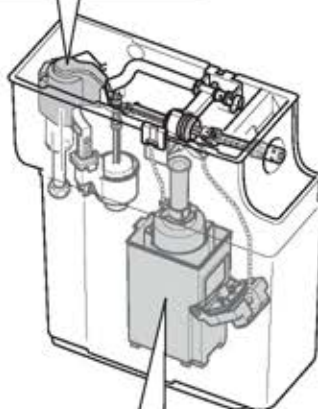
汚物付着の原因になります。
〈水たまり面 低下の理由〉
・排水管に曲がりが多い
・通気が不十分

〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

タンク内を調整する際のご注意

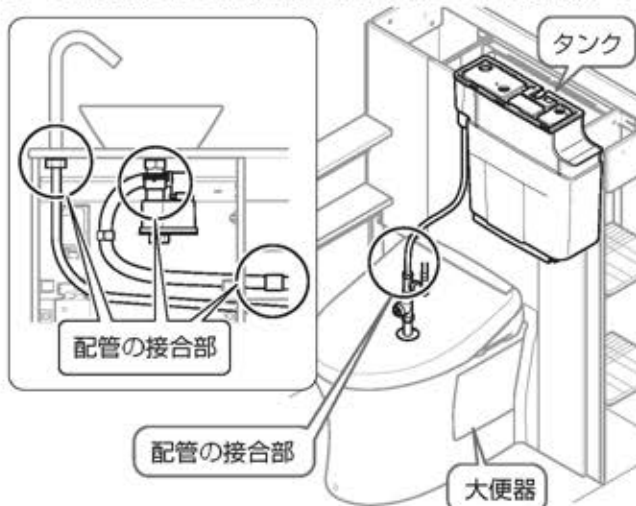
漏水防止カバーを外さない



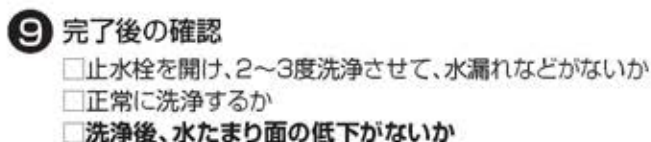
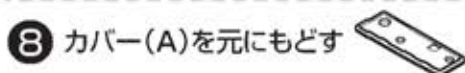
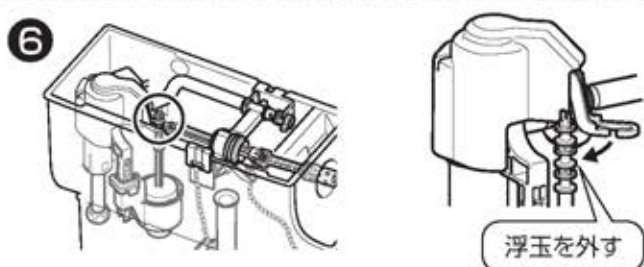
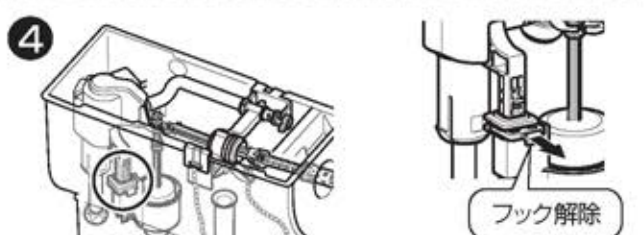
制御筒に力を加えない
排水弁が浮いて、水が流れっぱなしになるおそれがあります。

5 大便器・配管類の水漏れ確認

2~3度洗浄させて、水漏れなどがいないことを確認する



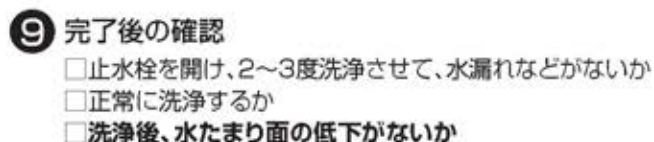
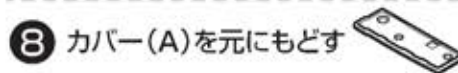
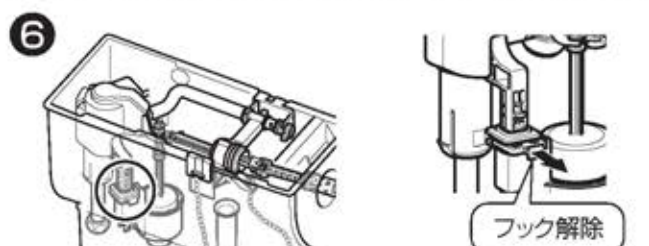
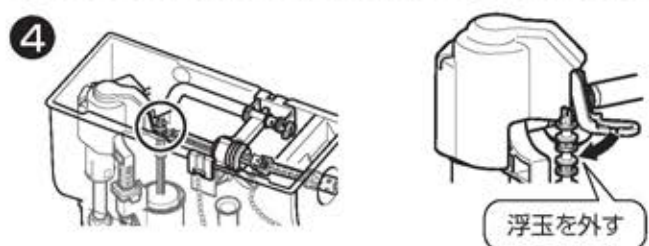
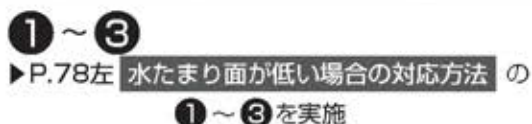
水たまり面が低い場合の対応方法



自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】		変更できます。	
大洗浄	4.8L	大洗浄	6L
小洗浄	3.6L	小洗浄	4.8L
eco小洗浄	3.4L	eco小洗浄	4.6L
		大洗浄	8L
		小洗浄	7.5L
		eco小洗浄	7L

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6Lへの切替方法



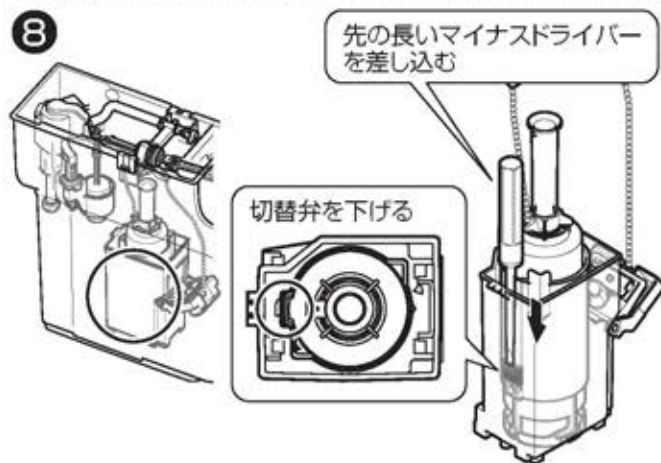
大洗浄8L、小洗浄7.5L、eco小洗浄7L への切替方法

①～⑦

▶P.78右 大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L の

①～⑦を実施

⑧



⑨

カバー(A)を元にもどす

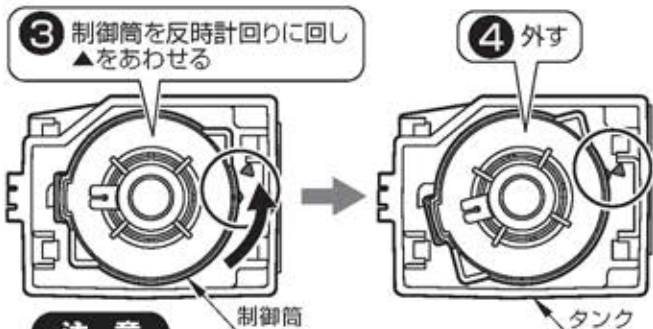
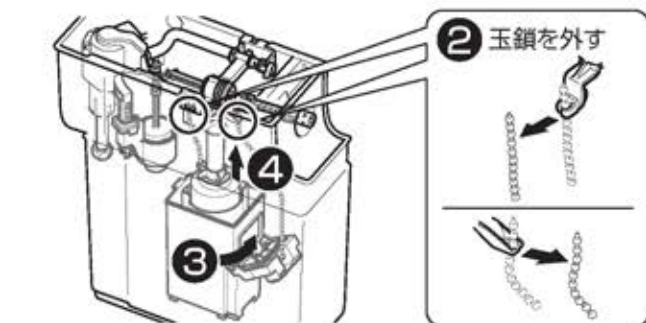
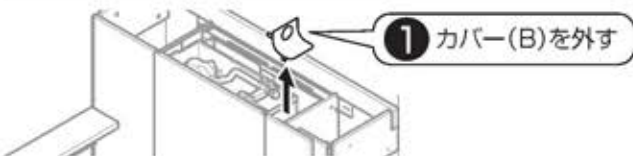


⑩

完了後の確認

- 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
- 正常に洗浄するか
- 洗浄後、水たまり面の低下がないか

切替弁を下げられなかった場合



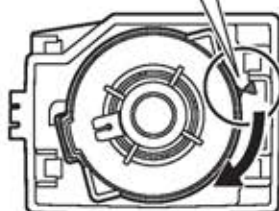
注意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を付けないこと

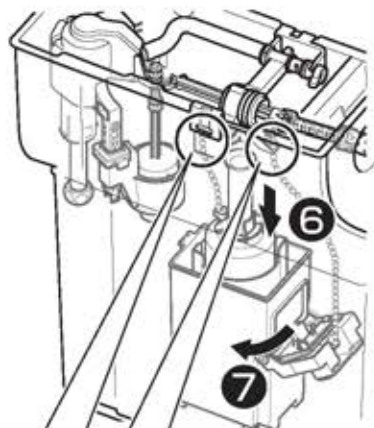
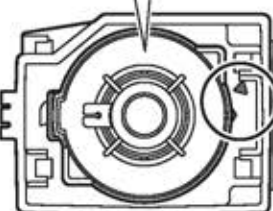
⑤



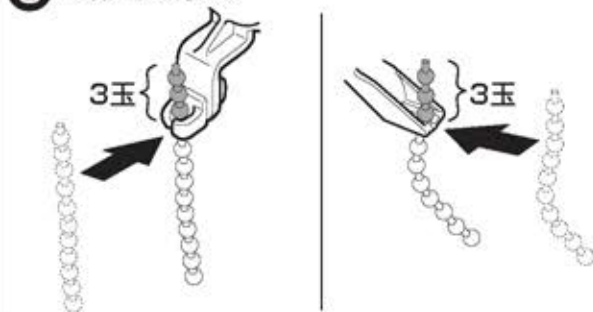
⑥ ▲をあわせて取り付ける



⑦ 制御筒を時計回りに回す



⑧ 玉鎖を取り付ける



正しく取り付けないと止水不良になります。


⑨ カバー(2個)を元にもどす



⑩ 完了後の確認

- 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
- 正常に洗浄するか
- 洗浄後、水たまり面の低下がないか

16. 流動レバー

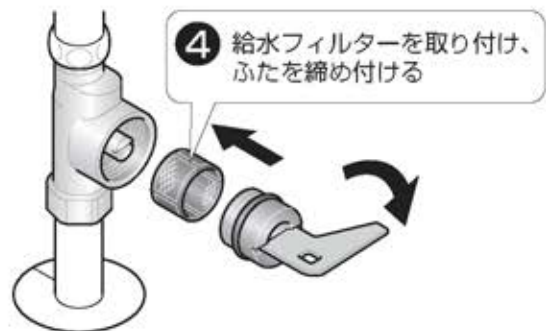
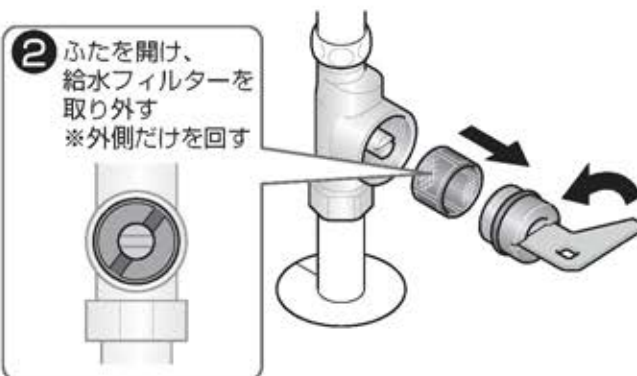
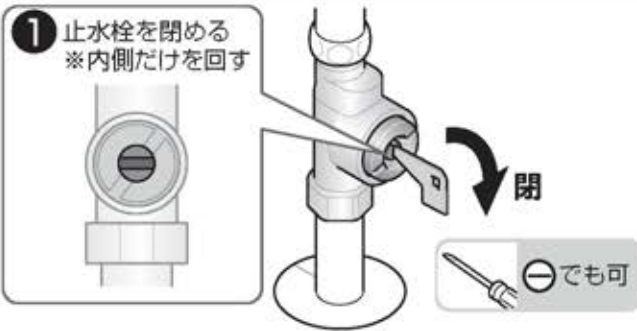
 寒冷地の場合



- 4** 作動確認
- 流動レバーを手前に回し、水を流す。
 - 作動確認後、流動レバーを奥壁側に回し、閉まることを確認する。
 - 確認後、止水栓を閉める。

17. 給水フィルターの清掃

必ず実施してください



※ 止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください。

18. 天板

【まるごと収納タイプ】と【スリム収納タイプ】で施工方法が異なります。
商品タイプをご確認のうえ、作業を進めてください。

まるごと収納タイプ

1 天板の加工



▶P.81

2 天板の取り付け



▶P.81

3 ダンパーの取り付け



▶P.82

4 底板の取り付け



▶P.82

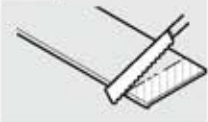
5 天板の調整



▶P.82

スリム収納タイプ

1 天板の加工



▶P.83

2 天板の組み立て



▶P.83

3 天板の取り付け

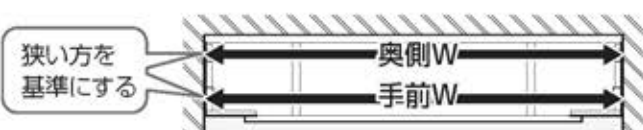


▶P.83

まるごと収納タイプ

1 天板の加工

① W寸法測定



② 天板のカット

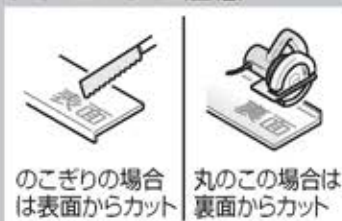


ポイント

鬼目ナット側は
カットしない



チッピングに注意!



のこぎりの場合
は表面からカット

丸のこの場合は
裏面からカット

2 天板の取り付け

皿タッピンねじ
φ3.5×14
(左右計4本)

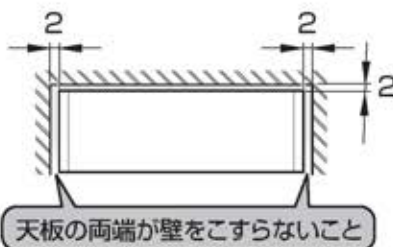
手締めて



注意

扉セットに同梱されているスライド丁番を
使用しないこと
形は同じでも開き角度が違います。

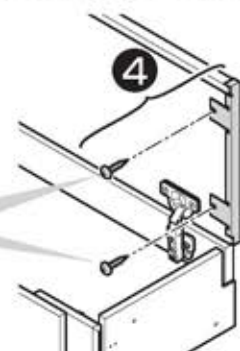
③ 調整



天板の両端が壁をこすらないこと

トラスタッピンねじ
φ4×8 (左右計4本)

手締めて

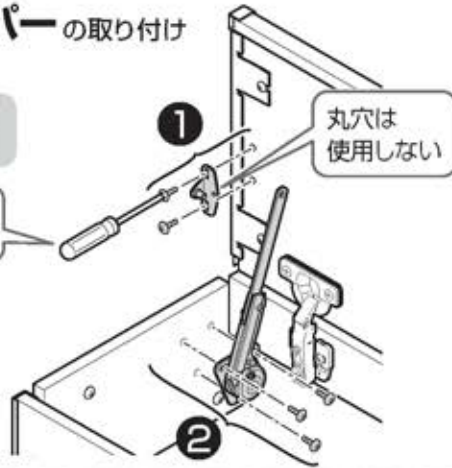


まるごと収納タイプ

3 ダンパーの取り付け

トラス小ねじ
M4×8 (5本)

固定後ゆるみがないか確認

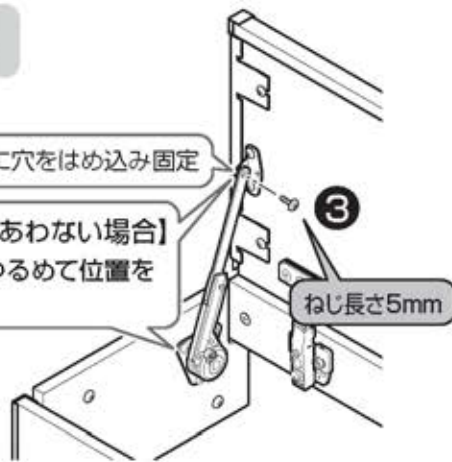


トラス小ねじ
M4×5 (1本)

軸に穴をはめ込み固定

【軸に穴があわない場合】
小ねじをゆるめて位置を調整する

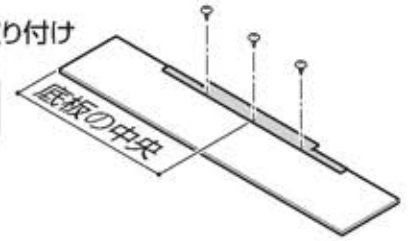
ねじ長さ5mm



3 底板支持材の取り付け

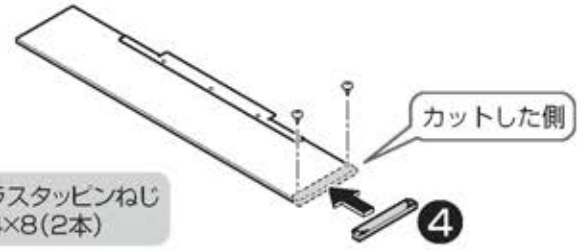
トラスタッピンねじ
φ4×8 (3本)

手締めで



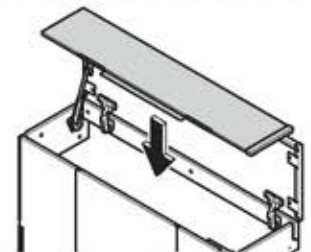
トラスタッピンねじ
φ4×8 (2本)

カットした側



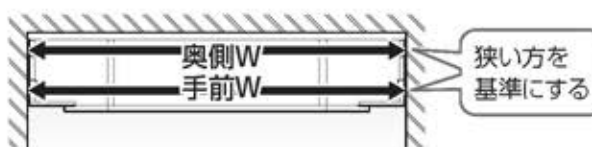
5 底板の取り付け

追加作業があります。
<ここをクリック>

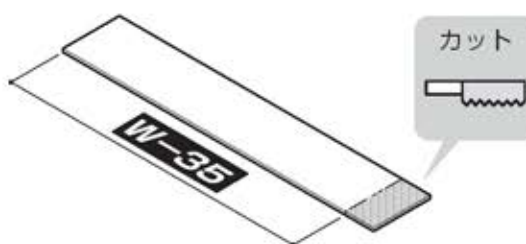


4 底板の取り付け

1 W寸法測定



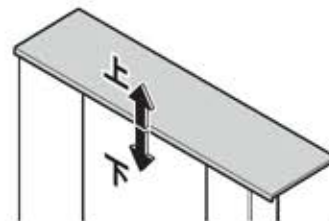
2 底板のカット



5 天板の調整

位置調整

【上下】

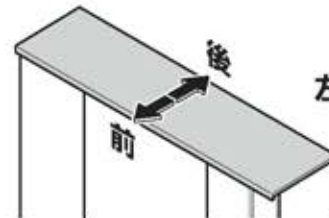


左回し(上)

右回し(下)



【前後】

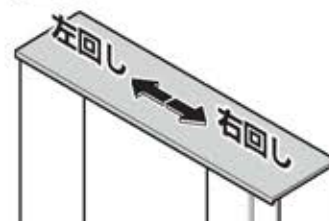


左回し(後)

右回し(前)



【左右】



左回し

右回し



閉まり速度調整



注意



調整時に弱めすぎない
天板が速く閉まり、けがの原因となります。

分解、改造をしない
器具が破損し、けがの原因となります。

※速度調節部は、限度以上に回さないでください。
※温度によりダンパーの作用速度が変わることがありますが、故障ではありません。

【お引渡し前に】
天板の調整を必ず行ってください。

スリム収納タイプ

1 天板の加工

① W寸法測定



② 天板のカット



ポイント

チッピングに注意!



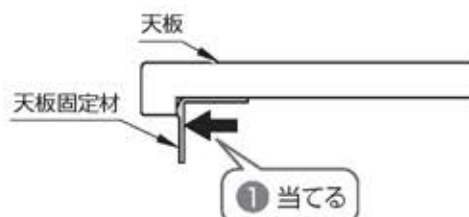
のこぎりの場合は
表面からカット



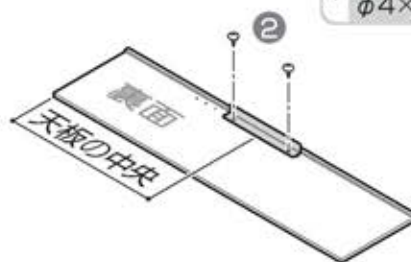
丸のこの場合は
裏面からカット

2 天板の組み立て

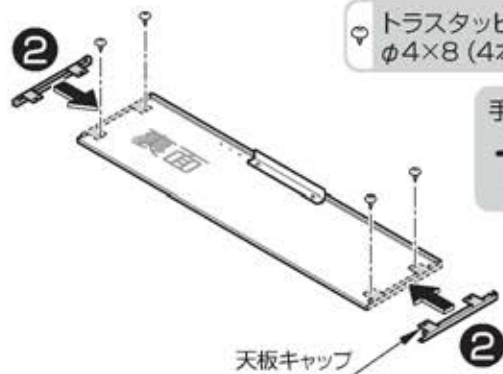
① 天板固定材の取り付け



トラスタッピンねじ
φ4×8 (2本)

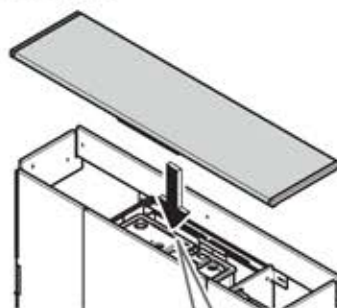


トラスタッピンねじ
φ4×8 (4本)

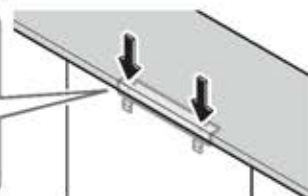
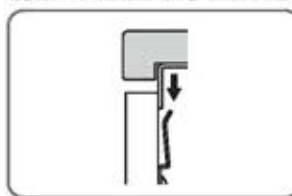


3 天板の取り付け

① 天板の取り付け

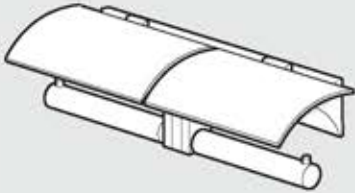


前板に天板固定材を差し込む



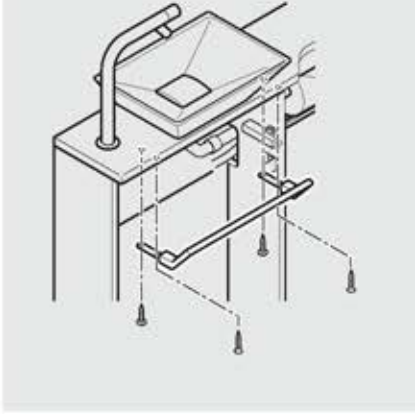
19.器具類

1 メタル製紙巻器



▶P.84

2 タオル掛け



▶P.84

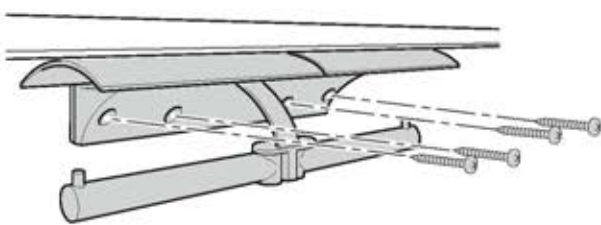
3 リモコン

▶ウォシュレット施工説明書

1 メタル製紙巻器



なべタッピンねじ
φ4×40(4本)



2 タオル掛け

手洗器下取付タイプ
【手洗器Mサイズの場合】

カウンター裏面の下穴に固定
※ねじの取付位置を間違えると、扉に傷がつきます。



奥側
トラスタッピンねじ
φ4×16(2本)

手前側
皿タッピンねじ
φ3×16(2本)

【手洗器Sサイズの場合】
▶専用施工説明書



トラス小ねじ
M4×25(2本)

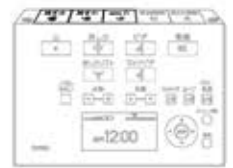
扉に下穴をあけ
タオル掛けを取り付ける

壁取付タイプ ▶専用施工説明書

3 リモコン

① リモコンの取り付け
▶ウォシュレット施工説明書

② リモコンの作動確認
▶P.77「4 便器洗浄の確認」
リモコン



20. 仕上げ

1 カバー類の取り付け



▶P.85

2 シリコン系シール剤の取り付け



▶P.85

3 クッションの張り付け



▶P.86

4 扉の本固定



▶P.87

5 引き出しラック



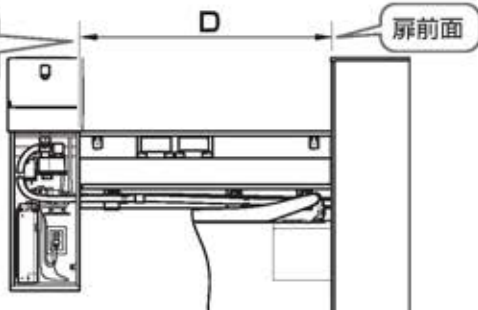
▶P.87

1 カバー類の取り付け

配管カバー

1 配管カバーをカットする(Sサイズの場合のみ)

キャビネット側面



扉前面



正面

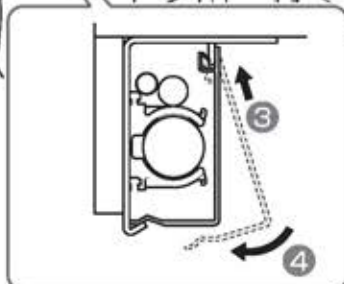
大便器固定扉側

カット



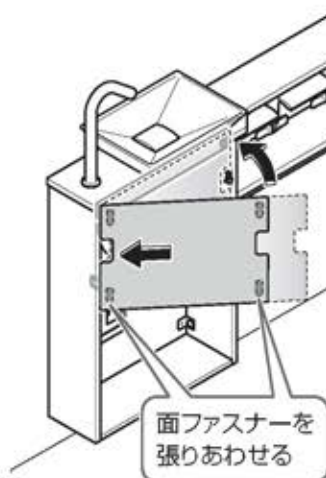
D+10

2 配管カバーの取り付け



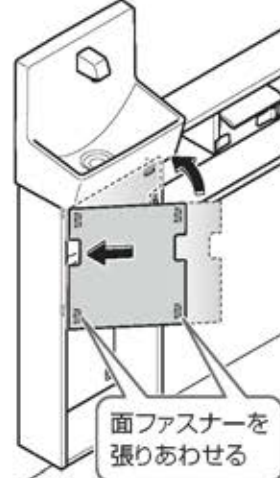
キャビネットカバー

手洗器Mサイズ



面ファスナーを張りあわせる

手洗器Sサイズ



面ファスナーを張りあわせる

⚠ 注意

❗ 取り付け時は強く押し込む
落下してけがの原因となります。

必ず守る

2 シリコン系シール剤の塗布

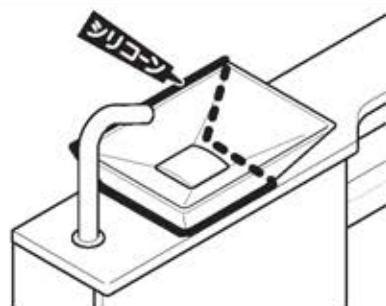
※TOTOおすすめシリコン系シール剤(別途手配)
メジシール(クリア) : YG903S

手洗器 Mサイズ

⚠ 警告

❗ シリコン系シール剤の塗布
(コーキング)は確実に
水などがキャビネット内に浸入してコンセント
にかかり、火災や感電の原因となります。

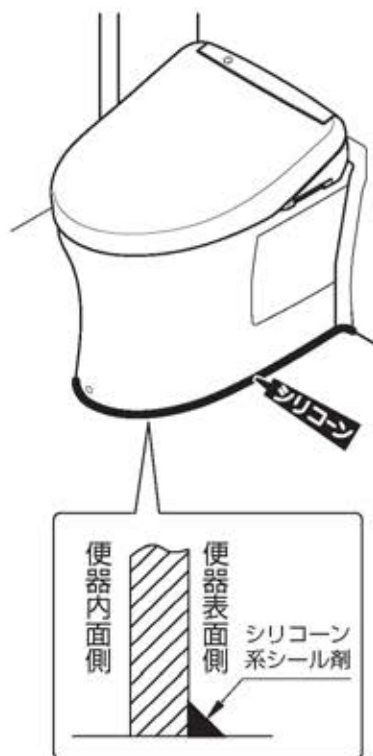
必ず守る



大便器

水や小水の浸入を防止するため、便器床接地部周囲に防カビ性の透明シリコーン系シーラントを塗布することをおすすめします。

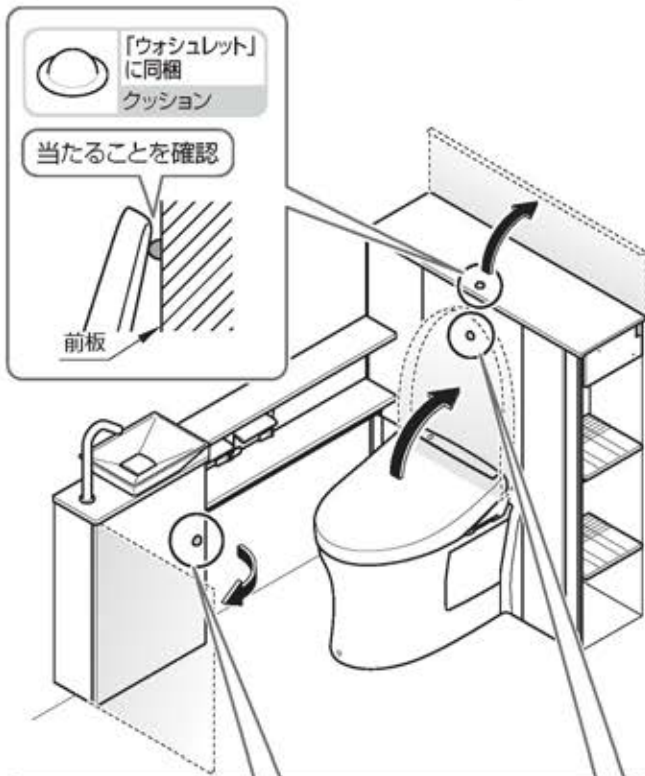
※TOTOおすすめシリコーン系シーラント(別途手配)
メジール(クリア)：YG903S



3 クッションの張り付け

ポイント

張付面は水拭きし、乾燥後張り付ける



天板や扉を開けた時、壁などと当たる場合は張り付ける

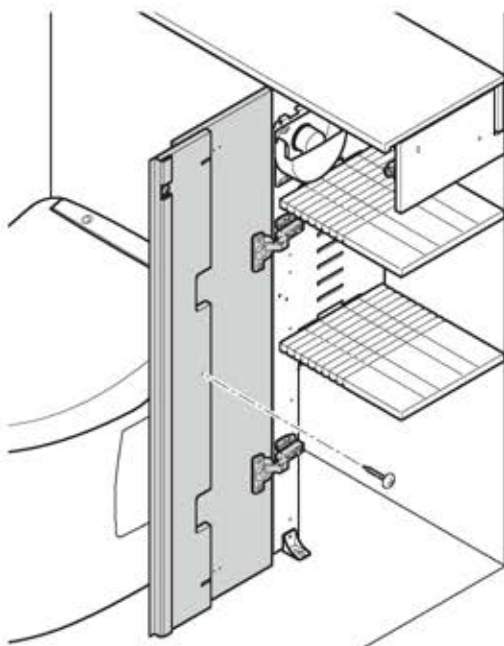
「施工説明書」に同梱
クッション

※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

MEMO

4 扉の本固定

トラスタッピンねじ
φ4×20 (1本)



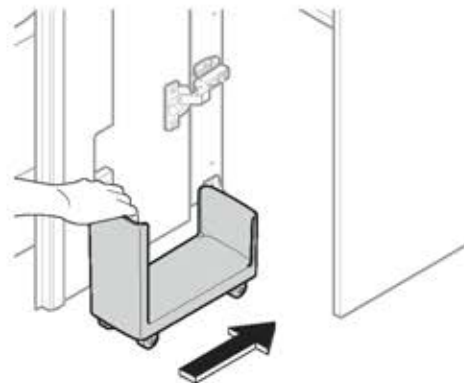
手締めて



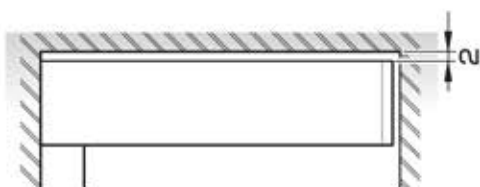
- 扉の調整 ▶ P.48
- 天板の調整 ▶ P.82

5 引き出しラック

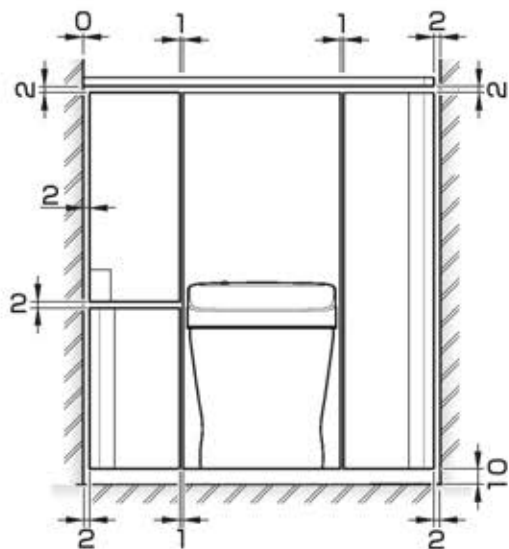
大便器キャビネットの中に収納する



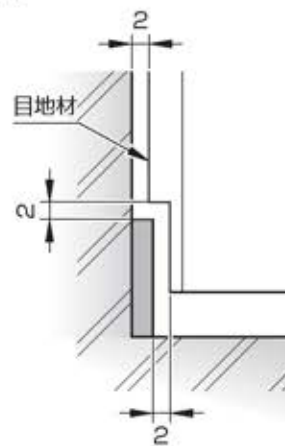
仕上げ状態 (目安)



【天板と壁側板が当たり2mmにならない場合】
ねじをゆるめて押し下げる



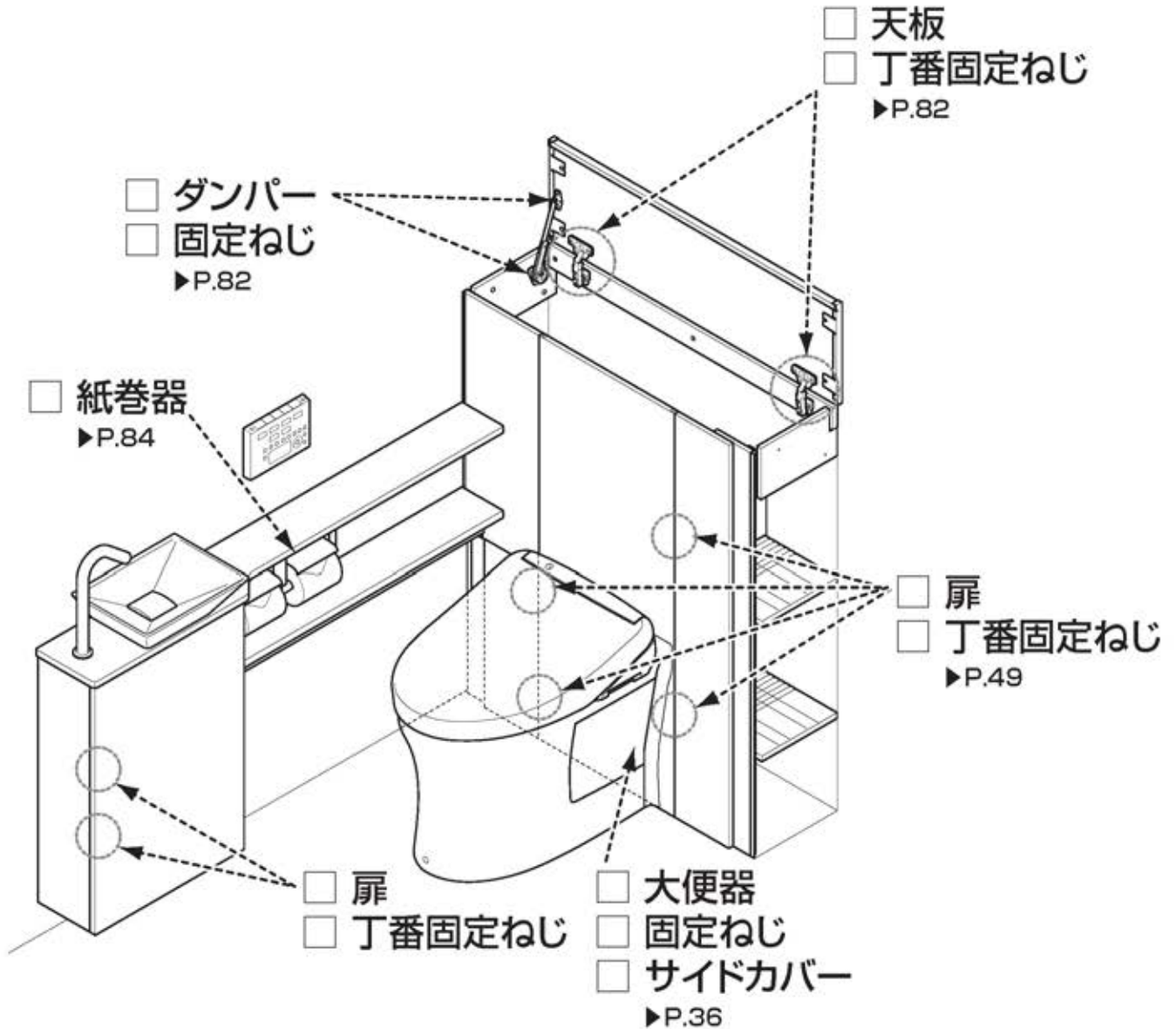
【幅木がある場合】



引渡し前の点検

お引渡し前に、必ず確認してください。

- 大便器や手洗器、配管類から水漏れなどありませんか？ ▶P.77
- フィルター付止水栓のフィルターは清掃しましたか？ ▶P.80
- 扉の目地材と壁が接触していませんか？ ▶P.48
- 扉の丁番はスムーズに開きますか？ ▶P.49
- 以下の箇所にゆるみ・ガタはありませんか？



工事店様へ

このたびはレストバルを施工いただき、ありがとうございました。

UGX1136



変更内容

まるごと収納

底板施工方法の変更

[該当ページにリンク](#)

工事店様へ

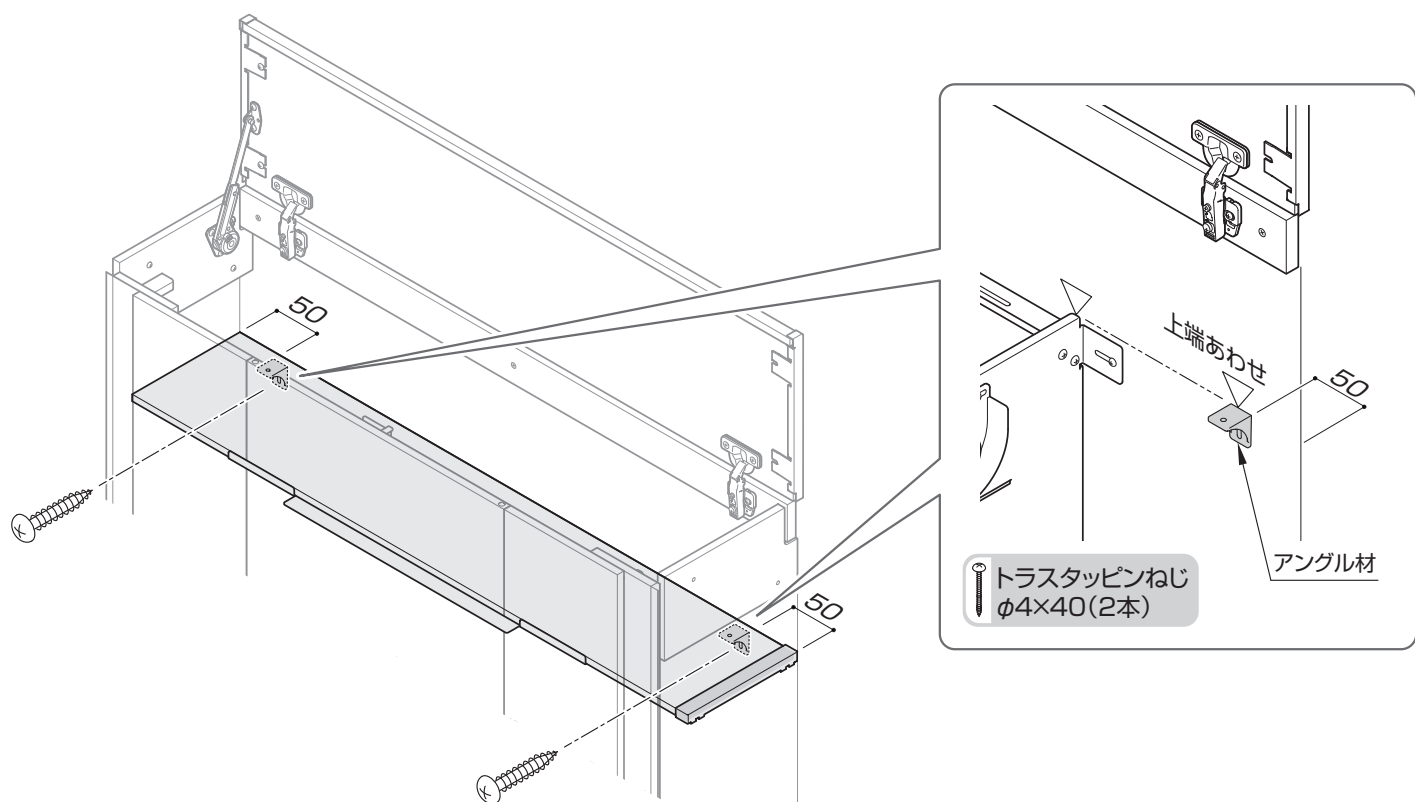
平素は当社商品に格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。
「レストパル/レストパルF施工説明書」における、変更内容につきご連絡いたします。
皆様方には多大なるご迷惑をおかけいたしまして誠に申し訳ありません。
内容をご確認いただき、施工していただきますようお願いいたします。

●変更内容

タンク上収納底板の取り付け後、アングル材を図の位置(両側2カ所)にトラスタッピンねじ($\phi 4 \times 40$)で後壁へ固定してください。

●施工説該当ページ(**4** 底板の取り付け)

- ・レストパル I型 壁排水 (GH05864 P.50)
- ・レストパル I型 床排水 (GH05865 P.50)
- ・レストパル L型 壁排水 (GH05866 P.75)
- ・レストパル L型 床排水 (GH05867 P.82)
- ・レストパルF L型 床・壁排水 (GH05872 P.85)
- ・レストパルF I型 床・壁排水 (GH05873 P.54)



2. 取り付け前のご注意

取り付け前の確認

- 1 取り付けに必要なトイレスペースを確保する
▶P.6「設置寸法」参照
※手洗器キャビネットを設置の際は、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合があります。
- 2 給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認する
※ウォシュレット用電源コードの長さは約1mです。
コンセントはこの長さに適した所定の位置に設置しているか確認してください。
- 3 給水条件
最低必要水圧：0.05MPa(流動時)
最高水圧：0.75MPa(静止時)
給水温度：40℃以下
この圧力範囲で使用してください。
- 4 キャビネットの表面に指定のクッション材・ラベル以外は張らない
- 5 ボードアンカーは、引抜強度200N以上のものを使用して、正しい施工方法で取り付ける

参照

「水漏れ確認」は、本説明書を参照してください。
「ウォシュレットへの通電」はウォシュレット施工説明書を参照してください。

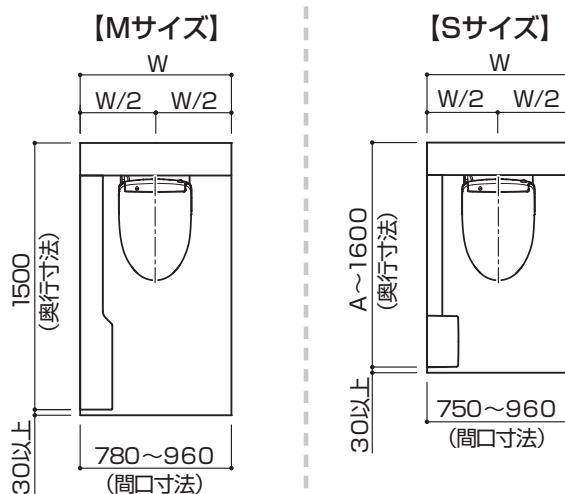
1 設置寸法

トイレの広さは以下の寸法を確保してください。
間口750mm未満には対応できません。

間口750~960mm

- ・Sサイズ カウンターは、使い勝手に応じて手洗器位置を設定し、トイレ奥行寸法にあわせて下記の長さにカットできます。
- ※まるごと収納タイプとスリム収納タイプでは、便器前出寸法が異なるため、設置できるトイレのカウンターカット寸法が異なります。

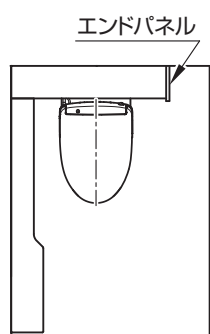
タイプ	A	
	間口750~885	間口856~960
まるごと収納タイプ	1265	1190
スリム収納タイプ	1190	



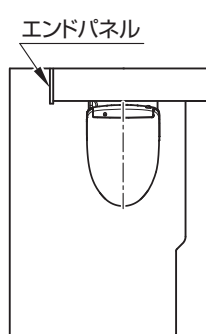
エンドパネルを使用する場合

- ・エンドパネルを利用して、壁とすき間をあけて設置することもできます。

【Lタイプの場合】



【Rタイプの場合】



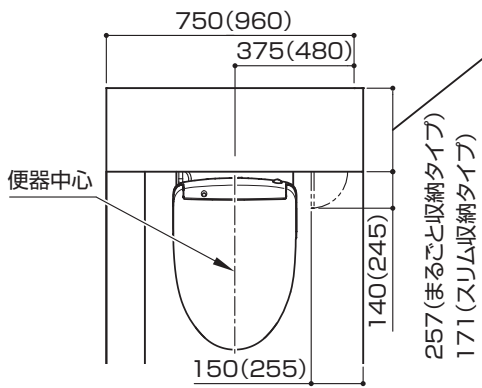
MEMO

2 キャビネット扉の開閉範囲

- ・大便器キャビネット、手洗器キャビネット扉は下図の範囲で開閉します。
- ・開閉範囲内に障がい物がないことを確認してください。

大便器キャビネット

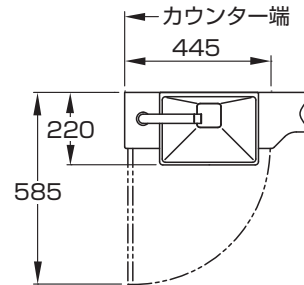
()内は間口960mmの場合



手洗器キャビネット

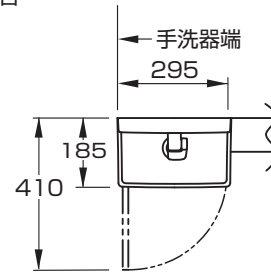
【Mサイズ手洗器】

※図は左勝手の場合



【Sサイズ手洗器】

※図は左勝手の場合



MEMO

3 排水位置

・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。

排水心200タイプ

- ・排水管(VP・VU75またはVP・VU100)は床から $60\pm 5\text{mm}$ で立ち上げてください。
 - ・排水管の材質および高さが下図と異なる場合、下記の必要部材を別途手配してください。
- また、フランジを利用する場合も必要に応じて下記部材を別途手配してください。

必要部材

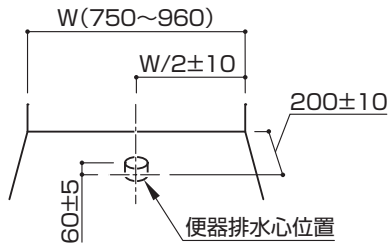
●排水心 200mm

排水管	排水管高さ	排水管高さ	
		0~55mm未満	55mm以上
VP・VU 75/100	60mm立ち上げアダプター (HH01001R)	—	—
鉛管 $\phi 75/100$	排水ソケット (T90SW75/100) にて 立ち上げ直しが必要	—	—

●排水心 200mm(フランジ利用)

排水管	VP・VU 75/100	取り替えアダプター(HH01003R) フランジ(HP430-7/HP430-1)※
排水管	鉛管 $\phi 75/100$	取り替えアダプター(HH01003R) フランジ(T53WR75/T53WR100)※

※ 既設フランジが使用できない場合



排水心可変タイプ

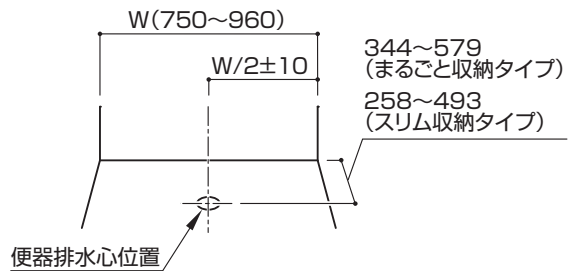
- ・既設フランジを利用します。
- ・既設フランジが使用できない場合は、下記の必要部材を別途手配ください。

必要部材

●排水心 258 ~ 579mm リモデル

排水管	VP・VU 75/100	フランジ(HP430-7/HP430-1)※
排水管	鉛管 $\phi 75/100$	フランジ(T53WR75/T53WR100)※

※ 既設フランジが使用できない場合

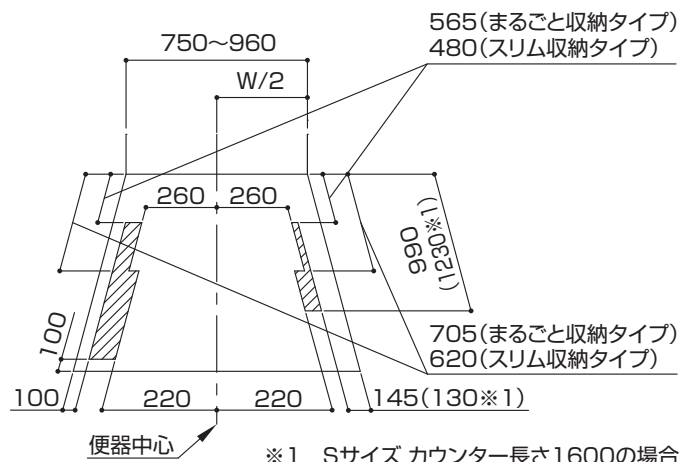


4 寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓位置

- ・水抜栓立ち上げ可能な範囲は下図のとおりです。
- ※図はMサイズ・右勝手の場合です。左勝手の場合は、下図と逆勝手となります。

事前確認

- 紙巻器の設置位置を確認
 - ※水抜栓高さが、450mmを超える場合は、紙巻器に干渉するおそれがあります。
- 棚付二連紙巻器や、足元ダストBOXなどを設置する場合は、棚板や扉などと干渉しないかを確認

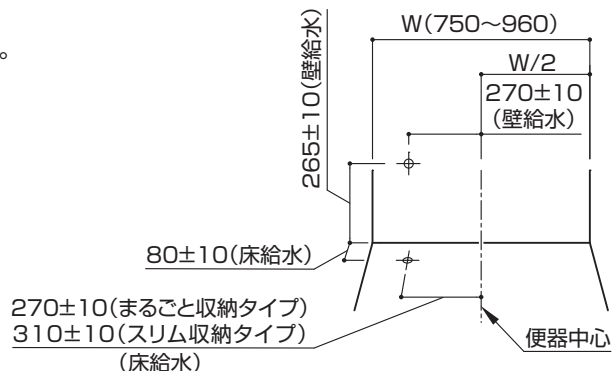


※1 Sサイズ カウンター長さ1600の場合

5 給水位置

給水新設の場合

- ・ 下図の位置に仕上げ面と同一面に給水管(Rc1/2)を取り出してください。
- ・ 手洗器が左右勝手とも、給水位置は共通です。
- ・ 寒冷地(水抜方式)の場合は、床給水のみとなります。



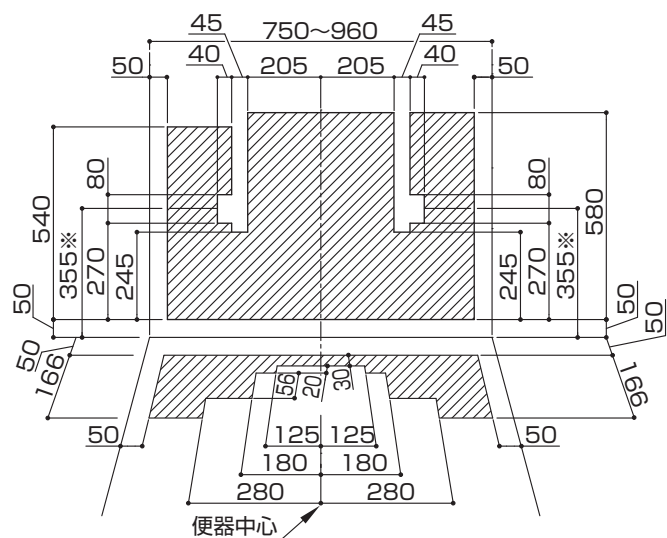
既存給水流用の場合

- ・ 下図の領域内が対応範囲となります。
- ・ 対応範囲内に給水管(Rc1/2)の中心があることを確認してください。仕上げ面と同一面に給水管を取り出してください。
- ・ 手洗器が左右勝手とも対応範囲は共通です。

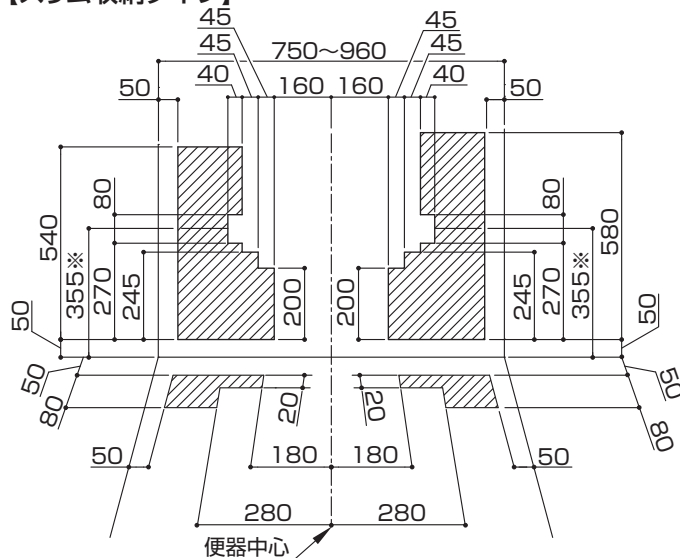
一般地・流動方式の場合

- ・ 給水位置が便器中心より右側の場合は、延長ホース(UGTN98L2X50R)を別途手配してください。
- ・ ※印より上に給水位置がある場合は、棚板が取り付けられません。

【まるごと収納タイプ】



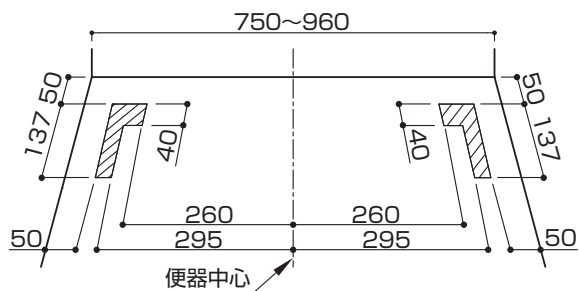
【スリム収納タイプ】



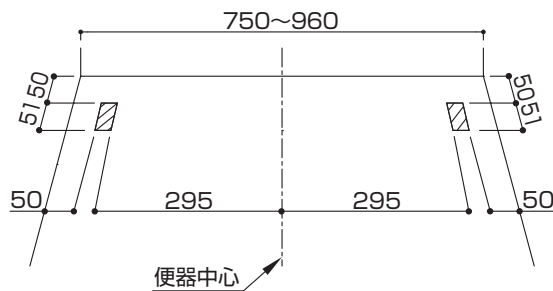
水抜方式の場合

- ・ 給水位置が便器中心より右側の場合は、延長ホース(TN98L2X30)およびエルボ(D13084W)を別途手配してください。

【まるごと収納タイプ】



【スリム収納タイプ】



6 補強材位置(必ず入れる)

ねじ位置については下記URL内の「ねじ位置情報」をご覧ください。
 [URL]
<http://search.toto.jp/contents/navi/construction/wl/default.htm>

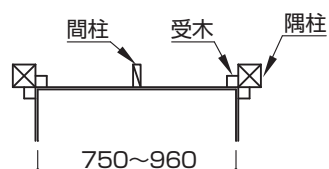


大便器キャビネット部

【後壁について】

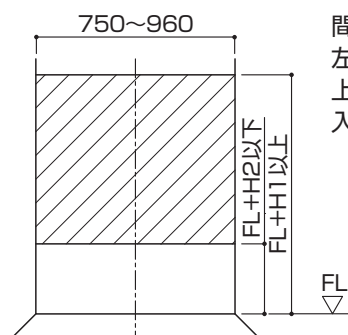
壁裏補強なしの場合

- 大便器キャビネットを間柱、受木に固定します。



部屋に間柱および受木が所定の位置にあることを確認してください。

壁裏補強ありの場合



間柱および受木がない場合は、左図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。

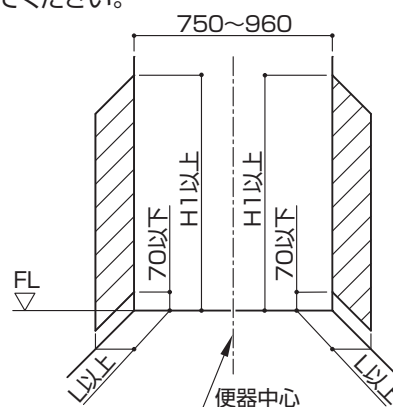
【横壁について】

壁裏補強なしの場合

- 壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション:UGA490B)を使用してください。

壁裏補強ありの場合

- 下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。



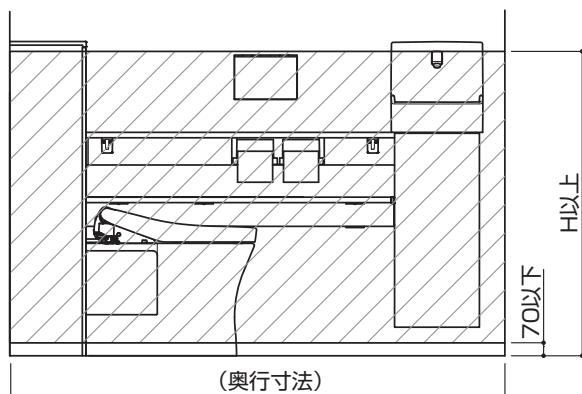
まるごと収納タイプ			スリム収納タイプ		
H1	H2	L	H1	H2	L
1050	200	225	920	200	140

手洗器部

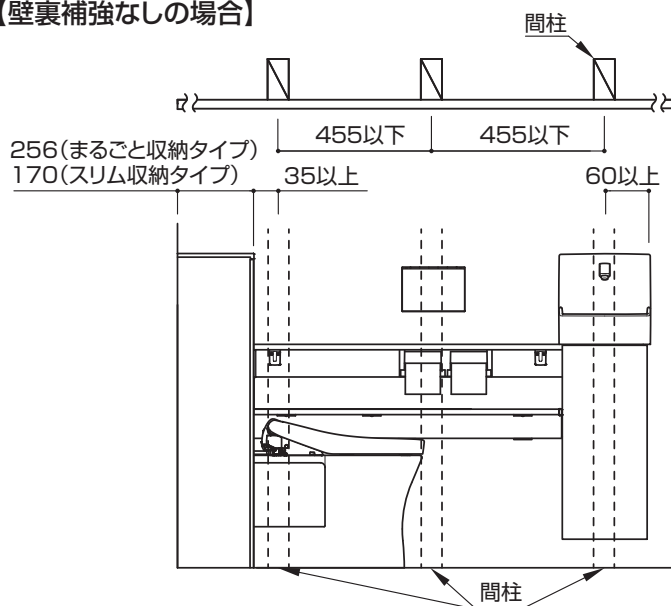
- 下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
 壁裏補強なしで施工をする場合は、間柱にカウンターを固定します。
 部屋に間柱が所定の位置にあることを確認してください。
- 間柱以外の壁裏補強のない壁面には、ボードアンカー(オプション:UGA490B)を使用してください。

【壁裏補強ありの場合】

H	
Mサイズ	Sサイズ
750	1030



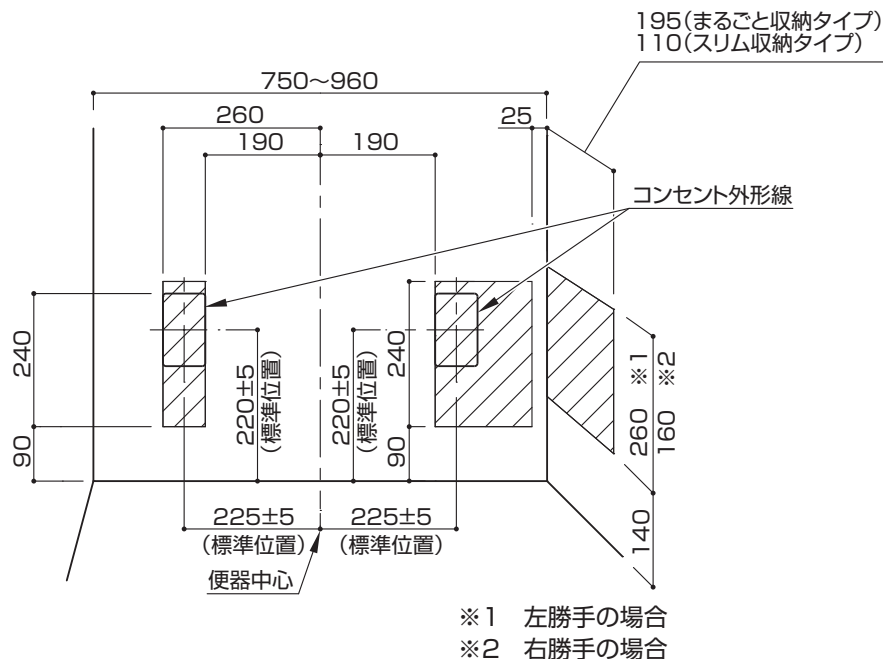
【壁裏補強なしの場合】



間柱に2本以上固定できることを確認してください。

コンセント設置位置 大便器キャビネット部(水抜方式の自動水栓の場合)

- ・コンセントは接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを2カ所設置してください。
- ・既存のコンセントを使用する場合は、下記の斜線範囲内にコンセントの外形が納まることを確認してください。
- ・新規に設置する場合は、下図の「標準位置」に設置してください。
- ・向かって右側にエンドパネルを使用する場合は、横壁のコンセントは使用できません。
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- ・コンセントは給水管の下にならない位置に設置してください。

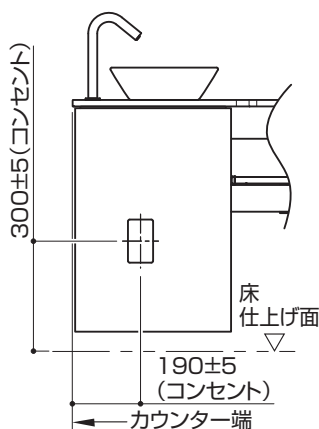


コンセント設置位置 手洗器部(電気温水器付自動水栓の場合)

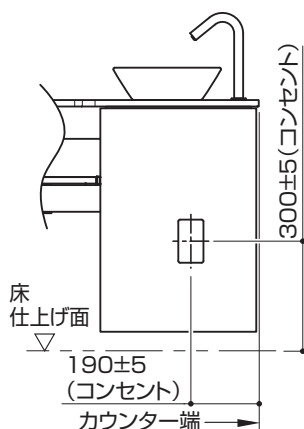
- ・あらかじめ手洗器キャビネット内に別途接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを、大便器キャビネット内のコンセントとは独立システムで取り付けておいてください。
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。

Mサイズ

【左勝手の場合】

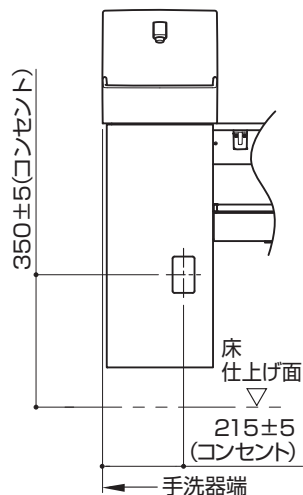


【右勝手の場合】

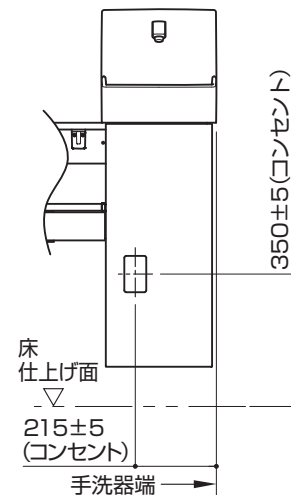


Sサイズ

【左勝手の場合】



【右勝手の場合】



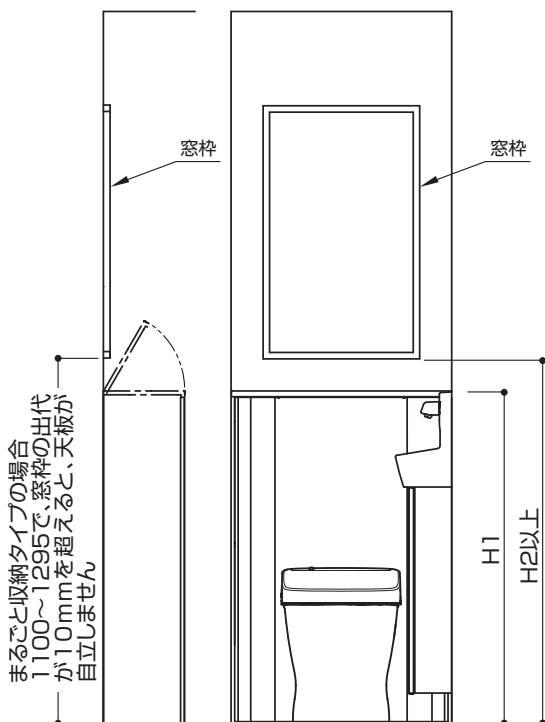
8 幅木

- ・幅木の大きさは、高さ100mm以下、厚さ10mm以下としてください。
- ・本商品は、幅木カット不要で設置できます。

9 窓枠など

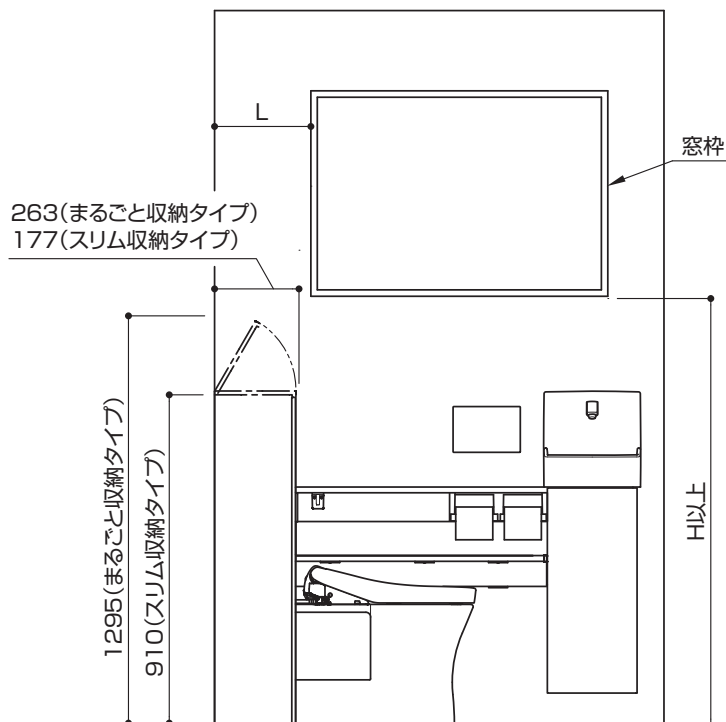
- ・周辺部材（鏡・手すりなど）を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
- ・壁に窓枠や腰壁の笠木などの突起物などがある場合、下図のような制約が付きます。事前に製品と干渉しないよう窓枠の位置を設定してください。

大便器後ろ壁に窓がある場合



タイプ	まるごと収納タイプ		スリム収納タイプ	
	H1	H2	H1	H2
Mサイズ	1050	1100	910	930
Sサイズ	1050	1100	910	930

大便器横壁に窓がある場合



タイプ	まるごと収納タイプ		スリム収納タイプ	
	L=300以上	L=300未満	L=210以上	L=210未満
	H			
Mサイズ	890	1330	890	930
Sサイズ	1090	1330	1090	1090

図はSサイズまるごと収納タイプの天板の開き方を示しています。

10 必要工具

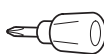
※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。



電動ドライバー
・#2ビット(65mm・200mm)
・#3ビット(200mm)



のこぎり



スタビードライバー
#2ビット



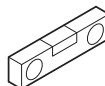
ドライバー
#2ビット
(65mm・200mm)



電動ドリル
φ3、φ4、φ4.5、φ5、φ9



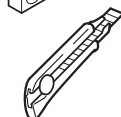
シリコン系
シール剤



水準器

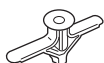


ドライバー
(給水フィルター清掃用)



カッター

11 壁裏補強材なしの場合のオプション品



ボードアンカー
(品番:UGA490B 50個入)

※タイプ・現場状況により必要数量が異なります。